



## 産業ガスレポート

Vol. 37

2017年 秋号



一般社団法人  
日本産業・医療ガス協会



# 産業ガスレポート vol.37 2017年 秋号

## CONTENTS

平成29年度 定時総会 会長挨拶	1
産業ガス部門 新役員	4
産業ガス部門 評議員・顧問	5
産業ガス部門 組織表	6
常置部会・委員会・ワーキング(WG)名簿	7
産業ガス部門 事務局	17
平成29年度 定時総会	
JIMGA 医療・産業ガス合同セミナー	18
定時総会	19
平成29年 表彰式	20
懇親会	24
平成28年度 事業報告	30
平成28年度 会議開催記録	36
平成29年度 事業計画	48
会員の現状、今後の主要日程	54
エッセイ	55
技術・国際ニュース	57
地域本部の活動報告	
北海道地域本部	63
東北地域本部	67
関東地域本部	73
東海地域本部	81
北陸地域本部	93
近畿地域本部	96
中国地域本部	102
四国地域本部	110
九州地域本部	115
統計データ一覧	122
編集後記	135

## 会長挨拶

間 邦司



平成29年度JIMGA定時総会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は大変お忙しい中、多数の方々にご参加賜り誠にありがとうございます。また、日頃はJIMGAの活動にご理解、ご協力を賜りまして、この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。

昨年末から今年にかけて東北、北海道、北陸、九州と鳥インフルエンザが流行しましたが、各地域の会員の皆様の迅速な対応により、被害の拡大もなく、時間内での防疫措置を完了することができました。これも普段から取り組まれている行政との協定の締結やマニュアルの整備、訓練等の賜物と思っています。

こういった状況の中で今年も半年が過ぎようとしていますが、先日発表された1月～3月のGDPは年率換算で1.0%の成長ということでした。5四半期つまり1年3ヵ月間連続のプラス成長ということで、言い方によっては景気は緩やかな回復基調にあるということですが、実感としては景気の回復を感じるほどではないと思います。

6月に入りJIMGAの統計データが公表されました。液化酸素の販売量は757百万 $\text{m}^3$ で昨年比102%と若干増加しました。昨年は前年比100%+ $\alpha$ 程度でした。10年前の2007年はこの

業界にとって販売量がピークとなりました。その後、リーマンショックや東日本大震災があり、2009年から2011年はピーク時の80%台、ここ数年は2007年当時の70%程度で推移し、酸素については販売量が少しずつ減少しています。液化窒素は販売量が2,145百万 $\text{m}^3$ と、昨年比100.9%と若干のプラスでした。ここ数年は前年比100%+ $\alpha$ 程度で推移しています。2011年は2007年比90%程度であったものが、ここ5年くらいは80%台に低下し、昨年度は2007年比で82%となりました。アルゴンは181百万 $\text{m}^3$ で前年比99.3%となりました。2007年比では2008、2009年に80%台に低下し、2011年以降70%台で推移しています。昨年度は2007年比75.1%となりました。2007年比は、酸素が70%、窒素が80%、アルゴンが75%という状況です。

炭酸ガスは752千tで前年比102.7%でした。2009年に83%程度となりましたが、ここ3年は100%+ $\alpha$ で推移していきまして、2007年と比べますと92%程度の水準となっています。アセチレンは9千9百tと、初めて1万tを割り込みました。前年比では95.0%です。2009年に2007年比75%まで一気に低下しました。ここ数年、前年割れが続き、とうとう1万tを割り、2007年に比べ56%という販売量になってしまいました。

JIMGAの統計には液化ガスの他にパイピン

グとシリンダーの数値もありますが、さらに問題なのはシリンダーで、2007年比で酸素は60%、窒素は45%、アルゴンは60%と、大体半分ぐらいの出荷量となっています。5四半期連続プラスといわれても、なかなか実感できないのも仕方がないと思います。

特に、シリンダー需要が落ち込むということは、単位あたり使用量の小さい産業の需要が減少しているということで、これが何を意味するかは良くお分かりだと思います。さらに、産業ガス事業はパイピング、液、シリンダー、いずれも資本集約型の事業であり、一定の需要量が確保できなければ事業として存続し得なくなる可能性があり、非常に厳しい状況だと思います。オリンピックの費用負担も決まりつつある一方、豊洲市場への移転問題も騒がれている中、種々のプロジェクトがゆっくりではあるが立ち上がってきていますので、今後の経済復興、成長戦略に期待したいと思っています。

我々を取り巻く情勢はこのように厳しいわけですが、業界にとって大きな問題は二つあり、従来から申し上げているとおり、一つは電力料金の問題、二つ目は消費税の転嫁の問題です。

まず電力料金の問題として、平成23年3月に比べ、再生可能エネルギー固定価格買取制度、いわゆるFITの賦課金の負担が年間93億円に達しています。当初、1kWhあたり0.22円であった賦課金自体も今年2.64円と10倍以上になっています。現在、この負担の80%を減免されていますが、昨年はFITの制度見直しが行われ、減免制度も合わせて見直されました。これに対し我々は日本経済を下支えしている電力多消費産業として、輸出産業の国際競争力を維持できるような電力代を実現して欲しいとして、安全が確認された原子力発電所を稼働し、安価な電力を供給して欲しいと要望しております。減免の対象はこれから毎年見直されることとなりますので、JIMGAとして電力多消費産業10団体と一緒に政府、関係省庁への陳情、意見

広告の掲載を行い、電力多消費産業に対する負担軽減要望を今後も継続して行っていきたいと思います。

もう一つの消費税の問題については、ご承知のとおり、本年4月からの予定となっていた消費税10%への増税が、平成31年10月へと先送りとなりました。これに伴い、消費税の転嫁・表示カルテルの取り扱い等を定めた消費税転嫁対策特別措置法の失効期限も平成31年9月末から平成33年3月末へと延長されました。このため当協会は、公正取引委員会に届け出ている転嫁・表示カルテルの基準の有効期限を特別措置法に合わせ平成33年3月末へと延長するとともに、各地域本部の消費税調査会には継続して活動していただき、引き続き消費税の転嫁状況等を注視してまいります。

医療部門につきましては、いわゆる2025年問題、つまり団塊の世代が75歳以上となる高齢化問題が喫緊の課題だとされています。行政は「地域共生社会」と銘打って、現在の医療システムを大きく変えようとしています。その中には4つの医療機能毎に病院を分類して、それぞれの病院の機能にあった商品の共同購入、ベッド数の融通実施等々を行おうとしています。これは私たちの事業を大きく揺るがす可能性がありますので、注視しながら対応していく必要があります。

具体的な医療ガス部門の今期方針は、まず「安全推進・事故防止」について、医療機関での医療事故の撲滅を目指して、本年度も医療従事者を対象とした「医療ガス保安講習会(草の根)」を17都道府県で開催する予定です。さらに今年は、この講師の研修会も開催します。「医療ガス容器保安対策指針」推進については、「納入月ラベル」、「容器点検キャンペーン」、「貸借契約の推進」を進めます。先程、セミナーにて納入月ラベルの紹介がありましたが、この定着を進めます。また、医療ガス誤認防止策の定着、在宅酸素療法の火災事故の再発防止について対応します。

二番目に、法・規制への対応につきましては、医療ガス設備の保安管理を定めている715通知について、改正通知の早期発出の要望継続と、封キャップの実用化への取り組みを強化していきます。

災害時協定の充実促進につきましては、全道府県との協定締結は完了しましたので、実効の上がるマニュアルの整備、備蓄品の管理徹底に力を入れていきます。

MGRの公的地位の向上につきましては、卸売り販売業の営業所管理者の資格要件の一つにすべく行政への働きかけを継続して行っています。

産業ガス部門では、セミナーでも説明されましたが、いよいよ高圧ガス保安のスマート化が動き出しました。4月から新認定事業所制度、つまりスーパー認定事業所および自主保安高度化事業所の運用が開始され、新技術の円滑な導入に関してはファスト・トラック制度の導入や、毒性ガスの規制の見直し等々具体的になりつつあるので、こちらも動向を注視し、適時皆様にお知らせしていきます。

具体的な課題としまして、まず保安の一層の

強化推進につきましては、技術基準の作成およびセミナーを中心として保安の啓発に努めます。産業保安のスマート化では新認定事業所や自主保安高度化事業所制度の運用状況を確認しながら、必要に応じて対応していきます。

それから、容器RFタグの普及と容器保安の確保につきましては、容器管理指針の発行促進、見直しの働きかけ、容器使用料の契約化推進と放置容器の撲滅に注力します。

安全・環境・エネルギー問題への取り組みにつきましては、日本経団連の低炭素社会実行計画のフォローアップ調査を継続します。

国際整合化につきましては、国内規制緩和継続案件に取り組みます。

以上、医療ガス部門、産業ガス部門のテーマを申し上げましたが、高圧ガス事故の撲滅、安全・安心の確立と、業界を取り巻く予断を許さない状況の中で会員各社の皆様から必要とされるJIMGAを目指してまいりたいと思います。

最後になりましたが、本日の定期大会での活発な意見交換とご出席の皆様方の益々のご健勝とそれぞれの会社のご発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



会長挨拶



定時総会の模様

## 産業ガス部門 新役員

(敬称略・順不同)

平成29年7月1日現在

## 理事

代表理事(会長)

間 邦司(はざま くにし)

大陽日酸株式会社

取締役副会長



理事(副会長)

石井 敏康(いしい としやす)

東京ガスケミカル株式会社

代表取締役社長



理事(副会長)

今井 康夫(いまい やすお)

エア・ウォーター株式会社

取締役副会長



理事(副会長)

川本 健一(かわもと けんいち)

大阪ガスリキッド株式会社

代表取締役社長



理事(副会長)

矢原 史朗(やはら しろう)

日本エア・リキード株式会社

代表取締役社長 兼 CEO



理事(副会長)

西村 浩一(にしむら こういち)

昭和電工ガスプロダクツ株式会社

代表取締役社長



理事(副会長)

上羽 尚登(うえは ひさと)

岩谷産業株式会社

取締役副社長 兼 執行役員



専務理事

永江 裕(ながえ ひろし)

日本産業・医療ガス協会



理事(副会長)

小池 英夫(こいけ ひでお)

小池酸素工業株式会社

常務取締役



## 監事

代表監事

柳下 政道(やぎした まさみち)

昭和電工株式会社

執行役員



理事(副会長)

澁谷 信雄(しぶや のぶお)

高圧ガス工業株式会社

代表取締役社長



監事

山本 泰夫(やまもと やすお)

東邦アセチレン株式会社

代表取締役社長



## 産業ガス部門 評議員・顧問

(敬称略・順不同)

平成29年8月1日現在

## 評議員

間 邦司	大陽日酸株式会社 取締役副会長
今井 康夫	エア・ウォーター株式会社 取締役副会長
矢原 史朗	日本エア・リキード株式会社 代表取締役社長 兼 CEO
上羽 尚登	岩谷産業株式会社 取締役副社長 兼 執行役員
小池 英夫	小池酸素工業株式会社 常務取締役 国際部長 兼 ガス部統括
澁谷 信雄	高压ガス工業株式会社 代表取締役社長
石井 敏康	東京ガスケミカル株式会社 代表取締役社長
川本 健一	大阪ガスリキッド株式会社 代表取締役社長
西村 浩一	昭和電工ガスプロダクツ株式会社 代表取締役社長
永江 裕	一般社団法人日本産業・医療ガス協会 専務理事
柳下 政道	昭和電工株式会社 執行役員 情報電子化学品事業部長
山本 泰夫	東邦アセチレン株式会社 代表取締役社長
波多野和彦	エア・ウォーター炭酸株式会社 代表取締役社長
財満 正憲	大陽日酸ガス&ウエルディング株式会社 代表取締役社長
田畑 実	イビデンケミカル株式会社 取締役 ガス事業部長
片村 浩一	昭和電工株式会社 情報電子化学品事業部 兼 産業ガス事業部 担当部長
高木 正治	大陽日酸株式会社 執行役員 産業ガス事業本部副本部長
北森 一孝	株式会社A D E K A 取締役 兼 執行役員 化学品営業本部長
津吉 学	岩谷産業株式会社 執行役員 産業ガス・機械事業本部 水素本部 水素ガス部長
西間木邦夫	昭和電工株式会社 産業ガス事業部 顧問
永田 研二	大陽日酸株式会社 常務執行役員 産業ガス事業本部長
松原 幸男	エア・ウォーター株式会社 取締役副社長 産業カンパニー長
曾我部 康	エア・ウォーター株式会社 常務取締役 北海道支社長
坂本 雅博	大陽日酸株式会社 常務執行役員 東北支社長
谷代 進	東邦アセチレン株式会社 代表取締役専務 専務執行役員 営業本部長
西田 猛志	エア・ウォーター株式会社 関東支社 次長
佐波 充	相模アセチレン株式会社 代表取締役
藤田 弘	日本エア・リキード株式会社 工業事業本部 ネットワーク事業部 中部支社 支社長
飯田 哲郎	名古屋酸素株式会社 代表取締役社長
谷屋 五郎	宇野酸素株式会社 代表取締役社長
上田 恭久	岩谷産業株式会社 常務執行役員 近畿支社長
大岡 久晃	株式会社大岡酸素商会 代表取締役会長
西村 浩和	エア・ウォーター株式会社 執行役員 中・四国支社長
藤井 基博	藤井商事株式会社 代表取締役会長
野村 茂	土佐酸素株式会社 代表取締役社長
大橋 正明	四国アセチレン工業株式会社 代表取締役社長
栗下 敏一	大陽日酸株式会社 執行役員 九州支社長
中村 英己	エア・ウォーター株式会社 執行役員 九州支社長

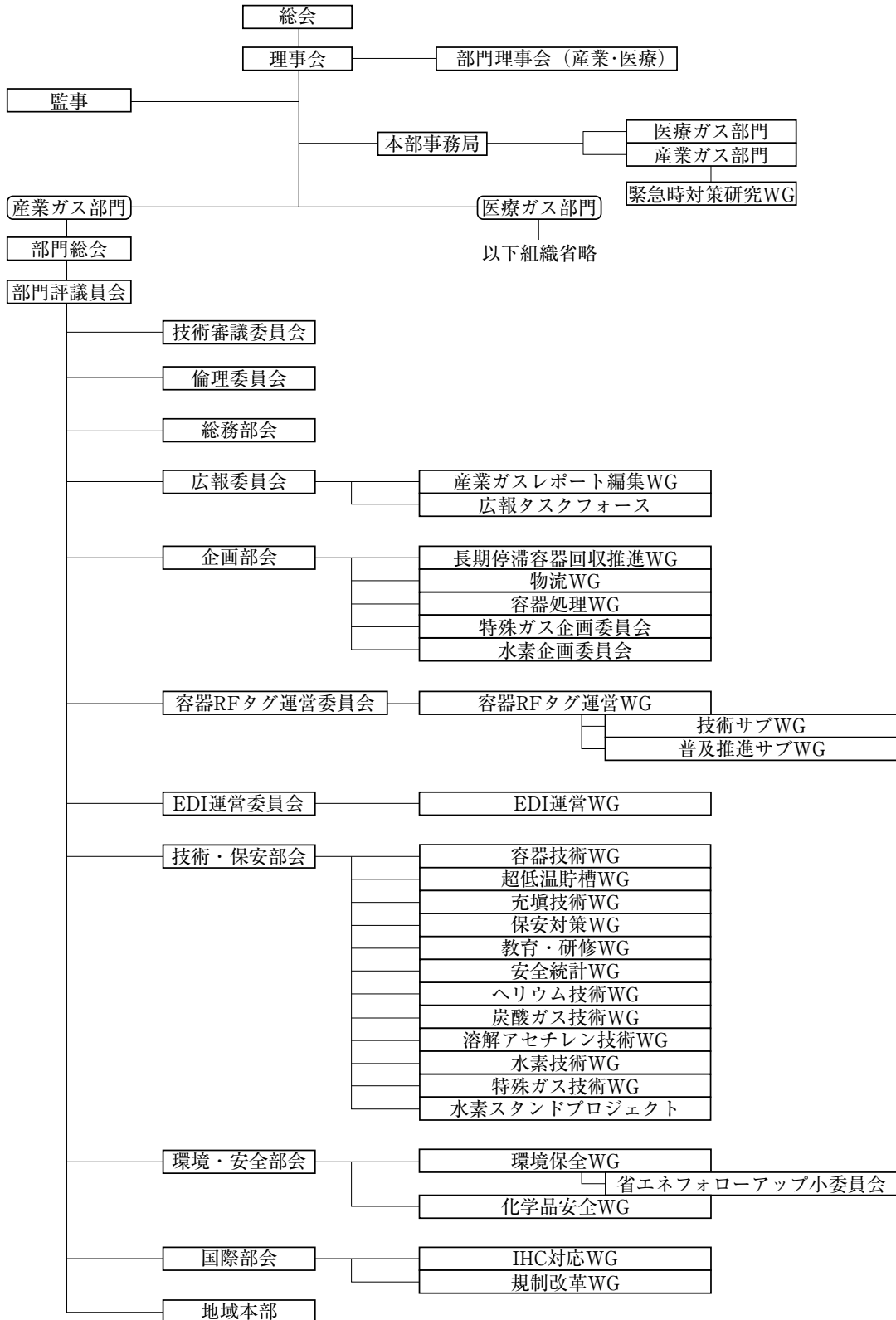
## 顧問

青木 弘	エア・ウォーター株式会社 名誉会長
於勢好之輔	大陽日酸株式会社 顧問
田口 博	大陽日酸株式会社 顧問
豊田 昌洋	エア・ウォーター株式会社 代表取締役会長・CEO



# 産業ガス部門 組織表

平成29年7月1日現在



## 常置部会・委員会・ワーキング（WG）名簿（敬称略・順不同）

平成29年8月1日現在

### 総務部会

部会長	今井 康夫	エア・ウォーター(株)	取締役副会長
副部会長	垣見 康浩	エア・ウォーター(株)	執行役員 社長室 関連事業企画部長
副部会長	福田 浩	太陽日酸(株)	産業ガス事業本部 管理統括部長
委員	園畑 瑞穂	高圧ガス工業(株)	営業管理部長 兼 関係会社室長
委員	堀口 誠	岩谷産業(株)	常務取締役 産業ガス・機械事業本部長
委員	中尾幹一郎	大阪ガスリキッド(株)	取締役 企画部長
委員	福澤 秀志	東邦アセチレン(株)	取締役執行役員 経営企画・連結経営部長 兼 内部統制委員長 兼 コンプライアンス委員長
委員	白井 賢司	昭和電工(株)	基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チーム 兼 RCチーム マネージャー
委員	富岡 恭三	小池酸素工業(株)	取締役 管理部長
委員	青山 俊	東京ガスケミカル(株)	取締役 常務執行役員
委員	豊山 俊	日本エア・リキード(株)	広報部長
委員	宮本 高	昭和電工ガスプロダクツ(株)	執行役員 管理本部 総務部長

### 広報委員会

委員長	川本 健一	大阪ガスリキッド(株)	代表取締役社長
副委員長	於勢 久卓	太陽日酸(株)	管理本部 広報・IR部長
副委員長	井上喜久栄	エア・ウォーター(株)	執行役員 社長室 広報・IR部長 兼 東京広報室長
副委員長	豊山 俊	日本エア・リキード(株)	広報部長
委員	堀口 誠	岩谷産業(株)	常務取締役 産業ガス・機械事業本部長
委員	鈴木 欣秀	(株)トリケミカル研究所	管理部 部長 総務課 課長
委員	青山 俊	東京ガスケミカル(株)	取締役 常務執行役員
委員	池田 佳弘	高圧ガス工業(株)	理事 東京事務所 所長代理 兼 総務部長
委員	森下 克則	小池酸素工業(株)	ガス部 次長
委員	道脇 悟	日本液炭(株)	管理本部 総務・人事部長 兼 人事課長
委員	石岡 信也	昭和電工ガスプロダクツ(株)	経営企画部 主事
委員	府川 澄雄	(株)鈴木商館	取締役 管理本部 副本部長
委員	河島修一郎	帝人ファーマ(株)	在宅医療事業本部長付 特命プロジェクト 担当部長

### 広報委員会 産業ガスレポート編集WG

WG長	於勢 久卓	太陽日酸(株)	管理本部 広報・IR部長
委員	鎌田 暁子	太陽日酸(株)	管理本部 広報・IR部 広報・IR課長
委員	荒谷 幸治	エア・ウォーター(株)	社長室 広報・IR部 課長
委員	野田 優子	エア・ウォーター(株)	東京広報室 課長
委員	豊山 俊	日本エア・リキード(株)	広報部長
委員	永田 敦子	日本エア・リキード(株)	広報部 マネージャー
委員	川井 幸輔	岩谷産業(株)	産業ガス・機械本部 工業ガス部 シニアマネージャー
委員	鈴木 欣秀	(株)トリケミカル研究所	管理部 部長 総務課 課長
委員	道脇 悟	日本液炭(株)	管理本部 総務・人事部長 兼 人事課長
委員	石岡 信也	昭和電工ガスプロダクツ(株)	経営企画部 主事

**広報委員会 広報タスクフォース**

委員	川井 幸輔	岩谷産業(株) 産業ガス・機械本部 工業ガス部 シニアマネージャー
委員	鎌田 暁子	大陽日酸(株) 管理本部 広報・IR部 広報・IR課長
委員	野田 優子	エア・ウォーター(株) 東京広報室 課長
委員	永田 敦子	日本エア・リキード(株) 広報部 マネージャー

**企画部会**

部会長	小池 英夫	小池酸素工業(株) 常務取締役 国際部長 兼 ガス部統括
副部会長	松重 晴彦	日本エア・リキード(株) リスクマネジメント本部長
副部会長	町頭 禎之	岩谷産業(株) 常務執行役員 産業ガス・機械本部 副本部長 兼 代理店部長
水素企画委員長	津吉 学	岩谷産業(株) 執行役員 産業ガス・機械事業本部 水素本部 水素ガス部長
委員・特殊ガス企画委員長	片村 浩一	昭和電工(株) 情報電子化学品事業部 部長
委員	松原 幸男	エア・ウォーター(株) 取締役副社長 産業カンパニー長
委員・容器処理WG長	林 智志	小池酸素工業(株) 取締役 ガス部長
委員	黒木 幹也	高圧ガス工業(株) 専務取締役 経営企画本部長 兼 ガス事業本部長 兼 東京事務所長
委員	永田 研二	大陽日酸(株) 常務執行役員 産業ガス事業本部長
委員	高野 義文	東京ガスケミカル(株) 取締役 産業ガス業務部長
委員	清水 謙司	大阪ガスリキッド(株) 常務取締役 粉体ビジネス部、ガス製造部担当
委員	石岡 信也	昭和電工ガスプロダクツ(株) 経営企画部 主事
委員	秋山 利一	東邦アセチレン(株) 執行役員 産業機材営業部長
長期停滞容器回収推進WG長	川崎 透	大陽日酸(株) 産業ガス事業本部 企画・特販事業部長
物流WG長	上野 保	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 エアガス部 課長

**企画部会 長期停滞容器回収推進WG**

WG長	川崎 透	大陽日酸(株) 産業ガス事業本部 企画・特販事業部長
委員	林 智志	小池酸素工業(株) 取締役 ガス部長
委員	中内 寛文	日本液炭(株) 経営企画室 部長
委員	和田 彰	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 東京営業部長
委員	平野 正博	エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部 安全・品質保証部長
委員	黒木 幹也	高圧ガス工業(株) 専務取締役 経営企画本部長 兼 ガス事業本部長 兼 東京事務所長
委員	松澤 義明	高千穂商事(株) 本社営業部 次長
委員	川井 幸輔	岩谷産業(株) 産業ガス・機械本部 工業ガス部 シニアマネージャー

**企画部会 物流WG**

WG長	上野 保	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 エアガス部 課長
委員	伊藤 弘文	日本エア・リキード(株) 工業事業本部 バルクサプライチェーン統括部 物流プロジェクト部 部長
委員	宮原 誠一	大陽日酸(株) 生産・物流本部 ロジスティクスセンター所長
委員	木村 伸哉	岩谷産業(株) 業務部 部長 物流担当
委員	三浦 浩	昭和電工ガスプロダクツ(株) 業務部長
委員	高橋 将智	エア・ウォーター炭酸(株) 営業部 営業企画グループ業務担当課長
委員	水口 宏之	日本液炭(株) 炭酸事業本部 業務・物流部長

## 企画部会 容器処理WG

副部会長	松重 晴彦	日本エア・リキード(株)	リスクマネジメント本部長
WG長	林 智志	小池酸素工業(株)	取締役 ガス部長
委員	鈴木 康春	(株)新東	取締役会長 [全国高圧ガス溶材組合連合会 保安委員長]
委員	関口 武尚	一般社団法人全国高圧ガス溶材組合連合会	事務局長
委員	伊藤知佳子	(株)伊藤高圧瓦斯容器製造所	代表取締役社長 [全国高圧ガス容器検査協会 理事]
委員	飯島 孝文	(株)旭製作所	容器技術部 [高圧容器工業会]
委員	鈴木 宏之	(株)鈴木商館	取締役 営業副本部長
委員	和田 彰	エア・ウォーター(株)	産業カンパニー 産業ガス関連事業部 東京営業部長
委員	万木 啓司	大陽日酸(株)	産業ガス事業本部 企画・特販事業部 特販営業部 シリンダーガス営業課長

## 企画部会 水素企画委員会

委員長	津吉 学	岩谷産業(株)	執行役員 産業ガス・機械事業本部 水素本部 水素ガス部長
副委員長	西間木邦夫	昭和電工(株)	産業ガス事業部 顧問
副委員長	永田 研二	大陽日酸(株)	常務執行役員 産業ガス事業本部長
副委員長	松原 幸男	エア・ウォーター(株)	取締役副社長 産業カンパニー長
幹事	成田 昌信	尼崎水素販売(株)	代表取締役社長
代表者	西村 長之	新潟水素(株)	代表取締役社長
代表者	高嶋 正次	伊藤忠工業ガス(株)	代表取締役社長
代表者	中牟田正彦	岩谷瓦斯(株)	専務取締役 ガス事業部長
代表者	道志 年章	エア・ウォーター・ハイドロ(株)	代表取締役社長
代表者	小出 哲也	新日鉄住金化学(株)	コールケミカル事業部 ガス部長
代表者	鈴木 慶彦	(株)鈴木商館	代表取締役社長
代表者	山田 容敬	東亜テクノガス(株)	代表取締役社長
代表者	前田 篤史	東曹ダイスイ(株)	取締役
代表者	田中 英行	東邦アセチレン(株)	常務取締役 常務執行役員 生産・技術本部長 兼 多賀城工場長
代表者	藤内 治敏	福岡酸素(株)	代表取締役社長
代表者	森本 直和	北酸高圧瓦斯(株)	代表取締役社長
代表者	尾川 知	丸由工材(株)	専務取締役
代表者	佐藤 昭彦	(株)渡商会	取締役

## 企画部会 特殊ガス企画委員会

委員長	片村 浩一	昭和電工(株)	情報電子化学品事業部 兼 産業ガス事業部 担当部長
副委員長	高木 正治	大陽日酸(株)	執行役員 産業ガス事業本部 副本部長
副委員長	藤澤 茂樹	(株)ADEKA	取締役 兼 執行役員 化学品営業本部長
代表者	阿部 友紀	関東電化工業(株)	営業本部 精密化学品第2部長
代表者	岩崎 幸治	宇部興産(株)	機能品・ファインカンパニー ファインケミカルビジネスユニット 高純度化学薬品グループリーダー
代表者	松澤 義明	高千穂化学工業(株)	カスタマーサービスセンター室次長
代表者	池谷 幹夫	ジャパンファインプロダクツ(株)	専務取締役
代表者	七井 秀寿	セントラル硝子(株)	電子材料営業部長
代表者	田村 篤史	東亜合成(株)	高純度無機化学品部 課長
代表者	菅原 久勝	(株)トリケミカル研究所	常務取締役 技術開発本部長
代表者	和田 光浩	三井化学(株)	機能化学品事業本部 精密化学品事業部 特殊ガスグループ 特殊ガスグループリーダー 部長

## 容器RFタグ運営委員会

委員長	白井 清司	エア・ウォーター(株) 代表取締役社長・COO
委員	及川 哲	エア・ウォーター(株) システム部長
委員	黒木 幹也	高压ガス工業(株) 専務取締役 経営企画本部長 兼 ガス事業本部長 兼 東京事務所長
委員	住友 繁之	高压ガス工業(株) 経営企画本部 システム管理部 次長
委員	木村 秀成	高压ガス工業(株) 情報システム事業本部 システム営業部 部長
委員	津田 健二	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 工業ガス部 (エアガス担当・東京) マネージャー
委員	平井 信一	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 産業機材・ シリンダーガス部長
委員	遠藤 雅人	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 産業機材・ シリンダーガス部 主任
委員	河原 英昭	エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部長
委員	出利葉 繁	エア・リキード工業ガス(株) 事業推進本部 プロダクトマネジメント部 部長
委員	万木 啓司	大陽日酸(株) 産業ガス事業本部 企画・特販事業部 特販営業部 シリンダーガス営業課長
委員	久保 充司	大陽日酸(株) 技術本部 品質保証部長
委員	平尾浩二郎	大陽日酸(株) メディカル事業本部 バイオ・メディカル事業部 品質・安全管理部 品質保証課長
委員	長谷川正泰	小池酸素工業(株) ガス部 技術開発グループ 課長
委員	田中 誠	日本液炭(株) 経理部長 兼 情報システム部長
委員	三戸 勇一	(株)巴商会 環境安全部 容器管理課 課長
委員	伊藤知佳子	(株)伊藤高压瓦斯容器製造所 代表取締役社長 [全国高压ガス容器検査協会 理事]
技術担当委員	村上 泰之	岩谷情報システム(株) 理事 技術本部 副本部長
技術担当委員	佐々木陽一	岩谷情報システム(株) 事業本部 第二事業部 開発部 開発課 課長代理

## 容器RFタグ運営WG

WG長	及川 哲	エア・ウォーター(株) システム部長
委員	住友 繁之	高压ガス工業(株) 経営企画本部 システム管理部 次長
委員	木村 秀成	高压ガス工業(株) 情報システム事業本部 システム営業部 部長
委員	津田 健二	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 工業ガス部 (エアガス担当・東京) マネージャー
委員	平井 信一	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 産業機材・ シリンダーガス部長
委員	遠藤 雅人	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 産業機材・ シリンダーガス部 主任
委員	河原 英昭	エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部長
委員	出利葉 繁	エア・リキード工業ガス(株) 事業推進本部 プロダクトマネジメント部 部長
委員	万木 啓司	大陽日酸(株) 産業ガス事業本部 企画・特販事業部 特販営業部 シリンダーガス営業課長
委員	久保 充司	大陽日酸(株) 技術本部 品質保証部長
委員	平尾浩二郎	大陽日酸(株) メディカル事業本部 バイオ・メディカル事業部 品質・安全管理部 品質保証課長
委員	石黒 和也	小池酸素工業(株) ガス部 技術開発グループ
委員	三戸 勇一	(株)巴商会 環境安全部 容器管理課 課長
委員	伊藤知佳子	全国高压ガス容器検査協会 理事 (株)伊藤高压瓦斯容器製造所 代表取締役社長
委員	村上 泰之	岩谷情報システム(株) 理事 技術本部 副本部長

委員 佐々木陽一 岩谷情報システム(株) 事業本部 第二事業部 開発部 開発課 課長代理

### 容器RFタグ技術サブWG

サブWG長 佐々木陽一 岩谷情報システム(株) 事業本部 第二事業部 開発部 開発課 課長代理  
委員 村上 泰之 岩谷情報システム(株) 理事 技術本部 副本部長  
委員 樋渡 英一 大陽日酸(株) 経営企画室 情報システム部 基幹・業務システム推進課長  
委員 木村 秀成 高圧ガス工業(株) 情報システム事業本部 システム営業部 部長  
委員 熊石 貴弘 エア・ウォーター・ソフテック(株) 大阪事業部  
事業システムグループ グループリーダー

### 容器RFタグ普及推進サブWG

サブWG長 万木 啓司 大陽日酸(株) 産業ガス事業本部 企画・特販事業部 特販営業部  
シリンダーガス営業課長  
委員 住友 繁之 高圧ガス工業(株) 経営企画本部 システム管理部 次長  
委員 遠藤 雅人 エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 産業機材・  
シリンダーガス部 主任  
委員 津田 健二 岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 工業ガス部  
(エアガス担当・東京) マネージャー  
委員 出利葉 繁 エア・リキード工業ガス(株) 事業推進本部 プロダクトマネジメント部 部長  
委員 石黒 和也 小池酸素工業(株) ガス部 技術開発グループ

### EDI運営委員会

委員長 永田 研二 大陽日酸(株) 常務執行役員 産業ガス事業本部長  
委員 梶田 浩司 大陽日酸(株) 経営企画室 情報システム部長  
委員 金岩 泰樹 日本エア・リキード(株) ITマネジメント部 IT部長  
委員 園田 正樹 岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 調達部 部長  
委員 及川 哲 エア・ウォーター(株) システム部長  
委員 遠藤 裕一 高圧ガス工業(株) 経営企画本部 システム管理部 システム管理課 課長  
委員 佐藤 輝彦 小池酸素工業(株) 管理部 情報システムグループ 課長  
委員 三戸 勇一 (株)巴商会 環境安全部 容器管理課 課長  
委員 上田 智仁 (株)鈴木商館 営業本部 総合営業部 ガスチーム マネージャー

### 技術審議委員会

委員長 矢原 史朗 日本エア・リキード(株) 代表取締役社長  
委員 上羽 尚登 岩谷産業(株) 取締役副社長 兼 執行役員  
委員 石井 敏康 東京ガスケミカル(株) 代表取締役社長  
委員 松重 晴彦 日本エア・リキード(株) リスクマネジメント本部長  
委員 町頭 禎之 岩谷産業(株) 常務執行役員 産業ガス・機械本部 副本部長 兼 代理店部長  
委員 谷澤 博幸 大陽日酸(株) 常務執行役員 技術本部長  
委員 松山 岳之 エア・ウォーター(株) 執行役員 産業カンパニー エレクトロニクス事業部長  
委員 古本 理郎 日本エア・リキード(株) 常務執行役員 次世代スマートオペレーション 担当

### 技術・保安部会

部会長 矢原 史朗 日本エア・リキード(株) 代表取締役社長  
副部会長 松重 晴彦 日本エア・リキード(株) リスクマネジメント本部長  
副部会長 町頭 禎之 岩谷産業(株) 常務執行役員 産業ガス・機械本部 副本部長 兼 代理店部長  
副部会長 谷澤 博幸 大陽日酸(株) 常務執行役員 技術本部長  
容器技術WG長 三宅 博之 大陽日酸(株) 技術本部 本部長附 SHE統括部長  
超低温貯槽WG長 細谷 公憲 エア・ウォーター(株) 産業カンパニー エンジニアリング事業部 課長  
充填技術WG長 田守 里士 岩谷瓦斯(株) ガス事業部 生産部 保安・品質管理担当 シニアマネージャー

保安対策WG長	八幡 剛史	岩谷産業(株) 監査部 部長
教育・研修WG長	中 芳晃	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部 係長
安全統計WG長	前田 和也	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部 課長
ヘリウム技術WG長	谷口 周作	大陽日酸(株) エンジニアリング本部 ガスエンジニアリングセンター (GEC)エンジニアリング部 供給技術課長
炭酸ガス技術WG長	末松 寿	昭和電工ガスプロダクツ(株) 生産本部長付
溶解アセチレン技術WG長	杉岡 孝雄	高圧ガス工業(株) 常務取締役 技術本部長 兼 生産管理部長 兼 品質保証部長
水素技術WG長	片岡 稔治	大陽日酸(株) 開発本部 プロジェクト推進統括部 水素ステーションプロジェクトマネージャー
特殊ガス技術WG長	澁澤 裕二	高千穂化学工業(株) 町田事業所 半導体ガス工場 副工場長

**技術・保安部会 容器技術WG**

WG長	三宅 博之	大陽日酸(株) 技術本部 本部長附 SHE統括部長
委員	澤田 裕一	岩谷産業(株) 技術・エンジニアリング本部 品質保証部 課長代理
委員	菊池 敏明	(株)ハマイ 府中工場 技術開発マネージャー [日本高圧ガス容器バルブ工業会]
委員	曳地 項次	(株)巴商会 環境安全部 情報管理室長
委員	原 利彦	エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部 シリンダーサプライチェーンマネジメント部長
委員	成宮 俊則	高圧ガス保安協会 機器検査事業部 検査企画課

**技術・保安部会 超低温貯槽WG**

WG長	細谷 公憲	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー エンジニアリング事業部 課長
委員	平山 晃生	大陽日酸(株) エンジニアリング事業本部 PEC 設計部 プラント設計課 第一チームリーダー
委員	中村 康弘	日本化学機械製造(株) 執行役員 低温機器班部長 [超低温機器協会]
委員	別府 亮彦	岩谷産業(株) 技術・エンジニアリング本部 エンジニアリング部 (ガス供給技術担当) マネージャー

**技術・保安部会 充填技術WG**

WG長	田守 里士	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 生産部 保安・品質管理担当 シニアマネージャー
委員	農頭 重喜	日本エア・リキード(株) 産業監査部長
委員	谷口 周作	大陽日酸(株) エンジニアリング本部 ガスエンジニアリングセンター (GEC) エンジニアリング部 供給技術課長
委員	前田 和也	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部 課長
委員	熊田 純一	東邦アセチレン(株) 技術部長
委員	吉田 智徳	相模アセチレン(株) 工場長
委員	阿部 久志	大陽日酸(株) 関西支社 技術部長
委員	森本 直和	北酸高圧瓦斯(株) 代表取締役社長
委員	浜本 聖隆	宇野酸素(株) 取締役 技術本部 本部長
委員	笠井 勇人	中部エア・ウォーター(株) 技術グループ グループ長
委員	河野 直史	呉ガスセンター(株) 取締役 工場長
委員	立花 靖司	土佐酸素(株) 常務取締役
委員	長家 茂	福岡酸素(株) 取締役 技術統括部長
委員	石田 恒美	豊田ガスセンター(株) 常務取締役工場長

**技術・保安部会 保安対策WG**

WG長	八幡 剛史	岩谷産業(株) 監査部 部長
-----	-------	----------------

委員	矢内 敏彦	日本エア・リキード(株)	リスクマネジメント本部 安全・環境管理部長
委員	土屋 茂	大陽日酸(株)	技術本部 保安・環境統括部 保安管理部 保安管理課長
委員	吉岡 治夫	エア・ウォーター(株)	コンプライアンスセンター 保安推進部長
委員	木村 直彦	上毛天然瓦斯工業(株)	群馬ガスセンター長

### 技術・保安部会 教育・研修WG

WG長	中 芳晃	エア・ウォーター(株)	コンプライアンスセンター 保安推進部 係長
委員	片村 浩一	昭和電工(株)	情報電子化学品事業部 兼 産業ガス事業部 担当部長
委員	中尾幹一郎	大阪ガスリキッド(株)	取締役 企画部長
委員	古賀 孝之	高圧ガス工業(株)	技術本部 技術部 兼 生産管理部 課長
委員	柴田 善弘	大陽日酸(株)	技術本部 技術管理部 技術教育課長
委員	三浦 章	東邦アセチレン(株)	技術部 課長

### 技術・保安部会 安全統計WG

WG長	前田 和也	エア・ウォーター(株)	コンプライアンスセンター 保安推進部 課長
委員	矢内 敏彦	日本エア・リキード(株)	リスクマネジメント本部 安全・環境管理部長
委員	田中 純一	大陽日酸(株)	技術本部 保安・環境統括部 保安管理部 保安管理課 担当課長
委員	細山田 学	東京炭酸(株)	製造部長 兼 品質保証室長 兼 管理部長
委員	永井 秀行	高圧ガス保安協会	高圧ガス部 事故調査課長 兼 保安業務課

### 技術・保安部会 ヘリウム技術WG

副WG長	白井 賢司	昭和電工(株)	基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チーム 兼 RCチーム マネージャー
委員	豆田 武士	岩谷産業(株)	技術・エンジニアリング本部 プロジェクト部 部長
WG長	谷口 周作	大陽日酸(株)	エンジニアリング本部 ガスエンジニアリングセンター (GEC) エンジニアリング部 供給技術課長
委員	野村三千昭	(株)ジャパンヘリウムセンター	常務補佐
委員	井出 正明	(株)巴商会	環境安全部 ガスターミナル 課長
副WG長	平野 正博	エア・リキード工業ガス(株)	オペレーション本部 安全・品質保証部長
委員	福永 尚玄	日本ヘリウム(株)	取締役
委員	上田 智仁	(株)鈴木商館	営業本部 ガスチーム マネージャー
委員	大川 邦生	日本ヘリウム(株)	総務部長
委員	加藤 要	東京ガスケミカル(株)	企画部 事業推進/経営企画グループマネージャー

### 技術・保安部会 炭酸ガス技術WG

WG長	末松 寿	昭和電工ガスプロダクツ(株)	生産本部長付
副WG長	住浦 康弘	エア・ウォーター炭酸(株)	取締役 品質保証室長 兼 技術部長 兼 生産・技術グループリーダー
副WG長	今村 信夫	日本液炭(株)	執行役員 技術開発本部長 兼 技術管理部長
委員	木村 直彦	上毛天然瓦斯工業(株)	群馬ガスセンター長
委員	澤田 裕一	岩谷産業(株)	技術・エンジニアリング本部 品質保証部 課長代理
委員	矢田 潔	近畿炭酸(株)	技術部長
委員	細山田 学	東京炭酸(株)	製造部長 兼 品質保証室長
委員	長谷川光一	知多炭酸(株)	本社工場長
委員	市川 敏之	宇部興産(株)	工業製造グループリーダー
委員	翁長 健	(株)おきさん	取締役
委員	石本 範章	共同炭酸(株)	主任
委員	西川 隆浩	高圧ガス工業(株)	神奈川工場長
委員	矢島 弘	国際炭酸(株)	工場長 兼 製造課長



委員	松葉 昇	大洋化学工業(株) 工場長
委員	山田 修三	東亜テクノガス(株) 取締役 技術統括部長
委員	加藤 要	東京ガスケミカル(株) 企画部 事業推進／経営企画グループマネージャー
委員	田中 伸一	福岡酸素(株) 保安管理部 課長
委員	内田 睦	大阪ガスリキッド(株) ソリューション開発部長

**技術・保安部会 溶解アセチレン技術WG**

WG長	杉岡 孝雄	高圧ガス工業(株) 常務取締役 技術本部長 兼 生産管理部長 兼 品質保証部長
副WG長	斎藤 祐輝	東邦アセチレン(株) 上席執行役員
委員	真藤 英明	関東アセチレン工業(株) 取締役 工場長
委員	茨木 隆之	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 業務部 溶断ガス担当部長
委員	新谷 和也	大陽日酸ガス&ウエルディング(株) 技術本部 技術部長
委員	吉田 智徳	神奈川合同アセチレン(株) 取締役工場長
委員	出村 憲二	川口総合ガスセンター(株) 代表取締役社長
委員	堂元 美樹	小池酸素工業(株) 千葉工場長
委員	鋤柄 喜彦	大日本アガ(株) 代表取締役
委員	中西 清三	東海アセチレン(株) 代表取締役社長

**技術・保安部会 水素技術WG**

WG長	片岡 稔治	大陽日酸(株) 開発本部 プロジェクト推進統括部 水素ステーションプロジェクトマネージャー
WG事務局	三宅 一也	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 近畿事業所 業務担当シニアマネージャー 兼 担当課長
WG副事務局	大岡 寛典	大陽日酸(株) エンジニアリング本部 ガスエンジニアリングセンター (GEC) エンジニアリング部 副部長
WG副事務局	鈴木 秀行	昭和電工ガスプロダクツ(株) 生産本部長付 エンジニアリング部 生産基地グループ 兼 建設設備グループ
委員	石井 政行	尼崎水素販売(株) 所長
委員	生原 一樹	伊藤忠工業ガス(株) 技術保安部 部長
委員	岸本 顕嘉	岩谷産業(株) 技術・エンジニアリング本部 水素設備技術部長
委員	時田 豊志和	エア・ウォーター・ハイドロ(株) 技術部長 兼 品質保証部長
委員	丸山 利和	新日鉄住金化学(株) 広畑製造所 技術グループ グループリーダー
委員	大山 裕之	(株)鈴木商館 生産部 部長
委員	山田 修三	東亜テクノガス(株) 取締役技術統括部長
委員	島田 寿郎	東京ガスケミカル(株) メンテナンスサービス部 メンテナンスグループ マネージャー
委員	折尾 美昭	東曹ダイスイ(株) 四日市工場 取締役工場長
委員	三浦 章	東邦アセチレン(株) 生産・技術本部 技術部課長
委員	曳地 項次	新潟水素(株) 環境安全部 情報管理室 室長
委員	那須 昭宣	日本エア・リキード(株) アドバンスト・ビジネス&テクノロジー事業部 事業推進部長
委員	岡 潔	福岡酸素(株) 取締役 管理統括部長
委員	矢郷 篤志	北酸高圧瓦斯(株) 産業ガス事業部 エネルギー推進室長
委員	澤田 庸介	丸由工材(株) 代表取締役社長
委員	安久井 満	(株)渡商会 保安管理部 部長

**技術・保安部会 特殊ガス技術WG**

WG長	澁澤 裕二	高千穂化学工業(株) 町田事業所 半導体ガス工場 工場長
委員 標準ガスチーム長	田中 孝弘	ジャパンファインプロダクツ(株) 小山工場 製造部長

委員	秦 智哉	住友精化(株) 千葉品質保証課 品質保証グループリーダー
委員	松崎 邦雄	高千穂化学工業(株) 町田事業所 計測ガス工場 JCSS校正室 分析責任者 課長
委員	池田 剛	高圧ガス工業(株) 技術本部 理事 技術部長
委員	奥山 高德	高圧ガス工業(株) 滋賀高圧ガス流通センター 製造課 課長
委員	倉本 学	エア・リキード工業ガス(株) 関西工場 スペックガスグループ 主事
委員	上原 伸二	化学物質評価研究機構 東京事業所 化学標準部 技術第一課長
委員	森脇 保志	ジャパンファインプロダクツ(株) 技術サービス部 技術サービス課長
委員	綿貫 耕平	宇部興産(株) 化学カンパニー 電池材料・ファインビジネスユニット 高純度化学薬品グループ 主席部員
委員	片村 浩一	昭和電工(株) 情報電子化学品事業部 兼 産業ガス事業部 担当部長
委員	三澤 一朗	住友精化(株) ガス事業部 開発部長
委員	五十嵐 淳也	セントラル硝子(株) 化成品技術部 課長
委員	村瀬 圭一	日本エア・リキード(株) エレクトロニクス事業本部 アドバンスドマテリアルズ事業部 品質マネジメントグループ グループ長
委員	薄木 瑞代	東亜合成(株) 管理部 品質保証グループ 主事
委員	木曾 幸一	(株)トリケミカル研究所 常勤監査役
委員	谷岡 貴	関東電化工業(株) 技術本部 品質管理部 専任課長
委員	永沢 陽子	三井化学(株) 工業薬品事業部 スタッフグループ 主席部員

## 環境・安全部会

部会長	石井 敏康	東京ガスケミカル(株) 代表取締役社長
副部会長	谷澤 博幸	太陽日酸(株) 常務執行役員 技術本部長
副部会長	坂本 公昭	エア・ウォーター(株) 上席執行役員 産業カンパニー オンサイト事業部長
副部会長	前田 久雄	日本エア・リキード(株) リスクマネジメント本部 IMSマネージャー
副部会長	安藤 憲雄	岩谷産業(株) 常務執行役員 環境保安部長

## 環境・安全部会 環境保全WG

WG長	甲斐 守	太陽日酸(株) 技術本部 保安・環境統括部 環境管理部長
委員	細川 純一	太陽日酸東関東(株) ガスビジネス統括本部 製造技術担当部長
委員	堀内 敏雄	岩谷瓦斯(株) 環境保安部 シニアマネージャー
委員	矢田 潔	大阪ガスリキッド(株) ガス製造部 部長
委員	武内 幸祐	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 環境推進部長 兼 技術管理部長
委員	石垣 克浩	日本エア・リキード(株) ラージインダストリー事業本部 エネルギー管理部長
委員	加藤 要	東京ガスケミカル(株) 企画部事業推進グループマネージャー

## 環境・安全部会 省エネフォローアップ小委員会

リーダー	甲斐 守	太陽日酸(株) 技術本部 保安・環境統括部 環境管理部長
委員	野口 直樹	太陽日酸(株) 生産・物流本部 プロダクト技術部 SC管理課 担当課長
委員	石垣 克浩	日本エア・リキード(株) ラージインダストリー事業本部 エネルギー管理部長
委員	東 秀明	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー オンサイト事業部 和歌山工場長
委員	長井 龍	岩谷産業(株) 技術・エンジニアリング本部 品質保証部 シニアマネージャー

## 環境・安全部会 化学品安全WG

WG長	平野 正	東京ガスケミカル(株) 品質保証部長
委員	桑野 晃一	岩谷産業(株) 技術・エンジニアリング本部 品質保証部 シニアマネージャー
委員	武内 幸祐	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 環境推進部長 兼 技術管理部長

委員	堀内 武浩	昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チーム マネージャー
委員	福田 靖	大陽日酸(株) 技術本部 品質保証部 品質管理課長
委員	三好 伸二	日本エア・リキード(株) 工業事業本部 安全・品質推進部長
委員	長谷川光一	知多炭酸(株) 本社工場長

**国際部会**

部会長	上羽 尚登	岩谷産業(株) 取締役副社長 兼 執行役員
副部会長	松山 岳之	エア・ウォーター(株) 執行役員 産業カンパニー エレクトロニクス事業部長
副部会長	古本 理郎	日本エア・リキード(株) 常務執行役員 次世代スマートオペレーション 担当
委員	野澤 史和	日本エア・リキード(株) エレクトロニクス事業本部 インダストリアル・マネジメント部 部長
委員	山西 剛士	大陽日酸(株) 技術本部 技術標準化推進部 技術標準課 担当課長

**国際部会 IHC対応WG**

WG長	山西 剛士	大陽日酸(株) 技術本部 技術標準化推進部 技術標準課 担当課長
委員	西江 秀夫	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 ヘリウムガス部 部長
委員	町野 彰	東京ガスケミカル(株) 産業ガス生産部長
委員	清水 謙司	大阪ガスリキッド(株) 常務取締役 粉体ビジネス部、ガス製造部担当
委員	竹田 勝	(株)ネリキ 理事 技術部長

**国際部会 規制改革WG**

WG長	野澤 史和	日本エア・リキード(株) エレクトロニクス事業本部 インダストリアル・マネジメント部 部長
委員	本山 満弘	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 生産部 保安・品質管理担当課長 兼 シニアマネージャー
委員	倉田 克哉	岩谷産業(株) 環境保安部 担当部長
委員	浦谷 明弘	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部 部長
委員	曳地 項次	(株)巴商会 環境安全部 情報管理室 室長
委員	久保田裕士	大陽日酸(株) 技術本部 保安・環境統括部長
委員	末松 寿	昭和電工ガスプロダクツ(株) 生産本部長付
委員	日比 勝巳	高千穂商事(株) 海外営業部 貿易部 課長
委員	井口 充弘	高圧ガス保安協会 高圧ガス部

**緊急時対策研究WG**

WG長	岩田 宏之	日本エア・リキード(株) 工業事業本部 バルクサプライチェーン統括部 プロダクトマネジメントグループ 部長
副WG長	鹿子島亮介	カンサン(株) 業務課長
副WG長	佐川 裕海	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 エアガス部
委員	日野 淳	大陽日酸(株) 生産・物流本部 プロダクト管理部 バルクガス計画課長
委員	園田 正樹	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 調達部 部長
委員	奥田 尚希	小池酸素工業(株) ガス部 係長
委員	白井 賢司	昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チーム 兼 RCチーム マネージャー
委員	細川 純一	大陽日酸東関東(株) ガスビジネス統括本部
委員	阿部 朋文	東京ガスケミカル(株) 産業ガス業務部 需給グループ マネージャー

## 産業ガス部門 事務局

平成29年8月1日現在

専務理事	永江 裕
常務執行役員	羽坂 智
常務執行役員	徳富 栄一郎
常務執行役員	保坂 昭一
常務執行役員	大沼 倫晃
常務執行役員 兼 総務部長	山本 泰彦
業務部長(特殊ガス、水素、アセチレン担当)	彦坂 稔
経理部長	渡邊 一也
水素スタンドプロジェクトリーダー	相馬 一夫
水素スタンドプロジェクトサブリーダー	岩井 健
水素スタンドプロジェクトサブリーダー	藤本 祐樹

北海道地域本部	事務局 長	高橋 宏史
東北地域本部	事務局 長	栗橋 健治
関東地域本部	事務局 長	蛭川 剛二
東海地域本部	事務局 長	倉本 明彦
北陸地域本部	事務局 長	中村 孝
近畿地域本部	事務局 長	福本 健一
中国地域本部	事務局 長	高橋 良知
四国地域本部	事務局 長	中村 雅裕
九州地域本部	事務局 長	桑木野 順郎

## 平成29年度JIMGA医療・産業ガス合同セミナー

開催日時：平成29年6月14日(水)13:00～15:00

開催場所：経団連会館

技術・保安部会部会長 矢原 史朗(挨拶要旨)

平素から皆様には、当協会の活動に対し多大なるご理解とご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。



矢原部会長

日常的に高压ガスと接する会員各社におかれましては保安・安全の確保は何よりも優先すべきことであると考えます。自主保安を掲げ、JIMGAのWGは精力的に活動し、これまでに刊行した基準指針類、安全ニュース、DVDやe-ラーニングなどの安全教育ツールは100件を超え、e-ラーニングは累計29,000アクセスを超えています。これらはJIMGA会員各社の大きなご協力とご支援を得て完成したものでございます。誠にありがたく感謝申し上げます。

本日のJIMGAセミナーは5つのテーマで講演していただきます。本日のセミナーが、皆様の日頃の業務のお役にたてることを切に願うところでございます。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いし挨拶に代えさせていただきます。

プログラム

講演1.「水素スタンドプロジェクト進捗状況」

JIMGA 相馬 一夫氏

講演2.「医療ガス容器保安対策の推進」

JIMGA 福盛 康宏氏

講演3.「封キャップの開発」

大陽日酸(株) 中島 昭人殿

講演4.「JIS改正(酸素・アルゴン)」

日本エア・リキード(株) 三好 伸二殿

講演5.「高压ガス保安法関連改正内容について(平成28年11月・平成29年4月改正概要)」

JIMGA 大沼 倫晃氏

以下に、聴講者の皆様からお答えいただいたアンケートの一部を紹介いたします。

「両部門の重要なトピックスが簡潔に説明されていて、分かりやすかった。」

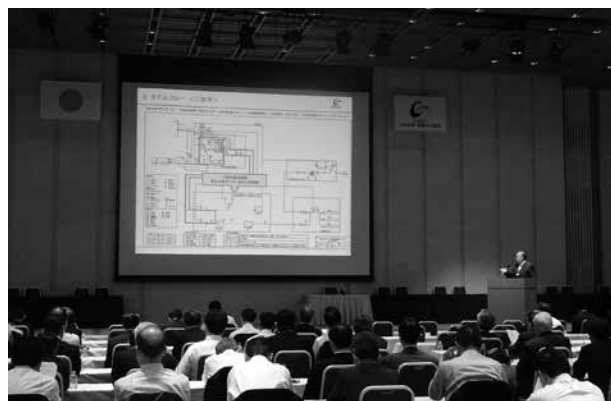
「JIS改正、保安法改正内容について参考になった。」

「改めて活動の進捗、成果がよく分かった。活動のアピールは重要。」

「海外での参考事例(販売、保安など様々な分野)を紹介して欲しい。」

「法改正の内容の説明会を開催いただきたい。」

アンケートへのご協力、ありがとうございました。今後の参考にさせていただきます。



セミナーの様様

# 定時総会

日時：平成29年6月14日(水)15:30～16:38

場所：経団連会館 国際会議場

出席者：議決権総数 1,033個

出席議決件数 795個(委任状を含む)

議長：間 邦司 会長

## 議事

定款21条に基づき総会の開会が宣言された。出席者および委任状を有する代理人の出席者の総数は、議決権総数の過半数以上となっており、定款第23条により本総会が成立していることが事務局より報告された。

間会長が議長席に着き、直ちに議案の審議に入った。定時総会に先立ち、医療ガス部門総会および産業ガス部門総会が開催された。

## <産業ガス部門総会>

### 第1号議案 産業ガス部門評議員選出の件

評議員の所属会社での異動等による退任に伴い、後任として産業ガス部門の評議員6名が推薦され、全員の賛成により承認された。

## <定時総会>

### 第1号議案 平成28年度事業報告及び収支決算の承認を求める件

平成28年度(平成28年4月1日～平成29年3月31日)事業報告および収支決算について、全員の賛成により原案どおり承認された。

### 第2号議案 平成29年度事業計画及び予算(案)の承認を求める件

平成29年度(平成29年4月1日～平成30年3月31日)事業計画および予算(案)について、全員の賛成により原案どおり承認された。

### 第3号議案 評議員、理事及び監事選任の件

退任される評議員の後任として、定款第34条に基づき、部門総会にて選任された医療ガス部門評議員6名、産業ガス部門評議員6名の選任が提案され、全員の賛成により承認された。

平成29年4月4日に逝去された小池哲夫理事および本総会終結の時をもって退任する理事の後任として、次の各位の選任が提案された。全員の賛成により承認され、選任された理事は就任を承諾した。

理事：園田 浩樹、小池 英夫、澁谷 信雄

## 報告事項

事務局より以下の報告があった。

- (1)電力問題への対応
- (2)消費税の動向
- (3)会員の動静
- (4)今後の主要日程

## 閉会

議長は以上で本総会における審議および報告事項を全て終了したことを告げ、16時38分閉会を宣した。



定時総会の模様

## 平成29年 表彰式

6月14日開催の定時総会終了後、表彰式を行いました。表彰式では協会の事業に貢献し顕著な功績をあげた、産業ガス部門・医療ガス部門22の個人および組織の代表者の方々へ、間会長より功

労賞、安全賞として表彰状と記念品が贈呈されました。また会場の皆様より盛大な拍手が送られました。

受賞者の一覧は下記をご参照ください。

### <産業ガス部門>

賞区分	受賞者名(敬称略)	受賞理由
標準化功労賞	保安対策 WG 八幡 剛史(WG長)、 矢内 敏彦、加藤 保宣、 土屋 茂、木村 直彦	高圧ガス関連法案(新認定事業所制度)の改正にあたり、自主保安高度化事業所制度構築について、産業ガス業界にメリットのある制度となるよう要望を取りまとめて提言するなど貢献した。
	化学品安全 WG 平野 正(WG長)、 桑野 晃一、武内 幸祐、 長谷川光一、堀内 武浩、 宮崎 和之、三好 伸二	酸素及びアルゴンのJIS改正にあたり、酸素純度分析計校正用の国家標準の高濃度酸素標準ガスを規格化、アルゴンについてはガス中の窒素測定法として、プラズマ分光分析式窒素分析計による方法を追加した。
	規制改革 WG 野澤 史和(WG長)、 外山 憲一、倉田 克哉、 浦谷 明弘、曳地 項次、 久保田裕士、末松 寿、 日比 勝巳、井口 充弘	長年にわたり規制改革案件として取り組んできた毒性ガスの定義見直しについて、所管官庁と直接意見交換を行い、業界の意見が反映されて改正が成立した。事前に改正の影響を確認したため、業界への影響を最小限とした。
地域活動 功労賞	市村 博 (市村酸素株)	関東酸素工業会、日本産業ガス協会、日本産業・医療ガス協会と、平成11年から長年にわたり地域本部の委員長、副部長、地区代表者、幹事等を務め、地域活動に多大な貢献をした。
	福井 雅則 (高圧ガス工業株)	中国地域本部の技術・保安部会、企画部会、及び傘下のWGを15年以上にわたり熱意をもって牽引した。また他団体の講習会講師や、防災訓練の企画・指導にあたり、地域の技術リーダーとして範となっている。
安全賞	株式会社工藤酸素店	28年間無事故無災害を継続し、全社で保安意識を高め、高圧ガス製造所の保安、輸送時の事故撲滅運動、防災訓練を実施、東北6県での地域活動の功績は大きい。
	株式会社鈴木商館 生産部千葉工場	30年間無事故無災害を継続し、地域の保安防災活動にも積極的に参加するとともに全工場一丸となって保安技術の知識や技能向上に努めている。
	太陽日酸株式会社 中部支社幸田ガスセンター	22年間無事故無災害を継続し、安全意識の浸透・徹底、ユーザーへの保安関連情報の提供、C-TPM活動の推進により、未然に事故を防止している。

賞区分	受賞者名(敬称略)	受賞理由
安全賞	大陽日酸株式会社 中部支社三重ガスセンター	29年間無事故無災害を継続し、安全最優先文化の浸透と徹底、指差呼称の励行や危険予知活動を実施するなど本質安全活動を実践している。
	直江津アセチレン株式会社	42年間無事故無災害を継続し、社内保安技術の向上に努め、地域の保安活動の模範となっている。
	高松帝酸株式会社 多度津事業所	21年間無事故無災害を継続し、ヒヤリハットや危険予知活動の推進を行い、各ユーザーへ講習会を開催するなど保安活動に貢献した。
	株式会社延岡高圧ガスセンター	46年間無事故無災害を継続し、事業所内で安全教育に積極的に取り組むとともに保安意識の向上に努めている。

受賞総数：12件、受賞対象者：23名+受賞事業所：7事業所



表彰式の模様



## &lt;医療ガス部門&gt;

賞区分	受賞者名(敬称略)	受賞理由
業務 功労賞	MGR試験委員会メンバー 大岡 光寿、小泉 和夫、 平林 敏彦、四ノ宮成祥、 野寺 誠、吉岡 早戸	MGR制度の創設時から、制度の確立、講義内容の充実、認定試験の公平性の担保に尽力、10年目を迎え医療ガス部門の事業の大きな柱になっているMGR制度の基盤整備・発展に貢献した。
	容器保安対策指針推進WG 伊達 恒雄(WG長)、 田中 康宏、戸崎 剛、 長谷川弘毅、大竹 清、 北山 敏彦、高橋 進、 藪本 学、杉村 明宏	医療ガス容器の保安管理の徹底に関して「医療ガス容器保安対策指針」の実効化に向けて、「納入月ラベル」「啓発チラシ」「容器貸借契約ひな形」等のツールを準備し、容器管理指針や容器誤認防止策と連動したキャンペーンなど具体的な推進策を策定した。
	MGR委員会 川井 幸輔(委員長)、 大岡 光寿、中島 昭人、 江場 大二、藤田 進、 河島修一郎、丸小 和寿、 加藤 俊康、大塚 太郎	MGR育成の教育研修活動を継続、3年ごとに研修テキストの改訂を行い、MGRを卸売販売業の営業所管理者の資格要件に認定してもらう活動を展開した。
標準化功労賞	品質標準書改訂WG 西本 敬輝(WG長)、 森山 秀樹、長谷川弘毅、 長谷川正泰、古賀 孝之、 早坂 一隆、北村 一巳、 岡村 和也、伊達 恒雄	平成28年改訂の「医療用ガスに関する製造管理及び品質管理の基準」との整合性を図るため、局方酸素等の「品質標準書」(9種類)・「製造委託」(9種類)の改訂に着手し、品質標準書類の改訂版を公開した。



受賞者の皆様

賞区分	受賞者名(敬称略)	受賞理由
災害 功労賞	九州地域本部熊本県支部(※) 代表：熊本医療ガス株式会社	平成28年4月に発生した熊本地震に際して、自ら被災したにも関わらず医療機関の医療ガス設備の保守点検、在宅酸素患者の安否確認と酸素供給等に万全を期し、行政からも深く感謝された。
地域活動 功労賞	渋江 幹男 (中・四国エア・ウォーター株式会社)	20年以上にわたり中国地域本部副本部長と岡山支部長を務め、県との災害時協定締結にも尽力した。
	岩切 充弘 (宮崎酸素株式会社)	20年以上にわたり九州地域本部長を務め、その間協会の副会長・評議員の要職も兼ね、MGR制度の創設、各県との災害時協定の締結などに尽力した。
安全賞	福島酸素株式会社	69年間無事故無災害を継続、東日本大震災時には医療ガス搬送、流失容器の回収処理等に尽力、東北六県広域救援協定にいち早く基金拠出を行った。
	岡谷酸素株式会社 松本営業所	25年間無事故無災害を継続、以前に経験した大地震の再発に備えて医療用酸素充填機能の確保手段を整備し、県内の中核拠点となっている。
	相模アイ・ジー・エス株式会社	20年間無事故無災害を継続、ヒヤリハットの抽出を始めきめ細かい安全活動を実践している。
	サカキ産業株式会社 富山総合ガスセンター	41年間無事故無災害を継続、社内保安技術の向上に努め、地域の事故防止活動をリードしている。
	株式会社大和サンソ	36年間無事故無災害を継続、社内の安全教育を徹底し、地域の保安活動の範となっている。

※九州地域本部熊本県支部：熊本医療ガス(株)、(株)アコー、(資)天草酸素、イワタニ熊本ガスセンター(株)、内村酸素(株)、(株)鶴城サンソセンター、九州エア・ウォーター(株)、熊本酸素(株)、クロックス(株)、大陽日酸(株)、日本エア・リキード(株)、日本ガスケミ(株)、(有)濱野産業、福岡酸素(株)、(有)ミズノ、吉住酸素工業(株)

受賞総数：12件、受賞対象者：35名+受賞社：16社+受賞事業所：5事業所

## 懇親会

日時：平成29年6月14日(水)17:30～19:00

場所：経団連会館

参加人数：約330名

会長挨拶

会長 間 邦司



本日は大変お忙しい中、日本産業・医療ガス協会の定時総会・懇親会にご出席いただきありがとうございます。厚生労働省から神田医局長を始め幹部の方々、経済産業省から佐藤審議官を始め幹部の方々、高圧ガス保安協会から市川会長様と幹部の方々、さらに各関係団体の方々と、多数の皆様にお越しいただきありがとうございます。

今、厚生労働省も経済産業省も大きなかじ取りが必要な時期を迎えていると思いますので、そのあたりのことは後で頂戴するご挨拶で触れていただけるのではないかと思います。

まず、本日の定時総会が無事終了しまして、私どもの提案内容がすべてご承認いただいたことをご報告いたします。

協会の立場から、まず事故の話から始めさせていただきますが、昨年の事故件数は近年では最も多くなっており、保安・安全にますます気を使わねばならないという業界であることは間違いありません。先週、全溶連全国大会で姫路にお邪魔したときに、保安をテーマに色々工夫されたアピールをされており、大変感心いたしました。

全溶連には流通・消費の過程での保安を担っていただいております。当協会は製造の過程での保安を完璧なものにしていくことが役割で、高圧ガス保安協会には、もう少し高い視線で保安についてご指導いただくという役割があると思っております。これら三者がそれぞれの役割を果たしていくことが、全体の保安の効率を上げていくことにつなが

ると考えます。

本日JIMGAの活動方針が決まりましたので、その実現に向けて頑張る所存であります。

皆様にはせっかくご参集いただきましたので、この懇親会を有意義な場としてお過ごしいただくことをお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

ご来賓祝辞

厚生労働省 医政局長

神田 裕二 殿



一般社団法人日本産業・医療ガス協会の定時総会の懇親会の開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

医療の世界では2025年に団塊の世代の方が後期高齢者になるということで、それまでに医療提供体制をできるだけ効率的な体制にしようとしております。今は120数万床ありますが、これから今のまま長く入院されるということでは、あと何十万床か増やさなければとても対応できませんので、高度急性期、急性期、回復期、慢性期といった病床機能ごとにどのくらいの病床数が必要なのか、地域医療構想という形で各都道府県に策定していただくことをお願いしておりました。それが平成28年度中にすべての都道府県で策定が終わりました。これから医療圏ごとに地域医療構想の調整会議の場に病院団体、医師会、各病院、市町村、保険者に入っていただきます。それぞれの病院がどういう機能になっていくのか、また急性期のベッドが多過ぎてその後を受ける回復期、リハビリを担うベッドが足りないという予想にどう対応するのか、そういったことを調整する話し合いがこれから始まっていきます。今後2年間ほどで集中的に各病院の機能の見直しをお願いしている

ところ です。

また今年度は、平成30年度からの医療計画、介護保険事業計画といった医療・介護の世界では非常に大きな計画策定の年度であります。平成30年度から新しい計画が始まるわけですが、従前は医療と介護の計画は別々の法律に基づいて個別に策定されてきました。しかし、先ほど申し上げた地域医療構想に基づきますと、慢性期のベッドの地域差が大きく、例えば長野県と高知県では年齢構造を調整したとしても5倍近い差があるという、なかなか合理的な説明がつかない状況ですので、そういった地域差も解消していこうということになっております。調整が進むと必然的に今まで入院されていた方が慢性期の病院から出ていくということになり、それぞれの地域で暮らすための介護サービス、介護施設、高齢者住宅などの整備が必要になってまいります。その中で在宅医療は重要な要素であり、推定では今の在宅医療の体制に加えてあと30万人くらいの方を受け入れる体制を築いていかなければなりません。

協会の皆様には在宅酸素供給装置の保守点検、医療ガスの保安管理という面で非常にご尽力賜っており、これまで保険医療水準の向上に貢献いただいておりますが、先ほど申し上げた今後2年の間に病院の機能をどうするかといった議論、地域で在宅医療、介護の体制をどう築いていくかという議論がされますので、ぜひ地域における動向にも目を配っていただければと思います。

また、皆様方には災害時において在宅酸素の患者さんの状況をご確認いただいておりますが、行政を通じるよりも迅速に確認していただけるということで東日本大震災や熊本地震の際にもご協力いただき、いち早く情報を提供いただきました。災害拠点病院ですら業務継続計画が策定できていない状況で、今年度研修を行い、診療の継続、燃料等ライフラインの確保などのリスクを洗い出し、その対応策を取りまとめ、特に災害拠点病院

では業務継続計画を今年度中に策定していただくよう取り組んでおります。

皆様方にはこの3月、在宅酸素保守点検事業者の方々の災害時・緊急時の対応方法を手引書にまとめていただきました。今後、首都直下型地震、南海トラフの大地震が想定されています。皆様方には都道府県と「災害時の医療ガス供給協定」の締結や講習会の開催等ご協力いただいておりますが、この度手引書を作成していただいて、私どもも災害時・緊急時の在宅酸素の供給に安心が持て、大変心強く思っております。今後とも皆様方と協力していざという時の医療の確保に尽力してまいります。

医療ガス設備の保安管理は、昭和63年に出した通知で基本的な事項を定められており、医療機器センターが主催する医療ガス設備の保安管理技術者の方々の知識技能の向上を目的とした医療ガス保安管理技術者講習会にも講師を派遣していただくなどご協力いただいておりますが、その通知がかなり古くなってきているということで、ちょうど今その見直しを行っております。その改正の内容を講習会に反映させていけるよう取り組んでいきたいと考えております。

終わりにあたりまして、協会の益々のご発展と本日ご参集の皆様のご健勝ご繁栄を心から祈念申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

#### 経済産業省 大臣官房審議官(製造産業局担当)

佐藤 文一 殿

間 会長はじめ協会および会員各社の皆様には、日頃より産業ガスそして医療ガス事業の発展、振興にご尽力をいただいておりますことに改めて御礼申し上げます。

業界の主要製品である酸素の平成28年の販売量は、前年比では多少伸びて、逆に窒素とアルゴンガスについてはわずかながらの減少と伺ってお



ります。中長期的に見ると東日本大震災後に減り続けた販売量からは多少状況が変わってきた、底を打ったというように伺っています。これも本日も列席の皆様方、特に販売の皆様方のご努力の結果だと思っております。

加えて協会では最近では、酸素ガス、アルゴンガスの品質とお客様の満足度の向上ということで、関連のJIS改訂にも取り組んでおられると聞いております。酸素ガスの標準ガスの規格化、またアルゴンについては分析方法の追加等を行い本年3月に新しいJISを発行され、これもまさに日頃の皆様の活動の成果だと思っております。

また省エネルギーについても、日本経団連の低炭素社会実行計画に参加していただいております。安全、環境、そしてエネルギーの問題に積極的に取り組んでいただいております。化学業界の産業ガスの2015年のCO<sub>2</sub>使用量は対応をしなかった場合と比べると2.5%の減少と目標を上回る結果と伺っており、是非これからも着実な対応をよろしく願いいたします。

6月は会員各社さんは決算や株主総会で大変お忙しい時期かと思えます。政府も色々な報告書あるいはサミットなど国際的イベント、そして国会とまさに今、来年に向けた政策が動き始めようとしています。製造業の関係では、先週ちょうど平成29年度の「ものづくり白書」をまとめさせていただきました。そして閣議決定を行っていただきました。今年の白書では第4次産業革命の方向性とそれを支える人材に焦点を当てています。是非皆様もご一読いただければ大変ありがたいと思っております。これに関連して製造業における、特にIoTの利活用について白書の中で分析しています。昨年12月に実施した調査の結果では、製造現場では前年より26%増えて、約3分の2の企業の皆様がデータ収集を始めているということでございます。一方で、実はそれを活用するというものはその半分くらいということで、見える化

あるいはトレーサビリティあるいは管理といった用途をこれから開拓していくことが大切であります。このようなソリューション等への活用をこれからまさに業界と一緒に進めていき、そしてIoT、第4次産業革命へと先へ進めていくことがこれから求められてくるのかなと思う次第です。

これに関連して先週、「骨太の方針」いわゆる「経済財政運営と改革の基本方針」そして産業競争力会議の報告書である「未来投資戦略2017」を閣議決定したところがございます。まさに第4次産業革命が実現する「Society5.0」(ソサエティ 5.0)の重要性、その実現に向けた施策がここで取りまとめられております。Society5.0の実現に向けてはそれを支える産業が大変重要になります。その際、IoT、AI、ビッグデータといったデータツール、デジタルツールの活用が鍵を握ります。これらツールを使って機械、データ、技術、人が、あるいは組織等もさまざまな形でつながる、こういったことが大変重要です。それによって新しい付加価値と社会課題への解決をもたらす「Connected Industries」(コネクテッド・インダストリーズ)という新しいコンセプトを現在、経済産業省では打ち出しており、まさに我が国のものづくり産業の付加価値の増大、最大化あるいは強い現場の維持、向上を実現するよう皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っております。

2020年がだんだん近づき、オリンピックが迫ってまいりました。また2025年国際博覧会の大阪誘致に向けて立候補し今、誘致活動に頑張っております。新しい時代が着々と近づいており、この新しい時代にふさわしい新しい働き方を皆様と一緒に実現したいと強く思っているところでございます。毎度のお願いではございますけれども、働き方改革や、下請け取引是正の問題、そしてできる限りの賃上げを是非お願いできればと思う次第でございます。

協会および会員各社の皆様の益々のご発展、そ

してご参集の皆様のご健勝を祈念いたしまして私からの挨拶とさせていただきます。

## 高圧ガス保安協会

### 市川 祐三 殿

日頃よりKHKの活動に対してご協力をいただきまして、心より感謝を申し上げます。さまざまな調査事業、委員会へのご参画、あるいは協同での各種の規格の制定などにおきまして我々にとって大変心強いパートナーとして、これまでご尽力いただきました。この場をお借りいたしまして改めて御礼申し上げます。



先ほど間会長より、先週の全溶連の姫路での大会のお話がありました。いかにして消費段階における保安を全溶連として、販売する立場において確保したらよいのかということでパネルディスカッションで2時間ばかり話をされておりました。参加者は、本当に自分達として手が届かないところの保安をどのようにして確保していくのかということをめぐる極めて真摯な議論をされていたのが大変印象に残っています。おそらくそのような思いはJIMGAの皆様も同じだと思いますし、それぞれの持ち場における安全に対する思いが、今日の我が国の産業保安の成果というものをもたらしているのではないかと思います。そういう意味においてはJIMGAの皆様方、あるいは産業ガス、医療ガスに携わる皆様方のこれまでのご努力に対して心から敬意を表したいと思います。

そのうえで事故のことも申し上げなければなりません。統計的に詳しく申し上げますと、皆様方のお仕事で一番近いのは、一般高圧ガス事業所という分類での事故でございますけれども、残念ながら昨年に比べて件数自身は相当増えております。その水準自身はここ数年を取りますと恐らくピークを超えるくらいの数字で、これは要注意であろうかと思っております。要因分析等も

重要であろうかと思いますが、ここ数年比較的落ち着いた感じから、昨年、更に今年と増えてきているなと思っています。加えて言いますと、しばらくなかった人命に関わる事故が発生しました。JIMGAの範囲というより販売の関係かもしれませんが、液化酸素の超低温容器の、恐らく操作ミスだと思いますが、これで尊い人命が失われたということがございました。是非とも皆様ももう一度心を合わせて安全に向けてご努力をお願いするとともに、先ほどKHKのなすべきことのお話もございましたので、皆様と同じ立場でなすべきことを一生懸命やっていきたいと思っております。

それから今日は保安の担当の行政の方からはお話はありませんでしたけれども、新しい動きとしてスマート化というものを進めようとしております。それ自身は新しい技術、新しい社会的な情勢の変化などに対応して、より合理的な規制を適用しそれによって安全をより高次のものを持っているというもので、大変結構だと思います。その中で例えば従来コンビナートが主体でありました認定事業所につきましても、バッチ処理等々を前提にしたそれ以外の事業所でも高度化に向けた自主的なご努力を進めていただきたいということで、自主保安高度化事業所、いわゆるベーシック認定制度もできました。恐らくJIMGAの立場から大変期待があると思っておりますけれども、規格をできるだけ早く社会の変化、あるいは技術の変化に合わせて使えるようにしていくというファスト・トラック、いずれも制度設計につきましては我々はJIMGAと一緒に行政への働きかけ等々を行いまして、制度の設計もできましたし、いよいよこれから本格運用ということになります。いうまでもなく我々、公正でかつ真に皆様方のためになるサービスを提供していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

最後でございますが40年経ちましたKHKの町田の研究所を全面的に改築しました。試験のため

の装置も、日本国内でいえば他にないくらいの最高水準のものを導入してございます。皆様方のお立場からいっても十分使っていただくに値するような設備だろうと思っております。このような面でも皆様方のお役に立てるように頑張っていきたいと思っておりますので、是非ともご指導、ご鞭撻をお願いいたします。皆様方のご健勝、ご発展をお祈りし、JIMGAの益々のご発展を祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。

### 乾杯挨拶

#### 副会長 今井 康夫

本日は皆様方、大変お忙しいところご参集いただきまして誠にありがとうございます。神田医政局長様、佐藤審議官様、市川会長様におかれましては時宜を得た大変分かりやすいお話を賜りまして誠にありがとうございました。大いに参考にさせていただきますし、心に刻んでおこうと思っております。



今日この場では間会長はお話しになりませんが、総会の時に今の業界を取り巻く基本認識ということで、佐藤審議官からお話がありましたけれども、酸素、窒素という基本的な所在について申しますと、昨年度については、一昨年度を上回ったということですが、それはリーマンショック前の水準で見ますと7割とか8割というところで留まっていて、まだまだ日が暮れて道が遠いというのが基本的な認識でございます。ただそういった状況の中でJIMGAとしては個々の会員に頼られ、存在感のある形にしていかなければなりませんので、大いに頑張っていきたいと思っております。皆様方のご支援をお願い申し上げます。

先ほど佐藤審議官が「この協会の懇親会は賑やかですね」という話をなさいました。実は私も全く同じことを考えて数字を持ってまいりましたけれど、今年こちらにご参集いただく会員会社の

方々は登録していただいているのが328人でございます。これプラスお客様でございますが、昨年は294人でございまして、私はこれをJIMGAの懇親会出席指数と言っているのですけれど、去年から今年にかけて34人プラス。12パーセントアップでございますが、これはひょっとしたら景気回復が進んでいるのではないかという感じもしております。いずれにいたしましても政府には景気回復を確実なものにするようお願いしたいと思っております。

本日ご参集いただきました皆様方の会社ならびに組織の益々の発展を祈念し、ここにお集まりの皆様方のご健勝を祈念し、併せてJIMGAの努力、一生懸命頑張りますので、これをお誓い申し上げまして乾杯をさせていただきます。

### 中締め挨拶

#### 副会長 鈴木 慶彦

先ほど会長、副会長のお話の中にありましたように、確かにガスの量的なもので言ったときに、リーマンショック前と比べて



7～8割で、これはやはり日本の現状を表していると思うのです。これがやっぱり日本の難しさであると。こういうところを皆で力を合わせて何とかしなければいけない。それは我々ガス屋だけがやってもダメで、あらゆる人達が力を合わせて日本をどういう国にしていくのかを考えなければいけないということだと思っております。産業ガスもそうですし、医療ガスも我々医療ガス屋がいくら頑張ったって医療ガスの使用量は増えないわけですから、そういうことではなくて、どんな工夫があるのかいろいろ考える必要があるかと思っております。

これからのキーワードは、日本の社会も産業もすべてそうですけれども、やはり黙っていたらうまくいかない。皆で工夫しなければいけないということで、工夫をキーワードにしてJIMGAも頑

張っていきたいと思います。皆様も一緒になって  
知恵を絞っていただきたいなと思っております。

そのような工夫を通じて、我々の業界と日本全

国の産業と社会が発展しますように祈念いたしま  
して、中締めとさせていただきます。



懇親会の模様



# 平成28年度 事業報告

## 産業ガス部門事業報告

### 1. 主要会議

産業ガス部門総会・定時総会

平成28年6月14日

理事会

第1回：平成28年5月27日

第2回：平成28年6月14日

第3回：平成28年6月14日

理事会・評議員会合同会議

第1回：平成28年5月27日

第2回：平成28年11月29日

賀詞交歓会

平成29年1月11日

全国事務局長会議

平成28年6月15日

### 2. 総務部会

第1回：平成28年4月26日

議題：

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 平成28年度第1回部門理事会・評議員会合同会議、定時総会の開催について
- (3) 平成27年度産業ガス部門決算報告案及び平成28年度予算案について
- (4) 入会希望事業者、退会会員について
- (5) JIMGAウェブサイト産業ガス部門案内について

報告事項：

- (1) 熊本地震への対応について
- (2) 表彰選考委員会推薦者について
- (3) 事務局職員の異動について
- (4) 会員の現状について
- (5) 今後の主要行事予定について

第2回：平成28年11月1日

議題：

- (1) 前回議事録の確認
  - (2) 平成28年度産業ガス部門上期収支計算書について
  - (3) 平成28年度第2回部門理事会・評議員会合同会議の開催について
  - (4) 会費基準改正検討の件
  - (5) 入会希望事業者、退会会員について
- 報告事項：
- (1) 電力問題への対応について
  - (2) 保安法施行令等の一部改正について
  - (3) 事務局職員の異動について
  - (4) 会員の現状、今後の主要行事予定について

### 3. 広報委員会

会員会社への有用な情報提供を第一に、また、業界の地位向上のため社会一般への情報提供も考慮し、「発信するJIMGA」として、的確かつタイムリーに情報を発信することに努めた。

- (1) JIMGAウェブサイトの内容の充実  
会員へのタイムリーな情報提供に努めた。協会ウェブサイトについて、陳腐化した情報の更新と、より見やすくするための小修正作業を実施した。
- (2) 産業ガスレポートの発行  
定時総会及び協会本部及び地域本部の活動・事業報告、統計データ等を内容として9月及び3月に発行した。
- (3) JIMGAnewsの発行  
本部の部会・WGの活動や成果物の紹介、ニュース、会員紹介などを内容として、偶数月の月末に計6回発行した。
- (4) マスコミへの発信  
定時総会開催時に定例記者会見を、第2回部門理事会・評議員会合同会議開催時に記者懇談会を開催し、協会の活動状況や成

果、方針を協会トップや役員から直接発信した。

また、特集記事向けの会長インタビューや挨拶文寄稿依頼に積極的に対応し、各メディアに掲載された。

#### (5) 産業ガス部門、医療ガス部門の連携強化

JIMGAnewsと会報医療の記事交換、医療・産業双方に関係する行政情報を相互に協会ウェブサイトの会員ページで提供する等、医療ガス部門・産業ガス部門のワンボイスでの情報発信に努めた。

## 4. 企画部会

平成28年5月10日、および平成28年11月16日に開催。各WGの活動報告や活動計画について審議を行った。

### (1) 長期停滞容器回収推進WG

- ・「容器使用料の考え方について」として、貸出容器の有償化に関する考え方を取りまとめた。各地域の関係組織に確認し、必要な意見を取り入れた上で公表した。
- ・各地域行政へ発行を働きかけている容器管理指針が、新たに2県から発行され合計41都道府県から発行された。返却期限の記載のない指針についても記載を働きかけ、新たに2府県の容器管理指針に返却期限が記載された。
- ・JIMGAのウェブサイト(会員サイトおよび一般サイト)に、「容器使用料の考え方について」を掲載した。会員サイトには各都道府県で発行された容器管理指針の発行状況、放置容器の破裂事故の情報等を掲載した。
- ・高圧ガス容器の破裂事故や放置容器の回収状況等の情報を他のWGと交換しながら、長期停滞容器の発生防止に取り組んだ。

### (2) 物流WG

- ・CO<sub>2</sub>排出量統計を実施した結果、タンク

ローリによる製品輸送に係る燃料原単位は2006年度を100として2015年は102.1となった。2014年に比較して輸送量・走行距離が増加し、燃料原単位、CO<sub>2</sub>排出量も増加した。中長期的には輸送量が戻りつつあるが2006年レベルには戻らず、効率配送が実現しにくい状況下でも燃料原単位をほぼ維持し、効率配送を実現している。

- ・「高圧ガス輸送におけるCO<sub>2</sub>排出削減の取り組み」パンフレットの内容を全面的に見直した。利用しやすい発行方法として、JIMGAウェブサイトの「環境対応」にデータファイルを掲載した。
- ・保安対策WGにて検討中の「CE単独荷卸し」について、意見交換を実施。また、物流関係の事故情報の交換や保安法改正に関する情報の共有を行った。
- ・環境・安全部会と情報を共有し、物流や環境についてCOP21や経団連低炭素社会実行計画等での物流分野の取り組みについて幅広く議論した。

### (3) 容器処理WG

高圧ガス容器特別回収プロジェクトとの合同会議を開催し、例年10月に実施している「高圧ガス容器全国一斉特別回収運動」に係る依頼文書、要領書、報告書、ポスターについて協議した。

また、容器の破裂事故の続発をうけ、回収運動の訪問先軒数の集計と、事故情報に法的取扱い情報を加えた注意喚起文書を作成し配布した。

## 5. 容器RFタグ運営委員会

### (1) 容器RFタグの装着状況

- ・平成29年3月末時点で77万本の容器にRFタグが装着され、72社253拠点において運用が行われている。

## (2) 普及促進活動

- ・ 6社の運用拡大を確認し、各社の課題について情報交換を実施した。
- ・ 説明会アンケートを分析し説明会資料を見直した。3地域本部での説明会を開催し、全溶連加盟単位組合でも説明会を実施した。
- ・ JIMGA-EDIの利用例について情報収集した。
- ・ RFタグのEPCコード利用料を改定した。  
(¥30 / 個→¥10 / 個)

## (3) 技術的課題の解決

- ・ JIMGA以外でのRFタグ利用拡大のため、ミドルウェアを改修し、運用を開始した。
- ・ 小型容器用RFタグ2種類の試用評価を開始した。
- ・ ISO規格化に対応するJIMGA関連基準・指針等の公開基準の変更にあわせ、必要な基準・指針類を協会ウェブサイト公開した。

## 6. EDI運営委員会

EDI利用がまだ本格化していないため、運営委員会としての会議開催は見送り、説明会開催などの導入支援と、利用状況の確認および課金管理に注力した。

- ・ 普及促進活動として未実施の地域での説明会を開催した。
- ・ JIMGA会員-非会員間における取引での利用を可とし、利用料金を設定した。
- ・ JIMGA-EDI利用状況を確認すると共に、システム運用会社からの管理費用の入金管理を開始した。

## 7. 技術審議委員会

## (1) 平成 28 年 6 月 29 日 審議案件：4 件

- ・ CE実務保安Q&A
- ・ e-ラーニング「高圧ガスの安全基礎知識

改訂版」

- ・ JIMGAウェブサイト 産業ガスについて
- ・ 労働災害統計調査報告

## (2) 平成 28 年 12 月 5 日 審議案件：6 件

- ・ アセチレン SDS
- ・ 高圧ガスハンドブック 第3次改訂版
- ・ e-ラーニング「溶解アセチレンの安全な取り扱い」
- ・ 酸素充填の重量法と充填基準
- ・ CE付属品の取り扱い方法(液面計編)
- ・ ヒヤリハット事例集(炭酸ガス編)
- ・ 安全ニュース No.11

## 8. 技術・保安部会

平成 28 年 4 月 21 日、および平成 28 年 11 月 8 日に開催。各WGの活動報告や活動計画について審議を行った。

## (1) 容器技術WG

- ・ ISO/TC58 国内委員会、ISO/TC58/SC4 国際会議(2月：南アフリカ・プレトリア開催)に参加した。
- ・ TC58 関連ISO規格について14件の検討・投票を実施した。
- ・ AE作業部会において、経済産業省委託事業として発足した「高圧ガス容器の再検査に関する調査研究委員会」におけるAE/UT(大型容器)、UT(中小容器)による容器再検査について一般規制化の検討状況について情報を共有した。

## (2) 超低温貯槽WG

- ・ JIMGA自主基準として「CE付属品の取り扱い要領(初版)」を完成し、公開した。
- ・ ISO/TC220 国内委員会活動として、関連規格案11件の検討と投票を実施した。
- ・ ISO/TC220 国際会議(6月：フランス・パリ開催)へ参加した。

### (3) 充填技術WG

- ・ 充填ガス圧力の研究および見解作成に取り組み、「酸素充填の重量法と充填基準」として技術審議委員会にて承認を得た。
- ・ 「カードル自主技術指針」を見直し、改訂版を作成完了した。

### (4) 保安対策WG

- ・ 平成28年11月の高圧ガス保安法関係政省令等の改正内容を反映した高圧ガスハンドブック第3次改訂版を発刊した。
- ・ CEへのローリ単独荷卸しの運用に必要な要件を決定のうえ、基準案を検討した。
- ・ 新認定事業所制度の運用計画に対し、主に自主保安高度化事業所の認定要件、インセンティブについてJIMGAとしての意見・要望を取りまとめ、KHKへ提案した。

### (5) 教育・研修WG

- ・ e-ラーニング「高圧ガス安全基礎知識」本編の内容(スライド)、ナレーションおよび理解度テストを見直し、改訂版として8月にリリースした。
- ・ e-ラーニング「溶解アセチレンの安全な取扱い」を新規に制作した。
- ・ 地域本部でe-ラーニングの活用に向けた説明会を実施した。

### (6) 安全統計WG

- ・ 会員からの報告や外部ソースの事故情報5件をJIMGAウェブサイトに掲載した。
- ・ 平成27年労働災害統計調査を実施し、会員257社より報告を入手した。JIMGA度数率は0.53、強度率0.02となった。当該数値は、全国製造業平均、化学工業平均、EIGA平均(欧州産業ガスメジャー6社)のいずれをも下回っている。
- ・ KHKの高圧ガス事故統計資料の平成20～27年の報告について爆発・火災事故の傾向を分析し、安全教育パンフレット「アセ

チレン／酸素ガス容器取扱い注意事項」としてJIMGAウェブサイトに掲載するとともに、安全ニュース No.10として発行した。

- ・ 過去の事故情報、ヒヤリハット事例等を活用し、各地域本部の保安セミナーに活用した。

### (7) ヘリウム技術WG

- ・ ヘリウムガスおよび液化ヘリウムの安全な取扱いについて、注意事項や事故予防策の指針化を行い、過去事故事例の調査および指針内容を検討し、指針案をまとめた。
- ・ JIMGAウェブサイトの「産業ガスについて」のうち、ヘリウム関連のページの修正について、技術審議委員会での指摘を受け修正内容を見直し、技術審議委員会で承認の後掲載した。
- ・ 2015年4月の労働安全衛生法の高気圧作業安全衛生規則の改正により、水深40mを超える潜水業務についてヘリウムを呼吸用不活性ガスとして用いることが規定されたことに伴い、潜水(ダイビング)用ガスの使用状況等について実態調査を行なった。
- ・ ヘリウムソース、海外情報の収集・分析、使用に関する技術開発動向等について、情報収集を行ない知見や情報を共有化した。

### (8) 炭酸ガス技術WG

- ・ 炭酸ガス保安講習会の総括と次回への取組みとして、炭酸ガスCE設備取扱い見直し、関連設備取扱い見直し、講習会用ビデオ撮影と動画編集を実施した。
- ・ ヒヤリハット(炭酸ガス編)の改訂にあたり、事例の追加収集し、製造、貯蔵、消費、移動に分類・整理を実施した。

### (9) 溶解アセチレン技術WG

- ・ アセチレン工場火災事故に関する調査報告書をJIMGAウェブサイトに掲載し、情

報を共有するとともに、事故防止対策を検討した。

- ・KHKのISO/TC58国内審議委員会に委員を派遣するとともに、アセチレンに関する規格案2件について検討依頼があり、回答した。

#### (10) 水素企画委員会・水素技術WG

- ・水素保安講習会を全国4か所（東京、名古屋、大阪、岡山）で開催した。受講者は4カ所で合計250名であった。（九州地区：福岡は熊本地震のため延期）
- ・水素統計資料として、「仕向け先・荷姿別・出荷実績」、および「圧縮水素出荷実績5年推移」を作成した。
- ・平成29年度支部別水素プラント定修予定表を作成した。
- ・「圧縮水素運送自動車用付属品の技術基準」について、KHKからの要請があり、見直し・改訂についてサブWGにて検討した。

#### (11) 特殊ガス企画委員会・特殊ガス技術WG

- ・平成28年特殊ガスおよび標準ガスの統計資料を作成した。
- ・特殊ガスの容器警告表示ラベルの記載内容について確認および見直し・修正を行い、容器警告表示ラベルガイドラインを現状に即した内容に改訂した。
- ・容器基本通達（容器則9条関係）によるガス名変更に関する問題について、改訂要望案を作成し、KHKに確認した。
- ・国際部会より協力要請のあった特殊ガスギャップ分析に関して、対象を自然発火性ガスに絞ってプロセス・ハザードのマトリクス表を作成し、EIGA等の他の協会と検討を開始した。
- ・JIS Z7253対応のSDSについて検討し、まずJCSS対象製品でSDS（案）を作成し、その中から問題点を抽出し、対応について討

議を進めた。

#### (12) 水素スタンドプロジェクト

- [液体水素による貯蔵・水素スタンド規制・基準の整備に関する検討]
- ・液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドのモデルの定義を実施した。
- ・想定される事故シナリオの抽出（HAZOP, FMEA）を実施した。
- ・想定事故シナリオのリスク算定（影響度評価および可能性評価）を実施した。
- ・想定事故シナリオのリスク評価及び必要な安全対策の検討を行った。
- [2種製造設備に相当する水素供給設備の技術基準の整備に関する検討]
- ・NEDO成果報告書案を作成した。

## 9. 環境・安全部会

平成28年5月26日、および平成28年11月17日に開催。各WGの活動報告や活動計画について審議を行った。

#### (1) 環境保全WG

- ・経団連低炭素社会実行計画フォローアップ調査を実施した（参加63社）。平成27年度は、①エネルギー量（原油換算）：225万kL（前年度229万kL）、②電力使用量：88.1億kWh（同89.3億kWh）、③CO<sub>2</sub>排出量：383万t-CO<sub>2</sub>（同389万t-CO<sub>2</sub>）であった。
- ・地球温暖化、省エネルギーの諸施策として、「地球温暖化対策計画」、省エネ補助金、国民運動「COOL CHOICE（クールチョイス）」について情報収集した。
- ・再生可能エネルギー賦課金（FIT賦課金）減免制度見直しに関して情報収集を実施し、再生可能エネルギー導入促進関連制度改革小委員会報告書（案）のパブリックコメントに対する意見を提出し、減免制度見直しに関して収集した情報を会員へ周

知した。

## (2) 化学品安全WG

- ・酸素およびアルゴンのJIS規格改訂原案は、4月の規格調整分科会(主催:日本規格協会)の審査後、5月に日本規格協会に提出した。改訂原案は8月に日本規格協会から経済産業省に提出され、12月の化学・環境技術専門委員会(主催:経済産業省)で最終審査を受け、JIS改訂版として3月21日に官報公示となった。
- ・11月に高圧ガス保安法の液化ガスや毒性ガスの定義の変更があり、またGHSの可燃性ガス分類の変更があったため、SDSの可燃性・毒性の解説を変更した。酸素SDSは出典が明らかな有害性情報に変更した。
- ・厚生労働省、日本化学工業協会、高圧ガス保安協会をはじめ各種団体の化学品リスクアセスメント情報の収集を行った。

## 10. 国際部会

平成28年4月19日、および平成28年11月15日に開催。各WGの活動報告や活動計画、および国際会議への対応について審議を行った。

### (1) 国際統合化委員会(IHC)対応WG

- ・国際統合化プロジェクトのJIMGA基準化活動を進め、平成28年～平成29年には、参考文書6件を完成させた。
- ・「セレン化水素の安全な取扱い指針」、「アルシンの安全な取扱い指針」、「ホスフィンの安全な取扱い指針」、「特殊ガスのヒヤリ

ハット」について対応を継続。

- ・「特殊ガスの自然発火性ガスのギャップ分析」について、2回のWeb会議を行い、プロセス・ハザード案を4協会で検討し、最終案を完成させた。
- ・AIGA、CGA、EIGAとの技術交流会の促進と協調関係の継続・強化として、国際統合化委員会:IHC会議(第39回7月:ロンドン、第40回2月:バンコク)、IOMAGC会議(5月:フィラデルフィア、10月:Web会議)、IOMA総会(10月サンディエゴ)に参加した。

### (2) 規制改革WG

- ・規制改革要望案の発掘・募集に関連し、「毒性ガス・液化ガスの定義見直し」を含む省令・内規改正のパブリックコメント募集について対応した。
- ・産業保安のスマート化について、ファスト・トラック制度および新認定事業所制度に関する情報を収集し、共有した。
- ・容器再検査へのAE(アコースティック・エミッション)／UT(超音波探傷検査)の適用については、「高圧ガス容器の再検査に関する調査研究会」に参加した。
- ・高圧ガス保安協会職員によるCGA訪問(4月)に協力、帰国後情報交換(連邦規則の制定等)を実施した。
- ・海外の規制、基準の調査、情報の発信を目的にEIGA主催のヒューマンファクタセミナーに参加した。

## 平成28年度 会議開催記録

理事会・総会・賀詞交歓会等			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回理事会	平成28年5月27日	1)平成28年度定時総会招集の件
2	第1回部門理事会・評議員会合同会議	平成28年5月27日	1)平成27年度事業報告及び収支決算(案)の件 2)平成28年度事業計画及び収支予算(案)の件 3)評議員、理事及び監事候補者選任の件 4)入会希望事業者審査の件 5)平成28年表彰対象者決定の件 6)平成28年度定時総会招集の件 報告事項 1)熊本地震への対応 2)電力問題への対応 3)消費税の動向 4)会員の動静及び今後の主要日程
3	第2回理事会	平成28年6月14日	1)平成28年度定時総会付議議案確認の件
4	部門総会・定時総会	平成28年6月14日	産業ガス部門総会 決議事項 1)産業ガス部門評議員選任の件 定時総会 決議事項 1)平成27年度事業報告及び収支決算承認の件 2)平成28年度事業計画及び予算(案)承認の件 3)評議員、理事及び監事選任の件 報告事項 1)電力問題への対応 2)消費税の動向 3)会員の動静について 4)今後の主要日程
5	第3回理事会	平成28年6月14日	決議事項 1)会長、副会長の選任並びに部門別理事会所属理事の選任の件 2)総会等における会長に事故があるときの議長就任順位の件 3)業務を執行する理事の選任の件 4)副会長の業務担当の件 報告事項 1)代表監事選任の報告について 2)専務理事及び常務理事に関する内規について
6	第2回部門理事会・評議員会合同会議	平成28年11月29日	1)入会希望事業者審査の件 報告事項 1)平成28年度上期活動報告 2)平成28年度上期収支計算書報告 3)電力問題への対応 4)消費税の動向 5)内部監査報告、 会員の動静及び今後の主要日程
7	平成29年賀詞交歓会	平成29年1月11日	(経団連会館にて開催)

### 総務部会

No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回総務部会	平成28年4月26日	1)前回議事録の確認 2)平成27年度決算報告および平成28年度予算案 3)平成28年度第1回部門理事会・評議員会合同会議について 4)入会希望事業者、退会会員について 5)JIMGAウェブサイト産業ガス部門案内について 報告事項 1)熊本地震への対応について 2)表彰選考委員会推薦者について 3)事務局職員の異動について 4)今後の主要行事予定、会員の現状について

総務部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
2	第2回総務部会	平成28年11月4日	1) 前回議事録の確認 2) 平成28年度上期産業ガス部門収支計算書 3) 平成28年度第2回部門理事会・評議員会合同会議について 4) 会費基準改正検討の件 5) 入会希望事業者、退会会員について 報告事項 1) 電力問題への対応について 2) 保安法施行令一部改正について 3) 事務局職員の異動について 4) 今後の主要行事予定、会員の現状について

広報委員会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回広報委員会	平成28年5月16日	1) 前回議事録の確認 2) JIMGA ウェブサイトについて 3) 産業ガスレポート発行について 4) JIMGAnewsについて 5) マスコミへの発信について 6) 医療ガス部門広報活動について 7) 平成27年度活動報告・平成28年度活動計画 8) 広報活動全般について(意見交換)
2	第2回広報委員会	平成28年11月22日	1) 前回議事録の確認 2) JIMGA ウェブサイトについて 3) 産業ガスレポート発行について 4) JIMGAnewsについて 5) マスコミへの発信について 6) 医療ガス部門広報活動について 7) 平成28年度上期活動報告について 8) 広報活動全般について(意見交換)
3	第1回産業ガスレポート編集WG	平成28年9月8日	1) 前回議事録確認 2) 発行スケジュール 3) 表紙デザイン検討 4) 原稿チェック
4	第1回広報タスクフォース	平成28年8月23日	・産業ガスレポート初校読み合わせ
5	第2回広報タスクフォース	平成29年2月23日	・産業ガスレポート初校読み合わせ

企画部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回企画部会	平成28年5月10日	1) 前回議事録確認 2) WG・委員会 平成27年度活動報告・平成28年度活動計画 ・企画部会・長期停滞容器回収推進WG ・物流WG・容器処理WG ・容器RFタグ運営委員会・EDI運営委員会 ・特殊ガス企画委員会・水素企画委員会 報告事項 1) 電力問題への対応について 2) 高圧ガス保安のスマート化について 3) 今後の主要行事日程



企画部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
2	第2回企画部会	平成28年11月16日	1) 前回議事録確認 2) WG・委員会 平成28年度上期活動報告 ・ 企画部会・長期停滞容器回収推進 WG ・ 物流 WG・容器処理 WG ・ 容器RFタグ運営委員会・EDI運営委員会 ・ 特殊ガス企画委員会・水素企画委員会 報告事項 1) 電力問題への対応について 2) 保安法施工令等一部改正の件 3) 今後の主要行事日程
3	第1回長期停滞容器回収推進WG	平成28年4月20日	1) 前回議事録確認 2) 「容器使用料の考え方について」意見集約状況 3) 企画部会報告について
4	第2回長期停滞容器回収推進WG	平成28年7月22日	1) 前回議事録確認 2) 「容器使用料の考え方について」修正案について 3) 容器管理指針発行状況について
5	第3回長期停滞容器回収推進WG	平成28年10月27日	1) 前回議事録確認 2) 企画部会報告(案) 3) 「容器使用料の考え方について」修正案について 4) 容器管理指針発行状況について
6	第1回物流WG	平成28年7月28日	1) パンフレット「輸送におけるCO <sub>2</sub> 排出削減の取組み」 2) CO <sub>2</sub> 排出量調査について 3) 物流関連の補助金について 4) 物流特殊指定「物流分野の取引ルール」 5) 「COOL CHOICE (クールチョイス)」推進への協力
7	第2回物流WG	平成28年10月4日	1) パンフレット「輸送におけるCO <sub>2</sub> 排出削減の取組み」 2) CO <sub>2</sub> 排出量調査、LCIパラメータについて
8	第3回物流WG	平成29年1月20日	1) 次期テーマ検討 2) ロジスティクス分野CO <sub>2</sub> 排出量算定方法ガイドライン 3) グリーンパートナーシップ優良事業者表彰
9	高圧ガス容器回収プロジェクト及び容器処理WG合同会議	平成28年8月5日	1) 前回会議議事録確認 2) 平成27年度高圧ガス容器特別回収結果 3) 平成28年度高圧ガス容器特別回収配布文書 (お願い文、回収要領、回収報告書、回収場所調査票、ポスター) 4) 放置容器処理事業特別枠実施状況報告 5) 不明容器、放置容器撲滅について

RF タグ運営委員会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回容器RFタグ運営委員会	平成28年4月7日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全国展開 (Step4)               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 活動の振り返り</li> <li>2) 全国展開の状況</li> <li>3) 各社のRFタグ装着数推移</li> <li>4) 各社の進捗状況</li> <li>5) 容器RFタグ運用会社一覧</li> <li>6) 課金実績の報告</li> </ol> </li> <li>2. WG               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) WG開催報告と主要取り組みテーマ</li> <li>2) WG課題の整理状況</li> <li>3) 小型用RFタグの開発</li> <li>4) RFタグ周波数帯移行状況</li> </ol> </li> <li>3. 技術サブWG               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 課題の整理状況</li> <li>2) JIMGA規格の国際標準化について</li> <li>3) ミドルウェアバージョンアップ (EPCフィルタ機能拡張)</li> </ol> </li> <li>4. 普及促進サブWG               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 容器RFタグ説明会開催</li> <li>2) キャンペーン終了と今後の施策</li> </ol> </li> <li>5. 2016年度の重要課題               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 普及・促進活動を継続</li> </ol> </li> </ol>
2	第2回容器RFタグ運営委員会	平成28年10月17日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全国展開 (Step4)               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 活動の振り返り</li> <li>2) 全国展開の状況</li> <li>3) 各社のRFタグ装着数推移</li> <li>4) 各社の進捗状況</li> <li>5) 容器RFタグ運用会社一覧</li> <li>6) 課金実績の報告</li> </ol> </li> <li>2. WG               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 今年度WG主要取り組みテーマ</li> <li>2) WG課題の取り組み状況</li> <li>3) 小型容器用RFタグの試用</li> <li>4) RFタグ周波数帯移行状況</li> </ol> </li> <li>3. 技術サブWG               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 技術サブWG課題の取り組み状況</li> <li>2) EPCフィルタ機能拡張について</li> <li>3) EPCフィルタに利用する企業コードの調査依頼</li> </ol> </li> <li>4. 普及推進サブWG               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 容器RFタグ説明会開催</li> <li>2) 今年度普及推進策</li> </ol> </li> <li>5. 2016年度の重要課題               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 普及・促進活動を継続</li> </ol> </li> </ol>
3	第1回容器RFタグ運営WG	平成28年7月7日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全国展開               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 活動の振り返り</li> <li>2) 全国展開の状況</li> <li>3) 各社の進捗状況</li> <li>4) 各社の装着本数推移</li> <li>5) 容器RFタグ運用会社一覧</li> <li>6) 課金実績</li> </ol> </li> <li>2. WG               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 今年度WG主要取り組みテーマ</li> <li>2) WG課題の取り組み状況</li> <li>3) 小型容器用RFタグの試用</li> <li>4) 周波数帯移行状況</li> </ol> </li> <li>3. 技術サブWG               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) EPCフィルタ機能拡張について</li> <li>2) EPCフィルタに利用する企業コードの調査依頼</li> <li>3) 課題管理表</li> </ol> </li> <li>4. 普及促進サブWG               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 容器RFタグ説明会開催</li> <li>2) キャンペーン終了と今後の施策</li> </ol> </li> <li>5. 2016年度の重要課題               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 普及・促進活動を継続</li> </ol> </li> </ol>

RF タグ運営委員会			
No.	会議・WG 会議名称	開催年.月.日	議 題
4	第2回容器RFタグ運営WG	平成29年1月30日	1. 全国展開 1)活動の振り返り 2)全国展開の状況 3)各社の進捗状況 4)各社の装着本数推移 5)容器RFタグ運用会社一覧 6)課金実績 2. WG 1)今年度WG主要取り組みテーマ 2)WG課題の取り組み状況 3)小型容器用RFタグの試用 4)周波数帯移行状況 3. 技術サブWG 1)技術サブWG課題の取り組み状況 2)EPCフィルタ機能拡張について 3)EPCフィルタに利用する企業コードの調査依頼 4. 普及促進サブWG 1)容器RFタグ説明会開催 2)今年度普及推進策 5. 2016年度の重要課題 1)普及・促進活動を継続
5	第1回技術サブWG	平成28年4月27日	ミドルウェア改修仕様検討(フィルタ機能拡張)
6	第2回技術サブWG	平成28年5月30日	ミドルウェア改修仕様打合せ(フィルタ機能拡張)
7	第3回技術サブWG	平成28年6月10日	ミドルウェア改修仕様説明会(独自OS用ミドルウェア向け)
8	第4回技術サブWG	平成28年8月24日	ミドルウェア改修完了報告
9	第5回技術サブWG	平成28年10月5日	1)EPCフィルタ機能拡張進捗確認 2)EPCフィルタに利用する企業コード収集について 3)課題管理棚卸し
10	第6回技術サブWG	平成28年11月2日	ミドルウェア改修完了報告
11	第7回技術サブWG	平成28年11月9日	フォーマットIDの設定について
12	第8回技術サブWG	平成29年3月15日	1)ミドルウェアのJIMGA会員外の利用について 2)小型容器用RFタグ試用アンケート 3)フォーマットIDの設定について 4)容器メーカーコードの設定について
13	第1回普及推進サブWG	平成28年4月7日	RFタグ説明会アンケートについて
14	第2回普及推進サブWG	平成28年6月22日	1)今期地域本部説明会日程及び講師の確認 2)説明会アンケート結果の確認 3)容器RFタグ説明会資料の検討 4)今期RFタグ取付実績予測 5)RFタグ・ビジネスモデルの現状把握 6)容器製造メーカーにおけるRFタグ取付け 協力要請について 7)小型容器向けRFタグのメーカー検証情報取得について 8)JIMGA・容器RFタグ・ヘルプデスク体制について
15	第3回普及推進サブWG	平成28年10月17日	1)RFタグ説明会実施報告 2)RFタグ普及状況報告 3)説明会開催計画と資料作成
16	第4回普及推進サブWG	平成28年11月21日	説明会資料検討
17	第5回普及推進サブWG	平成28年12月15日	説明会資料検討
18	第6回普及推進サブWG	平成29年2月6日	説明会資料検討

技術審議委員会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	平成28年度第1回技術審議委員会	平成28年6月29日	1. 前回議事録案の確認 2. 国際会議出席旅費一部負担実績 3. 上程案(4件)の審議 3-1. CE実務保安Q&A 3-2. e-ラーニング「高圧ガスの安全基礎知識 改訂版」 3-3. JIMGA ウェブサイト 産業ガスについて 3-4. 労働災害統計調査報告
2	平成28年度第2回技術審議委員会	平成28年12月5日	1. 前回議事録案の確認 2. 国際会議出席旅費一部負担実績 3. 上程案(6件)の審議 3-1. 高圧ガスハンドブック 第3次改訂版 3-2. e-ラーニング「溶解アセチレンの安全な取り扱い」 3-3. 「酸素ガス充てん所作業基準」(追補) 3-4. CE付属品の取り扱い方法(液面計編) 3-5. ヒヤリハット事例集(炭酸ガス編) 3-6. 安全ニュースNo.11

技術・保安部会				
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題	
1	平成28年第1回技術・保安部会	平成28年4月21日	平成27年度活動報告及び平成28年度活動計画	
2	平成28年第2回技術・保安部会	平成28年11月8日	平成28年度上期活動進捗状況報告	
3	容器技術 WG	平成28年5月10日	ISO TC58 投票状況報告、企業実証特例制度進捗報告、技術・保安部会報告	
4		平成28年7月29日	ISO TC58 投票状況報告、ISO TC58 国際会議報告、企業実証特例制度進捗報告	
5		平成28年12月2日	ISO TC58 投票状況報告、ISO TC58 国内会議報告	
6		平成29年3月3日	ISO TC58 投票状況報告、ISO TC58 国際会議報告	
7		平成28年9月12日	AE作業部会(第1回 高圧ガス容器の再検査に関する調査研究委員会報告)	
8		平成28年10月20日	AE作業部会(第2回 高圧ガス容器の再検査に関する調査研究委員会報告)	
9		平成28年12月2日	AE作業部会(第3回 高圧ガス容器の再検査に関する調査研究委員会報告)	
10		平成29年3月3日	AE作業部会(第4・5・6回 高圧ガス容器の再検査に関する調査研究委員会報告)	
11		超低温貯槽 WG	平成28年4月25日	ISO TC220 投票状況報告、活動テーマ(CE液面計の取扱い)
12			平成28年7月12日	ISO TC220 投票状況報告、ISO TC220 国際会議報告、活動テーマ(CE液面計の取扱い)
13	平成28年9月8日		ISO TC220 投票状況報告、活動テーマ(CE液面計の取扱い)	
14	平成28年10月25日		ISO TC220 投票状況報告、活動テーマ(CE液面計の取扱い)	
15	平成29年1月18日		ISO TC220 投票状況報告、技術審議委員会報告、来期テーマ、規制改革要望案	
16	平成29年3月17日		ISO TC220 投票状況報告、活動テーマ(CE真空機器の取扱い)、規制改革要望案	

技術・保安部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
17	充填技術 WG	平成28年4月5日	活動テーマの検討
18		平成28年7月5日	活動テーマの検討、JIMGA 主催セミナー、技術審議委員会報告
19		平成28年9月23日	「酸素充填の重量法と 19.7MPa 充填基準」作成
20		平成28年10月14日	「酸素充填の重量法と 19.7MPa 充填基準」作成
21		平成28年11月24日	「カードル自主技術指針」見直し案の検討、「酸素充填の重量法と 19.7MPa 充填基準」原案報告
22		平成29年3月16日	カードル指針見直し案最終検討、平成28年度活動報告、平成29年度活動テーマ検討決定
23	保安対策 WG	平成28年4月14日	CE実務保安Q&Aの策定、CE乗務員充填基準、経済産業省 新認定事業所
24		平成28年7月4日	技術審議委員会審議結果、法令改正に伴う高圧ガスハンドブックの改訂について
25		平成28年8月29日	CE実務保安Q&A、法令改正に伴う高圧ガスハンドブックの改訂について
26		平成28年10月17日	法令改正に伴う高圧ガスハンドブックの改訂について、経済産業省ファスト・トラック制度
27		平成28年12月9日	技術審議委員会審議結果、CE乗務員充填基準、新認定事業所制度、CE自主検査指針
28		平成29年2月24日	高圧ガスハンドブック 第3次改訂版、CE乗務員充填基準、CE自主検査指針・保安検査基準
29		平成29年3月31日	新認定事業所
30	教育・研修 WG	平成28年5月12日	e-ラーニング「高圧ガス安全基礎知識」見直し最終確認、アセチレン e-ラーニングについて
31		平成28年7月19日	アセチレン e-ラーニング作成、技術審議委員会報告
32		平成28年9月9日	アセチレン e-ラーニング作成
33		平成28年11月2日	アセチレン e-ラーニング作成
34		平成28年12月6日	アセチレン e-ラーニング作成
35		平成29年3月14日	アセチレン e-ラーニング作成、来期テーマの検討
36	安全統計 WG	平成28年5月11日	事故情報の分析／労働災害統計調査／安全ニュースNo.11／地域本部保安セミナー
37		平成28年8月3日	事故情報の分析／労働災害統計調査／安全ニュースNo.11／地域本部保安セミナー
38		平成28年9月29日	事故情報の分析／労働災害統計調査／地域本部保安セミナー
39		平成28年12月13日	事故情報の分析／労働災害統計調査／地域本部保安セミナー
40	ヘリウム技術 WG	平成28年4月22日	JIMGA ウェブサイト改正／ヘリウムの安全な取り扱い編集／潜水用ヘリウム情報収集
41		平成28年7月8日	ヘリウムの安全な取り扱い編集／潜水用ヘリウム情報収集
42		平成28年10月7日	ヘリウムの安全な取り扱い編集／潜水用ヘリウム情報収集
43		平成29年2月1日	ヘリウムガスおよび液化ヘリウムの安全な取扱い(性質・用途・取扱注意事項・事故事例と安全対策)

特殊ガス企画委員会・技術WG			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	平成28年度定時代表者会議	平成28年4月20日	平成27年度活動報告、平成28年度活動計画
2	統計作成TF第1回会議	平成29年2月23日	特殊ガス統計作成方法の確認
3	統計作成TF第2回会議	平成29年3月27日	特殊ガス統計の集計結果の確認
4	技術WG第1回会議	平成28年4月18日	平成28年度活動計画の決定
5	技術WG第2回会議	平成28年6月8日	毒性ガスの定義見直しの検討
6	技術WG第3回会議	平成28年9月6日	特殊ガスギャップ分析の検討
7	技術WG第4回会議	平成28年10月27日	フジキン(株)つくば先端事業所の見学
8	技術WG第5回会議	平成28年12月15日	AE作業部会の報告
9	技術WG第6回会議	平成29年3月8日	特殊ガスギャップ分析の検討
10	半材ガスチーム第1回会議	平成28年7月9日	PLラベルの運用基準及び現行ラベルの改訂
11	半材ガスチーム第2回会議	平成28年12月1日	毒性ガスの定義見直しの検討
12	半材ガスチーム第3回会議	平成29年3月8日	今後のSDS作成について
13	標準ガスチーム第1回会議	平成28年6月8日	基本通達改正案の検討
14	標準ガスチーム第2回会議	平成28年9月6日	JIS Z7253対応のSDSの検討
15	標準ガスチーム第3回会議	平成28年12月15日	基本通達改正案の検討
16	標準ガスチーム第4回会議	平成29年2月10日	JIS Z7253対応のSDSの検討

水素企画委員会・技術WG			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	平成28年度代表者会議	平成28年4月28日	平成27年度活動報告、平成28年度活動計画
2	技術WG第1回会議	平成28年5月13日	平成28年度活動計画の決定、水素保安講習会の準備状況確認
3	技術WG第2回会議	平成28年10月7日	研修会：六ヶ所村の原燃PRセンター等の見学
4	技術WG第3回会議	平成28年12月9日	「圧縮水素運送自動車用附属品の技術基準」の改訂の検討
5	技術WG第4回会議	平成29年3月10日	「圧縮水素運送自動車用附属品の技術基準」の改訂の検討
6	サブWG第1回会議	平成28年10月17日	「圧縮水素運送自動車用附属品の技術基準」の改訂の検討
7	サブWG第2回会議	平成28年11月30日	「圧縮水素運送自動車用附属品の技術基準」の改訂の検討
8	サブWG第3回会議	平成29年2月28日	「圧縮水素運送自動車用附属品の技術基準」の改訂の検討

溶解アセチレン技術WG			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	技術WG第1回会議	平成28年4月15日	「アセチレン工場爆発事故」調査委員会の報告
2	技術WG第2回会議	平成28年9月13日	事故調査委員会報告書の説明ならびに検討
3	技術WG第3回会議	平成28年12月13日	「アセチレン業界」としての安全対策の検討

炭酸ガス技術WG			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	平成28年度 炭酸ガス技術WG全体会議	平成28年5月20日	1)平成27年度活動報告ならびに平成28年度活動計画の承認 2)第17回炭酸ガス保安講習会の開催結果報告
2	第1回 炭酸ガス技術WG会議	平成28年4月25日	1)平成28年度全体会議開催内容について 2)他のWG活動報告検討
3	第2回 炭酸ガス技術WG会議	平成28年6月21日	1)個別課題の取り組みについて 2)他のWG活動報告検討
4	第3回 炭酸ガス技術WG会議	平成28年10月13日	1)「炭酸ガスCE設備の取扱い」ビデオ内容の確認 2)JIS見直し調査の要領について
5	第4回 炭酸ガス技術WG会議	平成28年12月7日	1)中国地域本部 炭酸ガス保安講習会結果の報告 2)他のWG活動報告検討
6	第5回 炭酸ガス技術WG会議	平成29年1月24日	1)「炭酸ガスCE設備の取扱い」ビデオ内容の視聴 2)他のWG活動報告検討
7	第6回 炭酸ガス技術WG会議	平成29年3月21日	1)次期活動テーマの絞り込みについて 2)他のWG活動報告検討
8	第1回 炭酸ガス技術サブWG	平成28年7月21日	1)「炭酸ガスCE設備の取扱い」撮影と構成について 2)「ヒヤリハット事例集」資料作成の進め方について
9	第2回 炭酸ガス技術サブWG	平成28年8月29日	1)「炭酸ガスCE設備の取扱い」ビデオ撮影場所と方法について 2)「ヒヤリハット事例集」資料内容確認と修正について
10	第3回 炭酸ガス技術サブWG	平成28年9月29日	1)炭酸ガス保安講習会用ビデオ撮影日程について 2)炭酸ガス状態実験ナレーションのデモンストレーション
11	第4回 炭酸ガス技術サブWG	平成28年12月2日	1)炭酸ガス保安講習会用ビデオ撮影の事前説明会 2)現地撮影における準備について
12	第5回 炭酸ガス技術サブWG	平成28年12月14日	1)撮影前日によるミーティング 2)撮影シナリオの最終確認について
13	第6回 炭酸ガス技術サブWG	平成29年1月12日	1)炭酸ガス保安講習会用ビデオの編集について 2)ビデオ音声と画像修正について
14	第7回 炭酸ガス技術サブWG	平成29年2月1日	1)ビデオ編集の最終確認作業 2)ビデオ納入と形態について
15	第8回 炭酸ガス技術サブWG	平成29年2月8日	1)平成29年度 炭酸ガス技術WG活動計画(案)について 2)炭酸ガスによる事故事例について(教育資料の検討)

水素スタンドプロジェクト			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	第1回液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンド基準整備検討会	平成28年5月31日	液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドの技術基準化の検討
2	第2回液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンド基準整備検討会	平成28年8月29日	液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドの技術基準化の検討
3	第1回材料評価WG会議	平成28年10月3日	液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドに使用が想定される材料の検討
4	第1回リスク評価検証会議	平成28年10月13日	液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドのリスクアセスメント検証
5	第2回リスク評価検証会議	平成28年10月20日	液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドのリスクアセスメント検証
6	第1回漏洩実験・シミュレーションWG会議	平成28年10月31日	液化水素ポンプを水素ステーションに導入を想定した場合の適正な離隔距離の検討
7	第3回リスク評価検証会議	平成28年11月28日	液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドのリスクアセスメント検証
8	第2回漏洩実験・シミュレーションWG会議	平成28年12月1日	液化水素ポンプを水素ステーションに導入を想定した場合の適正な離隔距離の検討
9	第3回液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンド基準整備検討会	平成28年12月6日	液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドの技術基準化の検討
10	第4回リスク評価検証会議	平成28年12月5日	液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドのリスクアセスメント検証
11	第5回リスク評価検証会議	平成28年12月27日	液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドのリスクアセスメント検証
12	第6回リスク評価検証会議	平成29年1月27日	液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドのリスクアセスメント検証
13	第4回液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンド基準整備検討会	平成29年3月1日	液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドの技術基準化の検討

環境・安全部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	平成28年第1回環境・安全部会	平成28年5月26日	1)平成27年度活動報告および28年度活動計画 (1)環境保全WG ・低炭素社会実行計画・省エネ補助金関連・FIT賦課金減免・環境省「地球温暖化対策計画(案)」 (2)化学品安全WG ・酸素、アルゴンのJIS改訂 ・厚労省リスクアセスメントパンフレット ・地域本部セミナー対応
2	平成28年第2回環境・安全部会	平成28年11月17日	1)平成28年度活動計画および活動状況報告 (1)環境保全WG ・低炭素社会実行計画 ・FIT賦課金減免措置関連法改正 (2)化学品安全WG ・JIS改訂状況 ・SDSとリスクアセスメント、イエローカード改訂 ・高圧ガス保安法改正事項
3	化学品安全WG	平成28年4月18日	SDS修正／イエローカード／JIS改訂／化学品リスクアセスメント
4		平成28年6月20日	JIS改訂／化学品リスクアセスメント／JIMGA地域本部セミナー
5		平成28年9月2日	JIS改訂／化学品リスクアセスメント／JIMGA地域本部セミナー
6		平成28年12月26日	JIS酸素・アルゴン改訂／SDS関係／化学品リスクアセスメント／JIMGA地域本部セミナー
7		平成29年2月24日	JIS酸素・アルゴン改訂／SDS関係／化学品リスクアセスメント／JIMGA地域本部セミナー



環境・安全部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
8	環境保全WG	平成28年6月10日	JIMGA低炭素社会実行計画／地球温暖化対策計画(案)パブコメ／FIT賦課金減免対応／補助金関連
9		平成28年9月16日	地球温暖化対策計画／FIT賦課金減免／低炭素社会実行計画
10		平成28年11月2日	FIT賦課金減免／地球温暖化対策／低炭素社会実行計画
11		平成29年2月10日	FIT賦課金減免／低炭素社会実行計画／「ガスの廃棄指針」／産業ガスレポート／平成29年度補助金／PCB廃棄物適正処理
12	省エネフォローアップ小委員会	平成28年7月22日	低炭素社会実行計画／FIT賦課金減免
13		平成28年11月2日	FIT賦課金減免／地球温暖化対策／低炭素社会実行計画
14		平成29年3月31日	FIT賦課金減免／低炭素社会実行計画／JLCAデータベース／経団連地球温暖化対策計画に対する提言案

国際部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	国際部会会議	平成28年4月19日	平成27活動実績／平成28計画
2		平成28年11月15日	平成28年度上期活動実績
3	規制改革WG会議	平成28年4月11日	第10回高圧ガス小委員会会議、平成27活動報告／平成28計画、新事業所認定制度
4		平成28年7月27日	経済産業省高圧ガス保安室説明会、規制改革懸案事項の進捗
5		平成28年11月9日	高圧ガス保安法省令改訂に伴うパブリックコメント、規制改革懸案事項の進捗
6		平成29年2月15日	ファスト・トラック制度の本格運用、規制改革懸案事項の進捗
7	IHC対応WG会議	平成28年3月29日	平成27年度実績／平成28年度計画、IHC会議議事録確認、特殊ガスギャップ分析進捗
8		平成28年7月12日	GC会議議事録確認、第39回IHC会議準備、特殊ガスギャップ分析進捗
9		平成28年10月13日	第39回IHC会議議事録確認、特殊ガスギャップ分析進捗、国際統合化功労賞候補
10		平成29年2月16日	GC-Web会議議事録確認、第40回IHC会議への準備、特殊ガスギャップ分析進捗
11	第39回IHCロンドン会議	平成28年7月19日～21日	IHCプロジェクト進捗・新規プロジェクト確認、ギャップ分析によるプロジェクト候補検討
12	第40回IHCバンコック会議	平成29年2月28日～3月2日	IHCプロジェクト進捗・新規プロジェクト確認、ギャップ分析によるプロジェクト候補検討、国際統合化功労賞候補推薦
13	IOMA-GC フィラデルフィア会議	平成28年5月17日	国際統合化プロジェクト進捗確認、ギャップ分析進捗確認、国際統合化功労賞決定
14	IOMA-GC Web会議	平成28年10月19日	IOM-GC Web会議
15	IOMA サンディエゴ会議	平成28年10月25日～26日	IOMA 総会参加
16	第1回ギャップ分析 Web会議	平成28年6月16日	特殊ガスギャップ分析におけるプロセス・ハザードの検討(1次案の議論)
17	第2回ギャップ分析 Web会議	平成29年2月17日	特殊ガスギャップ分析におけるプロセス・ハザードの検討(最終案の議論)

国際部会			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
18	第5回～14回JIMGA 基準化会議 Web／面談	平成28年4月7日	「空気液化分離装置の安全運転指針」
19		平成28年4月25日	「空気液化分離装置の安全運転指針」
20		平成28年6月2日	「空気液化分離装置の安全運転指針」
21		平成28年6月27日	「空気液化分離装置の安全運転指針」
22		平成28年7月29日	「空気液化分離装置の安全運転指針」
23		平成28年12月1日	「空気液化分離装置の安全運転指針」
24		平成28年12月15日	「空気液化分離装置の安全運転指針」面談
25		平成29年1月26日	「空気液化分離装置の安全運転指針」
26		平成29年2月24日	「空気液化分離装置の安全運転指針」
27		平成29年3月22日	「空気液化分離装置の安全運転指針」面談

地域本部、本部長、事務局長会議			
No.	会議・WG会議名称	開催年.月.日	議 題
1	全国事務局長会議	平成28年6月15日	1)熊本地震の状況について 2)各地域本部の懸案事項 3)本部連絡事項 3-1)医療ガス部門 ①自主基準の改訂について ②学会との三者合意について ③厚生労働省パプコメについて (医薬品新バーコード、添付文書) ④MGRについて 3-2)産業ガス部門 ①国際整合化文書について ②省令改正の件 ③水素ガス保安講習会開催について

# 平成29年度 事業計画

## 産業ガス部門事業計画

### 1. 主要会議

産業ガス部門総会・定時総会

平成29年6月14日

理事会

第1回：平成29年5月26日

第2回：平成29年6月14日

第3回：平成29年6月14日

理事会・評議員会合同会議

第1回：平成29年5月26日

第2回：平成29年11月28日

賀詞交歓会

平成30年1月11日

全国事務局長会議

平成29年6月15日

### 2. 総務部会

理事会・評議員会および総会に諮る以下の事項について、審議する。

- (1) 決算・予算審議
- (2) 定時総会、理事会、評議員会開催の件
- (3) 入退会、職員異動
- (4) 表彰制度の運用
- (5) その他、規程の改定等審議

### 3. 広報委員会

JIMGAが果たす社会的責任やコンプライアンスへの取り組みを的確に情報発信し、協会の地位向上を図り協会全体の事業活動を支援するために以下の取り組みを行う。

また、JIMGA発足10周年に合わせた広報活動を計画・実施する。

- (1) 協会ウェブサイトの内容の充実  
会員へのタイムリーな情報提供に努め、発信するJIMGAを意識した情報発信を行う。

また、各ページを点検し、陳腐化した情報の更新や必要な情報の提供に努める。

#### (2) 産業ガスレポートの発行

活動・事業の記録書として、協会の活動と事業の報告、重要課題への取組、トピックス、統計データ等を内容として、9月と3月の年2回発行する。

#### (3) JIMGAnewsの発行

協会解説、ニュース等の通信紙として、活動や事業の報告ダイジェスト、ニュース、会員紹介などを内容として、年6回偶数月の月末に発行する。医療ガス部門の情報も掲載する等、内容の充実に努める。

#### (4) マスコミへの発信

協会の動向や意志を協会トップや役員から直接発信するべく、記者会見や記者懇談会などを通じて、情報発信の機会をより一層広げ、パブリシティの充実に努める。6月、11月の年2回を定例記者会見とし、適時臨時記者会見を開催し、情報発信を行う。

#### (5) 広報活動の連携強化

社会インフラとしての産業・医療ガスの認知度の向上を目指し、医療ガス部門・産業ガス部門のワンボイスでの情報発信に努め、広報活動を強化する。

### 4. 企画部会

各WG間で情報を共有し、保安確保のための活動を継続する。

#### (1) 長期停滞容器回収推進WG

昨年度公表した、「容器使用料の考え方について」の活用状況を情報共有し、容器使用料の契約化推進を図る。また、容器管理指針の発行および容器管理指針への返却期限記載の働きかけに引き続き取り組

み、これらの活用により長期停滞容器回収を促進する。

- ・貸出容器の有償化に関して、考え方の整理を完成させ、対外的に公表することによって、延滞料から容器使用料への移行を促進する。
- ・地域行政の「容器管理指針」発行について、まだ発行されていない行政に対する取り組みを更に強化する。また返却期限の記載のない指針について、記載を働きかける取り組みも強化する。
- ・JIMGAの会報、ウェブサイトを活用し、長期停滞容器を回収するための各種資料の普及に努める。
- ・容器RFタグ運営委員会およびEDI運営委員会との連携を行い、RFタグによる容器管理及びJIMGA-EDI活用による容器使用料徴収の実例紹介を検討する。

## (2) 物流WG

産業ガスの物流において、「保安」と「配送効率化(CO<sub>2</sub>排出量削減)」という二つのテーマに対し、幅広く意見交換を行っていく。

- ・CO<sub>2</sub>排出量統計を継続して行う。近年、外的要因により配送効率が悪化している炭酸ガスローリ等について、業界全体としての状況把握に努めるとともに、更なるCO<sub>2</sub>排出量の低減に向けた意見交換を行う。
- ・ヒヤリハット事例についてKHKのデータベース等から、各社の共通となり得る事例に対し意見を交換し、各社の保安教育に活かすと共に、業界としての取り組みに繋がるような内容について協議を行う。
- ・保安対策WGで検討している「CE単独荷卸し」に関する情報共有を図り、必要に応じて検討を行う。
- ・産業ガス業界以外の物流の取り組み(共同

物流・配送システムなど)について、外部の方を招くなどし、理解を深める。

- ・各委員の業務内容や保安への取り組みを紹介してもらい、共通となり得る課題に対して、意見交換を行う。
- ・緊急対策WGで作成する「プラントの定修予定表」について、本WGでも情報共有化を図る。
- ・物流関係の事故情報の交換や保安法改正に関する情報共有を図る。

## (3) 容器処理WG

- ・主な活動を「高圧ガス容器特別回収プロジェクト」との合同会議とする。WGとして解決すべき課題が発生した場合は、随時会議を開催する。

## 5. 容器RFタグ運営委員会

### (1) 普及・促進活動の強化

- ・6社の運用拡大を確認し、各社のグループ内で未導入の会社・充填所について情報交換実施。
- ・必要に応じて地域本部単位での説明会を開催し、未導入の会員への導入を目指す。
- ・小型容器用RFタグをより多くの会員に試用して貰い、普及を目指す。

### (2) 各種課題への対応の継続

- ・高圧ガス業界以外での利用を目指し、異業種へのアプローチを実施する。
- ・容器検査所におけるRFタグの取付拡大を支援するため、全検協の講習会にてRFタグの説明会を計画する。

## 6. EDI運営委員会

JIMGA-EDIの安定的な運用のため、委員会組織として以下の活動を行う。

### (1) 普及促進活動

- ・JIMGA-EDIの採用拡大に向けて、会員各

社の導入に障害となっている条件を確認し、解決策を検討する。

- ・地域本部の要望等、必要に応じて説明会を開催する。
- ・容器使用料徴収やRFタグの普及促進について、他のWGと連携して取り組む。

#### (2) EDIシステム運用

- ・システム運用会社からの報告による課金管理を確実に実施する。

### 7. 技術審議委員会

年2回開催しJIMGAの活動の中心である技術、保安、環境、安全等に関し、上程された案件を審議する。

### 8. 技術・保安部会

年2回開催し各WG間の情報を共有し、技術、保安に関する取り組みを推進する。

#### (1) 容器技術WG

- ・容器保安規則関係例示基準およびKHK基準等に不都合が発生した場合は、外国基準の引用も含め、業界として基準改正および追加等の検討を行う。
- ・法令の改正、ISOやJIS規格改訂等があった場合に、必要に応じてJIMGA指針の見直しや制定を行う。
- ・ISO/TC58国内委員会への参画とISO規格原案等の検討、およびTC58/SC4国際会議へ参加する。
- ・容器再検査へのAE試験・UT試験導入について、日本非破壊検査協会の検査基準検討委員会に参加するとともに、大型容器への適用動向を把握し、容器則、容器則細目告示改正に対応する。

#### (2) 超低温貯槽WG

- ・自主基準「CE附属品の取り扱い要領(初版)」にテーマを追加し、第2版を発行する。

- ・高圧ガス保安法および関係規則やKHK基準等について、不都合があった場合、外国基準の引用も含め対応を検討する。

- ・ファスト・トラック制度活用案件として、「超低温容器用材料としてSUS304N1/N2の採用」について、経済産業省の動向に合わせて提供可能な情報を各社で確認の上開示し、適宜対応していく。

- ・ISO/TC220国内委員会への参画とTC220関連基準検討、およびTC220国際会議へ参加し、情報の収集・発信等に努める。

#### (3) 充填技術WG

- ・「高圧ガス充填フレキシブルホース(可とう管)に関する研究・検討及びレポート作成」に取り組む
- ・「酸素ガス充てん所作業基準(追補)」について普及セミナーの開催を計画する。

#### (4) 保安対策WG

- ・CEへのローリ単独荷卸しに係る運用基準案を作成しJIMGA内での承認を経て、経済産業省に提案する。
- ・現状の基準・テキスト類の整備状況を踏まえ、発行済み図書の見直し、または新たな基準・テキスト類の策定を検討する。

#### (5) 教育・研修WG

- ・e-ラーニング「溶解アセチレンの安全な取扱い」を4月にリリースした。
- ・既存リリース済みのe-ラーニング教材について、法令改正等により修正が必要な箇所があるか否かの確認を実施する。

#### (6) 安全統計WG

- ・高圧ガス事故、関連する労災事故の情報を収集し、必要に応じてJIMGA ウェブサイトに掲載する。
- ・労働災害情報を分析・検討し、労働災害指標である度数率、強度率、事故の傾向分析等を行う。

- ・ 高圧ガス関連事故(災害)として、KHKの平成28年災害事故報告およびJIMGAの事故情報について、事故の原因と傾向を比較検討し、安全ニュースを発行する。
- ・ 過去の事故情報、ヒヤリハット事例等を活用し、各地域本部の保安セミナー等での発表を通じて情報の共有化と、安全活動に係る教育活動を支援する。

#### (7) ヘリウム技術WG

- ・ ヘリウムガスおよび液化ヘリウムの安全な取り扱いについて、「ヘリウムの性質」、「ヘリウムの用途」、「取扱い上の注意」、「事故事例と安全対策」の項目でまとめた指針案を技術審議委員会に上程する。
- ・ 水深40mを超える潜水業務における潜水用ガスの使用状況等について、昨年度に続き実態調査を行う。
- ・ ヘリウムソース、海外情報の収集・分析、使用に関する技術開発動向等について、引き続き情報収集を行い共有化する。
- ・ ヘリウム技術WGで作成した冊子等の改訂の可否を検討する。

#### (8) 炭酸ガス技術WG

- ・ 平成30年開催予定の第18回炭酸ガス保安講習会の準備を行う。
- ・ 炭酸ガスの事故事例の教育資料を作成する。

#### (9) 溶解アセチレン技術WG

- ・ 38年容器への対応について、WGメンバーおよびその他同業者を通じて啓発に努める。
- ・ アセチレン製造事業所の保安活動を推進するとともに、アセチレン工場の事故再発防止策をJIMGA基準に追加し、運用を推進する。
- ・ RFタグ普及推進と現状把握

#### (10) 水素企画委員会・水素技術WG

- ・ 水素統計資料として、平成29年圧縮水素仕向け先・荷姿別・出荷実績集計表、およ

び圧縮水素出荷実績5年推移を作成する。

- ・ 平成30年度支部別水素プラント定修予定表を作成する。
- ・ 「圧縮水素運送自動車用附属品の技術基準」について、最新の知見に基づき改正作業を行う。
- ・ 平成28年度に延期した九州地域本部(福岡)での「水素取扱上の基礎知識」講習会を開催する。
- ・ 研修会の開催および他のWGへ参加し、会員会社への技術・安全情報の提供と共有化を推進する。

#### (11) 特殊ガス企画委員会・特殊ガス技術WG

- ・ 半導体材料ガスおよび標準ガスの平成29年統計資料を作成する。
- ・ 平成28年11月の高圧ガス保安法改正およびNITEのGHS分類変更に伴い、特殊ガスのSDSの見直しを実施するとともに、イエローカードの見直しも検討する。
- ・ 容器基本通達(容器則9条関係)改訂案を経済産業省に提出する。
- ・ 前年度作成した自然発火性ガスのギャップ分析のマトリクス表に埋め込みを行ってリスクの抽出を行い、各協会と検討を進める。
- ・ 企画部会と連携して特殊ガスの長滞容器の回収を推進する。
- ・ 特殊ガスの容器供出に努めてCRC西日本の安定運営に寄与する。
- ・ JIS Z 7253対応のSDSについて、JCSS対象製品の各社割り振りSDS案に対して、語句の統一など最終調整を行い完成させる。

#### (12) 水素スタンドプロジェクト

[液体水素による貯蔵・水素スタンド規制・基準の整備に関する検討]

- ・ 液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドの技術基準案に対する事業者のコンセンサスを得次第、NEDOプロジェクト成果(技

術基準整備に資する資料)として取りまとめる。

- ・規制当局における技術基準案等の審査の過程で追加安全対策等の検討の必要に応じて、調査・検討を行い、データの提供等を行う。
- ・規制当局における技術基準案等の審査の結果、必要に応じてJIMGA自主基準の新規作成或いはJIMGA-T-S/97/15の改訂を行う。
- ・NEDO成果報告書案を作成する。

## 9. 環境・安全部会

年2回開催し各WG間の情報を共有し、エネルギー政策の見直しと地球温暖化対策関連の動向をフォローし、電力多消費産業の立場から対応する。

### (1) 環境保全WG

- ・経団連低炭素社会実行計画フォローアップ調査を実施する。
- ・地球温暖化、省エネルギーの諸施策に関して情報を収集し、必要に応じて、会員への周知、対応等を検討する。
- ・再エネ賦課金減免制度について対応する。
- ・環境関連の情報収集により、必要に応じて環境ニュースを発行する。

### (2) 化学品安全WG

- ・平成30年の窒素 (JIS K 1107:2005) の改定時期に備え、検討作業を開始する。作業として、分析法等において追加・改定等の要否を関係者に問い合わせを行うことから開始する。
- ・SDSについて必要に応じて見直しを行う。
- ・具体的なリスクアセスメント情報の収集を行う。情報の収集先としてJIMGA会員会社を対象に、毒性ガス(例えばCOガス)を扱っている会社のリスクアセスメントの

実施方法、状況等を調査する。収集情報をもとに「化学品のリスクアセスメント」の実務事例紹介等を検討する。

## 10. 国際部会

年2回開催しWGの活動報告、WG間の情報共有、国際会議参加状況報告等の活動管理を行う。

### (1) 国際統合化委員会 (IHC) 対応WG

- ・国際統合化プロジェクトのJIMGA基準化を推進(平成29年13件)
- ・「セレン化水素の安全な取扱い指針」、「アルシンの安全な取扱い指針」、「ホスフィンの安全な取扱い指針」、「特殊ガスのヒヤリハット」について対応を継続。
- ・「特殊ガスの自然発火性ガスのギャップ分析」について、ギャップ解析と新規プロジェクトの検討。
- ・参考国際統合化文書の「空気液化分離装置の安全運転指針」、「ガスの廃棄指針」、「シラン及び混合ガスの貯蔵と取扱い」、「酸素パイプラインシステム」について、JIMGA基準作成。
- ・AIGA、CGA、EIGA、IOMA等との技術交流会の促進と協調関係の継続・強化として、第41回IHCデンバー会議(7月)出席と第42回IHC神戸会議(3月)開催、IOMAドバイ会議(11月)出席、IOMA-GC Web会議(5月)参加。

### (2) 規制改革WG

- ・規制改革要望案を発掘・募集し、提案事項を審議する。
- ・規制改革要望案件についてフォローアップと方向性の明確化を行う。
  - ①モノシランの毒性の意見書提出(急性毒性)、
  - ②超低温容器の膨張測定試験の廃止、
  - ③医療用酸素容器の定期点検期間の緩和、
  - ④在宅酸素用LOX装置の製造届出要件の

緩和

- ・規制改革実現と規制改革後の運用把握を行う
  - ①容器再検査のAE（アコースティック・エミッション）／UT（超音波探傷検査）のNDIS（非破壊検査基準）基準化、②ファスト・トラック制度運用把握、③新認定事業所制度運用把握、④高圧ガスの法技術的課

題（可燃性ガスの定義と爆発限界の測定）  
対応の進捗把握

- ・経済産業省／高圧ガス保安協会との関係構築
- ・海外の規制、基準の調査、情報の発信
- ・規制改革WGの成果の会員へ周知とPR

豊富な  
導入実績

## RFタグ付高圧ガス容器管理をご検討なら 安心のデンソーウェーブへ

**DENSO**  
DENSO WAVE  
<http://www.denso-wave.com/>



RFIDハンディターミナルが  
業務の効率化をお約束

UHF帯RFタグ(920MHz)対応  
ストレスのない高い読み取り性能

### RFタグ付高圧ガス容器管理の導入メリット

- |           |                     |
|-----------|---------------------|
| 保安面の向上    | 長期停滞容器、不明容器、盗難容器の減少 |
| 顧客サービスの向上 | 利用日数情報を元にした発注管理の効率化 |
| 資産効率の向上   | 容器早期回収による資産の有効活用    |



高速、方向自在の  
読み取り

持ちやすい  
ストレート形状と  
ワイドキーピッチで  
ラクラク操作

耐久力に  
優れた  
高信頼設計

株式会社デンソーウェーブ 本社 〒470-2297 愛知県知多郡阿久比町大字草木字芳池1



QRコードは  
デンソーウェーブの登録商標です。



デンソーウェーブ  
公式facebookページ

東京支社 Tel:0120-585-271 東北営業所 Tel:022-782-0071 静岡営業所 Tel:054-208-3271 中部支店 Tel:0566-75-7901 大阪支店 Tel:06-7166-5010 広島営業所 Tel:082-504-1101 福岡営業所 Tel:092-643-6900  
カスタマーデスク ☎0120-585-271 (携帯電話、PHS からでもご利用になれます。) 受付時間9:10~12:00 13:00~17:30(土・日・祝日を除く)



## 会員の現状、今後の主要日程

### 1. 会員の現状

平成29年6月14日現在

	医療ガス部門	産業ガス部門	合計
正会員*	735社	299社	1,034社
賛助会員	－	24社	24社
海外会員	－	5社	5社
合計	735社	328社	1,063社

※正会員社数は議決権数を表す。

### 2. 今後の主要日程

	開催年月日	開催場所
平成29年度第2回 部門理事会・評議員会合同会議	平成29年11月28日(火) 14:00～	メルパルク大阪
平成30年 賀詞交歓会	平成30年1月11日(木) 16:30～	経団連会館
平成30年度第1回 部門理事会・評議員会合同会議	平成30年5月29日(火) 13:00～	経団連会館
平成30年度 定時総会	平成30年6月12日(火) 15:30～	経団連会館

## ボールを追って

JIMGA副会長 矢原 史朗

「サーティ、フォーティ」…「まずい、ここでダブルフォルトにするとこのセットを落としてしまう。」大体こんな時に限って腕が萎縮してラケットが振り切れず、黄色いテニスボールは必要以上に低い弾道を描き見事にネットを揺らす。

四十の手習いよろしく地元のテニスクラブに入って習い始めて早15年になるが、未だに思うような球が打てない。夢は錦織選手のようなダウンザラインのパッシングショットだが、それとは程遠いのが現実だ。家族からは、実はテニスはおまけでゲームが終わってからのご近所のメンバーの仲間とのお喋りが目的なんですよ、とからかわれる。まあ当たらずとも遠からずと妙に納得したりする。テニスというスポーツを通じて異業種で年齢層も多様なご近所の仲間と一緒に汗を流した後のビールは何とも言えない満足感がある。仕事の話は殆どしない。もっぱら近所の新しいレストランがどうだとか、どこの医者がいいとか、最近観た映画がどうだとか、孫がどうしたとか、まあいわゆる女子会というのこんな感じのかなと思ったりする。だから心身共にストレスの解消になる。それに健康維持にも役立つのだから一石二鳥という訳だ。

観戦する方では錦織選手のファンであり彼を応援している。去年は全仏オープンで錦織選手の試合をライブで応援することが出来た。世界レベルのプロはラケットでボールを打つ時のガシッという音が我々素人とは全然違うのに感動した。試合の相手は地元のガスケ選手だったこともあり、圧倒的な観客席からの応援(まるでサッカーの試合の様な騒ぎ方だった)に押されてしまい残念ながら錦織選手は勝つことが出来なかった。でも試合後

のローランギャロス内のレストランでは、右隣はモロッコ人、左隣はアメリカ人というように国際的な雰囲気の中で美味しいランチを味わうことができ満足した。それから、ロンドン郊外のウインブルドンにも、全英オープンの開催中ではないが8年ほど前に見学に行く機会があった。とても伝統の重みを感じるクラブ敷地内で興奮した。

テニスのいいのは、サッカーほどではないかも知れないが、世界共通でどこでも一定の人気がある事だ。当社では外国人の来訪も多いが、結構テニスをする人が多いのには驚いた。因みに当社会長のアラン・コンビエとも時々仕事帰りにテニスコートで汗を流している。コートの中では上司も部下もない。お互い真剣勝負である。この前は追いつきそうもないボールを無理に追いかけて転んで土まみれになってしまった。安全第一！

テニスを始める前はスポーツといってもたまたまゴルフをするくらいのことだった。テニスをする様になってから、丸一日潰れて費用も結構かかるゴルフから遠ざかってしまっていた。ところが2014年に当社で仕事をす



テニス仲間達と

るようになってからまたゴルフを再開する事になった。この業界はどうやらゴルフファンが多い様だ。従って今はテニスとゴルフという異種の球技を週末の予定にギッシリと埋めている状態である。

ゴルフを再開したのはいいが、元々完全に自己流であり、米国に住んでいた頃はそれこそ安くて便利な地元のコースで猿の様に棒を振り回していた。下手でも回数をこなすとそれなりのスコアが出てくるものだが、ある一定のレベルまでいくとパタッと伸びなくなった。帰国してからは忙しくなった以外にスコア頭打ちの理由もあってしばらくゴルフはお休みしていた。それが今回何年か振りに再開してみると、これが全然思った様にボールが飛んでいかない。まずは道具、と思ってフルセットを買い替えてみたところ最新の道具は良く出来たもので割と簡単に飛ぶらしいが、どうやらそれも人によるという事が分かった。どうして止まっているボールなのになんと当たらないのかと少しイライラしたりもする。思わずその理由をテニスにしたりもした。右手が強すぎてボールを引っ張り過ぎるから左に大きく曲がっていくんだ、と自分に言い聞かせたりした。テニスの神様、ごめんなさい。実際は単純に体幹が鍛えられていないのと身体の回転の軸がブレているだけの話である。そう言えばテニスの上達の条件も同じだった。体幹と回転。手打ちはダメ。基本は同じ。

私のゴルフのスタイルは完全にエンジョイ型である。コースは勿論、誰と一緒に回るかとか、同じコースでも季節や天気が変われば全く別のものになる。当然だが過去に回ったことのある同じホールでも毎回2打目の位置は異なる。だからゴルフは飽きないのだと感心する。スコアは二の次、折角自然の中で

数時間身体を動かすのだから、どうせなら同じパーティの人と楽しんでやらなきゃ、ということでスコアメーカーではなくてムードメーカーに徹している。

大きさも色も硬さも違うボールを扱う球技であるが、ボールに集中している間は頭の中が空っぽになる。正確に言えばゴルフの場合は次をどのクラブでどう打とうかな、と考えながらボールの場所まで歩いていくので空っぽではない。が、それ以外のことは考えていない。どちらも高齢者になっても楽しめるスポーツであるから、やはり健康維持に努めていつまでも仲間と楽しんでいきたい。そしてまた、それが経営者としての健全な事業経営判断にも繋がっていくのだと思う。少しこじ付けかな。家族に聞かれたら笑われそうな気がするので、JIMGA限りという事でどうかお願いします。(やはら・しろく＝日本エア・リキード株式会社 代表取締役社長 兼 CEO)



パリのローランギャロスにて



## 技術・国際ニュース



### 1. 技術・保安部会

#### 容器技術WG

容器技術WGは、容器に関する国内法関連対応、ISO規格の改訂・新規規格化案件対応および容器再検査の新技术の採用に向けた動向調査、検討を中心に活動しています。

ISO関連の取り組みは従来どおりですが、今年は、昨年度から動きが活発になっているAE(アコースティック・エミッション)やUT(超音波探傷検査)による容器再検査の一般規制化の動きへの対応に注力しています。

今年度、経済産業省から委託を受けて日本非破壊検査協会(JSNDI)が「高圧ガス容器の再検査方法規格(中・小型容器)原案作成委員会」を設置し、半導体製造に使用される中・小型容器(現段階では内容積150L以下)のUTによる容器再検査に関するJSNDI規格を今年末に制定の予定で作業を進めています。一般規制化はこの規格をベースに行われる予定です。この委員会にはJIMGA、全国高圧ガス容器検査協会が委員として参加しており、容器技術WG下に設置したAE作業部会において委員会での検討状況を共有した上で対応を協議し、JIMGAの意見を規格に反映するような対応がされています。なお、大型容器のAE/UT検査は今年度JSNDIが設置した別の委員会で技術的な課題が検討される予定です。

#### 超低温貯槽WG

平成29年度前半は以下の内容について活動しました。継続して積極的な活動を行います。

##### (1) 自主基準の作成

昨年12月に発行した「CE附属品の取扱い要領(JIMGA-T-S/102/16)」について、真空機器関係を追加する改定作業に取り組んでおり、今年度中

に完成する予定で進めています。

##### (2) ISO/TC220(超低温貯槽)への参画

2件のISO規格の制定、改定作業に対応しました。また6月12日～14日にヒューストンで開催された国際会議に出席し、ISO規格案についての協議を行いました。来年はフランスでの開催予定です。今後も積極的に参加し、規格案に対する国内の意見の反映、情報の収集・発信に努めます。

##### (3) 教育活動

WGメンバーのスキルアップを目的として、本年度後半に実施する見学研修会の検討を行っています。また「CE附属品の取扱い要領」について、地域本部の保安セミナーの講演に向けた準備を行います。

#### 充填技術WG

充填技術WGは、9つの地域本部とメーカー4社で構成し、活動しています。

平成29年度は、昨年度実施できなかった「高圧ガス充填フレキシブルホース(可とう管)に関する研究・検討及びレポート作成」を主なテーマとして取り組みます。

14.7MPa、19.6MPaの酸素用充填フレキシブルホースを対象として、受入検査、日常点検・定期点検の検査項目や周期等の管理基準や交換基準等を諸外国の情報等を含め研究・検討し、レポートとして取りまとめる予定です。

また、昨年度より進めていた「カードル自主技術指針」の見直しが完了し、今期改訂版を発行予定です。

その他、充填圧力に関する研究および見解の成果として昨年度作成した「酸素ガス充てん所作業基準(追補)」の普及に向けて各地域本部開催のセミナーに積極的に講師を派遣していきます。

## 保安対策WG

### (1) CE設置事業所への単独荷卸し実施要件

CE設置事業所の立ち会なしにローリ乗務員が荷降ろし作業を行う場合の安全確保に必要な要件（責任範囲を明記した契約、作業手順書および教育訓練内容等）を検討しています。今年度中にJIMGA基準として定め、経済産業省による基準認定を目指します。

### (2) 地域本部との連携

今年度も地域本部が主催する保安セミナーに講師を派遣します。現在予定しているセミナーは以下の通りです。

- ・四国地域本部（平成29年8月24日・CE実務保安Q&A）
- ・関東地域本部（平成29年9月15日・高圧ガス販売事業所自己診断指針）
- ・中国地域本部（平成30年2月15日・CE検査基準）

## 教育・研修WG

本年度もJIMGAウェブサイトを活用した安全教育用教材（e-ラーニング）の作成・改訂を行っています。まず、5月に「溶解アセチレンの安全な取扱い」を新規リリースしました。これはJIMGA地域本部よりアセチレンに関するe-ラーニング教材について要望があったことから、溶解アセチレン技術WG、全溶連様のご協力のもとに作成したものです。今後はアセチレンに係る業務従事者を中心に、幅広くご活用いただけるようPR活動に努めていきます。

次に、既存のe-ラーニング教材のコンテンツ見直しに着手しました。当WGでは平成23年度より6件のe-ラーニング教材を作成してきましたが、その間にも法改正や新技術の開発・導入が行われています。よって本年度は、クリーンエネルギーとしても注目されている「水素」について、新しい技術の紹介等も取り入れて改訂し、来年度の

期に「水素の安全な取扱い」の改訂版をリリースする予定です。

## 安全統計WG

### (1) 事故情報の収集と活用

会員各社より高圧ガス事故、高圧ガス作業に関連する労災事故の情報収集を行い、必要に応じJIMGAウェブサイト（会員専用ページ：災害・事故情報）に掲載します。

### (2) 労働災害統計

会員各社からの事故報告内容を分析し、会員各社において再発防止に活用できるよう、1年に1度報告書として配信しています。また、労働災害指標である度数率、強度率、および事故内容を災害発生場所、災害発生時の作業、災害の種類等で分類し分析を実施しています。

平成28年労働災害統計調査報告を6月にJIMGAウェブサイトに掲載。会員250社より報告をいただきました。JIMGA度数率は0.61、強度率0.015となり、全国製造業平均、化学工業平均、EIGA平均（欧州産業ガスメジャー6社）のいずれをも下回っています。

### (3) 高圧ガス関連事故（災害）の分類・解析

「アセチレン／酸素ガス容器（器具）の取扱い注意事項」の教育用パンフレット（A4×2ページ）を本年3月にJIMGAウェブサイトに掲載しました。

高圧ガス保安協会（KHK）の高圧ガス事故の平成28年報告の事故情報について、事故の原因と傾向を比較検討します。今年度の分析テーマは、製造事業所です。

### (4) 安全ニュースの発行

KHKと産業ガスの事故比較による分析を行い、前項(3)の傾向分析を踏まえ「安全ニュース」を発行します。

### (5) 平成29年度の保安セミナーについて

「安全統計資料 ヒヤリハット・事故事例から学

ぶ保安」のテーマで、過去の事故情報、傾向分析を活用し、各地域本部の保安セミナーでの発表を通じて情報の共有化と安全に係る教育活動を支援します。

## ヘリウム技術WG

平成29年度の活動として昨年度より継続して進めていた、ヘリウムガスおよび液化ヘリウムの安全な取り扱いについて、「ヘリウムの性質」、「ヘリウムの用途」、「取り扱い上の注意」、「事故事例と安全対策」をWG内で議論しました。過去の事故事例、その予防対策を踏まえた指針として取りまとめ、今年度の技術審議委員会で承認を得られるよう準備を進めています。

また、2015年4月の労働安全衛生法の高気圧作業安全衛生規則の改正により、水深40mを超える潜水業務についてはヘリウムを呼吸用不活性ガスとして用いることが規定されました。これに伴い、酸素+ヘリウム、酸素+窒素+ヘリウム等の潜水(ダイビング)用ガスの使用状況等について、引き続き情報を収集しています。

その他、これまでWGで作成した冊子等の改正履歴を整理し、今後改正が必要かどうかについて検討を行う予定です。また研修会として秋に「角田宇宙センター」での研修を予定しています。

## 炭酸ガス技術WG

炭酸ガス技術WGの平成29年度活動計画は次のとおりです。

### (1) 会議の開催

炭酸ガス技術WG全体会議の開催(1回/年) 常任委員による定例会議(6回/年)

### (2) 個別課題

#### ①平成30年開催予定「第18回炭酸ガス保安講習会」の準備

・各地域本部の炭酸ガス技術WG・技術グループとの情報共有化のため、地域本部の会議等

へ参加。

・地域本部関係者と共に第18回炭酸保安講習会骨子の計画を決定。

・講習会に使用する補助資料作成への協力。

#### ②炭酸ガスの事故事例の教育資料を作成

事故事例の教育資料については、定例会・サブWG会議で取り上げ、内容の検討を始めます。

#### ③炭酸ガス技術WGによる現地研修会

炭酸ガス技術WG定例会に合わせ、代表8社メンバーによる「炭酸ガス関連設備の視察」ならびに「保安意識の向上」を目的とした研修会を計画。進捗については次の通りです。

5月16日に炭酸ガス技術WG全体会議を行い、昨年度の活動実績報告、今年度活動計画の承認、関係部会ならびに関係WGの活動実績報告、ヒヤリハット事例(炭酸ガス編)とCE設備取扱いビデオ製作について報告を行いました。

定例会議を予定通り4月20日、6月23日に開催し、関係WGの活動報告および必要事項の検討、個別課題について議論を進めています。

今後、計画的かつ速やかに具体化するために、必要に応じてサブWG会議を開催し協議していきます。

## 溶解アセチレン技術WG

平成27年8月に発生した溶解アセチレン工場の事故に対応して、当WGでは平成28年度に「溶解アセチレン製造設備における当WGの推奨基準」をまとめました。そして今年6月に全国の溶解アセチレン製造事業所の保安責任者に対してこの推奨基準を周知して保安確保の徹底を図りました。また今年度末までに各製造事業所がどのような安全対策を施したかを調査する予定です。

なお当WGの活動については経済産業省高圧ガス保安室にも報告を行いました。

今年度は上記をベースにして、下記の活動計画を推進していく予定です。

- ① 38年容器の周知の啓発
- ② アセチレン事業所の保安活動の推進
- ③ RFタグ普及推進と現状把握

## 水素技術WG

平成28年度にKHKより見直し要請があり、平成29年度に改訂予定の「圧縮水素運送自動車用付属品の技術基準」(平成16年11月発行)について、KHKより経緯、理由、手続き方法などをヒアリングしました。その結果、高压ガス保安法の例示基準である本基準の改訂について、費用や効果を考慮に入れて再考する必要があることが判明したため、再検討を実施しています。

また、地域本部と連携して前年度に実施した「水素ガス取扱い上の基礎知識」(平成27年改訂版)の保安講習会の延期分を7月21日に福岡で実施し、水素取り扱い関係者へ周知徹底しました。

今後は、9月29日にバイオマス由来の水素を利用した「しかおい水素ファーム」での見学研修会を計画しており、WG員の知識向上、情報共有を図っていきます。

## 水素スタンドプロジェクト

液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドの火気取り扱い施設との距離・敷地境界距離を提案するための実験・シミュレーションが完了しました。これらの結果を受けJIMGA検討会および規制適正化検討委員会に提案し、審議の結果、提案通り承認を得ました。

実用的高強度材料の材料評価試験に関する検討については、これまでに取得した各種試験データを基に2鋼種(SUH660およびXM-19)について液化水素環境下での使用が可能であることをステアリング委員会に提案し、審議の結果、提案どおり承認を得ました。

液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドの技術基準の作成に資する資料の作成に関しては、こ

れまでに実施したリスクアセスメントの結果より抽出した安全対策について、JIMGA検討会および規制適正化検討委員会に提案し、審議の結果、提案どおり承認を得ました。今後は液化水素ポンプ昇圧型圧縮水素スタンドの技術基準の作成に資する資料を完成し、規制当局による技術基準作成への対応を行います。

また、もう1つの検討テーマである「2種製造設備に相当する水素供給設備の技術基準の整備に関する検討」については、平成29年6月29日開催のJIMGA技術審議委員会にて成果報告書の概略報告を実施しました。

## 特殊ガス技術WG

### (1) 基本通達の改訂

基本通達(容器則9条関係)の解釈をめぐり、混合ガス容器のガス名が変更できない不都合の解消のため、同通達の改定案を作成し、高压ガス保安協会と共に経済産業省に申し入れを行い、経済産業省と協議をしています。

### (2) JIS Z 7253対応のSDSに関する検討

JCSS対象製品で混合ガスのSDS作成の最終調整を行っています。

### (3) 容器警告ラベルの修正

容器警告表示ラベルの記載内容の見直しを行い、印刷用の原版の修正を行いました。

### (4) JIMGA版SDSの改訂

JIMGA版SDSについて高压ガス保安法の毒性ガスの定義変更、製品評価技術基盤機構(NITE)のGHS分類変更に沿った内容の見直しを各社分担して行っています。

### (5) 国際部会への協力

国際部会より要請の特殊ガスのプロセスとハザードのギャップ分析マトリクス表の作成に引き続き協力すると共に、ガスの廃棄指針の改定にも協力しています。

### (6) 研修会の開催

昨年度に引き続き本年度も参画メンバーの知識向上を目的に、研修会の開催を予定しています。

#### (7) その他活動

本年度も引き続き東京工業大学の要請により、特殊材料ガス安全管理講習に講師を派遣し、講習会を実施しました。

## 2. 環境・安全部会

### 環境保全WG

経団連では、産業界の主体的な地球温暖化対策の取り組みとして、2020年度のCO<sub>2</sub>削減目標を設定する「低炭素社会実行計画」を2013年から推進しています。産業ガス業界は、この活動に日本化学工業協会(日化協)を通して参加しています。その2016年度の活動実績を取りまとめ、日化協へ提出しました。引き続き、JIMGAにおいても地球温暖化対策への対応を進めていきます。

また、再生可能エネルギー賦課金減免制度に関し、情報収集を実施しました。

その他、環境関連の情報収集を進め、必要に応じ環境ニュース等により、会員の皆様へお知らせします。

### 化学品安全WG

平成29年度は次の活動を行っています。

#### (1) JISの改訂について

酸素とアルゴンのJISは改訂が終了し、平成28年3月に官報に公示されました。今年度は窒素JISの分析法等の追加やJIS本文の改訂すべき箇所などを充填所や空気分離工場等に確認を行っています。今年度、これらの収集情報も基に窒素のJIS改訂の必要性を判断します。

#### (2) 高圧ガスのリスクアセスメントについて

有害危険性のある高圧ガスの具体的なリスクアセスメントの収集・調査を行います。収集した情報をもとにJIMGA会員様へ「高圧ガスのリスクア

セスメント」の実務事例の紹介などを検討します。

#### (3) 産業ガスのHACCP対応について

今後のHACCPに関する食品衛生法改正の動向や食品添加物のHACCPの導入などの関連情報の収集をする予定です。

## 3. 国際部会

### IHC対応WG

本年2月28日～3月2日に第40回IHC(国際整合化委員会)タイ・バンコク会議が開催されました。会議では、JIMGA主導の「セレン化水素の安全な取扱い」が4協会から発行され、終了したことが確認されました。第5回医療ガス国際調整会議では、米国食品医薬品局(FDA)が、CGAのガイドラインを規制へ反映することが報告され、一応の解決ができたため、以降は医療ガス単独の会議を行わないことが確認されました。

また、5月9日には、IOMA国際委員会(GC)がWeb会議で行われました。JIMGAからは、特殊ガスギャップ分析について進捗を報告しました。次回11月は第74回ドバイ IOMA総会での面談会議となります。

7月11日～12日には、第41回IHCアメリカ・デンバー会議が開催され、JIMGAからは、地域報告の他に、水素ステーションプロジェクト、医療ガス、安全・事故報告、容器回収の状況について報告しました。また、特殊ガス(自然発火性ガス-シラン)ギャップ分析が終了したことが確認されました。次回の第42回IHC会議は日本がホスト国となり神戸で開催します。

会議参加に加え、JIMGA会員の皆様にIHC活動を紹介するページをJIMGAウェブサイトを追加しました。また、今年に入り5件の国際整合化文書(参考文書)が発行されています。



## 規制改革WG

産業保安のスマート化の対応として、ファスト・トラック（新しい技術を短期間に審査し、認証する）制度が昨年12月より運用されています。また4月より、新認定事業所制度も運用が開始されました。自主保安高度化事業所として認定されることによって、申請などの緩和のメリットを受けられる制度です。JIMGAとしては、制度制定に先立ち、JIMGA会員の皆様が、その新たな制度から利益を得られるよう経済産業省・KHKへ意見を述べており、制定にあって検討会に積極的に参加してきました。今後もそれらの制度の運用状況の確認を継続していきます。

「容器検査へのAE（アコースティック・エミッション）/UT（超音波探傷検査）の適用」は、昨年

9月より、実証試験報告書に基づいた第三者による検討と提言を行うために、「高圧ガス容器の再検査に関する調査研究委員会」が7回行われました。今年度は、NDIS（非破壊検査協会）基準化を行うために、新たに「半導体製造に用いる『中・小型』ガス容器の超音波探傷試験方法-原案作成委員会」が結成されました。JIMGAメンバーが委員として参加し、すでに3回の会議が行われています。本年度を目標に、基準化を終了する予定です。

また、新たな規制改革課題として、「CEへの単独荷卸し」について、経済産業省とKHKとの議論を始めました。JIMGA保安対策WGとして概要を作成し、今年度中には、施行できるよう活動していきます。

# 地域本部の活動報告

## 北海道地域本部

### 1. 定時総会

日時：平成29年5月8日（月）16:50～17:40

会場：札幌全日空ホテル

### 議 題

第1号議案 平成28年度事業報告承認の件

第2号議案 平成28年度収支決算報告承認の件

第3号議案 平成29年度事業計画（案）承認の件

第4号議案 平成29年度収支予算（案）承認の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

### 本部出席者：

副会長 今井 康夫

専務理事 永江 裕

常務執行役員 福盛 康宏

### 曾我部本部長挨拶

北海道経済は、昨年8月に相次いだ台風の影響から、農業・食品などの一部の生産活動に押し下げ圧力が見られたものの、観光客数の増加や公共工事増を背景に持ち直し基調を維持していると言われておりますが、我々の業界としては、なかなか景気回復の実感が、感じられない状況にあります。今後の景気回復に期待しているところであります。

今年度、北海道地域本部の活動として産業ガス部門は、引き続き「保安セミナー」を開催し一層の保安啓発活動に努めます。また昨年の、技術保安部会が中心となり策定した、容器管理指針では、北海道経済部に監修していただきました。北海道地区での更なる容器管理の強化を図っていきます。

医療ガス部門においては、今年も医療ガス保安講習会を札幌市内で開催し、更なる保安の啓発活

動に努めます。また、昨年度から北海道総務部危機対策課主催の「北海道防災総合訓練」に参加し、在宅酸素療法の患者が避難されたことを想定した実動訓練を行いました。今年も防災総合訓練に参加し災害時に的確で迅速な対応ができるように訓練してまいります。

今後とも皆様方の意見を充分お聞きしながら、業界また地域の発展のために取り組んでまいりたいと思いますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

本日、ご出席の皆様方の益々のご発展を祈念して、簡単ではありますが挨拶とさせていただきます。



曾我部本部長挨拶

### 今井副会長挨拶

平成29年度北海道地域本部定時総会の開催にあたり、JIMGA本部を代表して一言ご挨拶申し上げます。

日頃は、当協会の活動に多大なご支援、ご協力を賜りまして改めて御礼を申し上げます。

存在感のあるJIMGAを目指してまいりたいと思いますので引き続きよろしく御願ひ申し上げます。

国内の景気は、緩やかに回復を続けていると言

われていますが、我々の業界では、なかなか景気の回復を実感することができていない状況ではないかと思えます。昨年度は熊本地震の発生に始まりましたが、昨年末から今年初めにかけては鳥インフルエンザの大流行もあり、北海道、東北(青森、宮城)、新潟、岐阜、九州(宮崎、熊本、佐賀)で発生しました。会員の皆様におかれましては、炭酸ガスの緊急供給要請への対応に大変ご苦労されたと聞いており、改めて敬意を表したいと思います。

高圧ガスに関しましては、昨年放置容器の人身事故が発生したことから、会員の皆様方には10月の特別回収について例年以上のご協力をいただきました。この場を借りてご協力に感謝申し上げます。引き続き高圧ガス事故の撲滅を目指して、皆さんと協力して取り組みたいと思います。

さて、我々を取り巻く環境につきましては、ここ数年、二つのお話をさせていただいております。

一つは電気料金の問題です。原発停止により値上がりした電気料金は、原油価格が低下したとは言え、なお高い水準にあります。また、昨年末には再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)賦課金の減免制度を制限する方向での見直しが行われました。加えて、FIT賦課金は平成29年5月より、昨年度までの1kWhあたり2.25円から2.64円に改定されました。この結果、原燃料価格が現状水準で維持した場合、減免制度を活用したとしても産業ガス業界の電力費用は平成23年3月に比較して93億円の負担増加となります。今後、賦課金の減免制度は一層限定される恐れがあり、JIMGAでは、引き続き電力多消費産業11団体の一員として関係業界と連携し取り組んでまいります。

二つ目は消費税の問題です。平成29年4月に予定されていた税率10%への再引き上げについて、平成31年10月の実施に再延期されました。協会としましては、転嫁カルテルの期限を延長するとともに、引き続き調査会を活用して転嫁状況を確

認してまいります。

今年度のJIMGAの課題につきましては、後ほど両部門からお話ししますが、産業ガス、医療ガス両部門共通の課題として、コンプライアンスと保安の確保を第一に掲げ、安全・安心を確立し、産業ガス・医療ガス業界の更なる地位向上を目指してまいります。

加えまして産業・医療ガスが、経済社会の重要なインフラであり、また、ライフラインであることを認識いただくよう努めてまいります。また、冒頭でお話したようにJIMGAが会員各社のブレンとして必要とされるよう絶えず発信していくことを目指してまいります。

最後に本日ご出席の皆様方の益々のご繁栄とご健勝を、またそれぞれの会社のご発展を祈念申し上げます、挨拶とさせていただきます。



今井副会長挨拶



松岡幹事懇親会乾杯挨拶



乾幹事懇親会中締め

## 2. 平成29年度産業ガス部門活動方針

### (1) 保安強化、保安啓発活動の促進

保安啓発のセミナーを北海道溶材商業会と共催にて開催します。

技術保安に関する情報提供、技術保安に関するセミナー、説明会等を実施します。

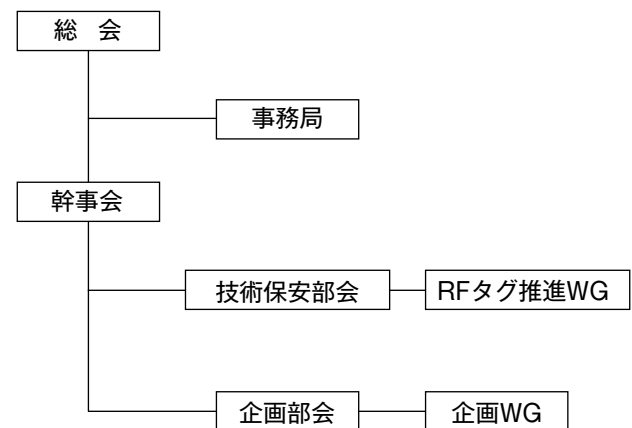
### (2) RFタグ普及の推進

最新情報の提供および普及促進の説明会開催、関連アンケート調査の実施等、RFタグ普及活動を推進していきます。

### (3) 視察会開催による会員の交流

高圧ガスに関連する施設(設備等)の視察会を開催し会員の交流を図ります。

## 3. 組織図



## 4. 役員・部会・WG名簿(敬称略・順不同)

### 役員



#### 本部長

曾我部 康  
エア・ウォーター(株)  
常務取締役北海道支社長

幹事	松岡 喜義	大陽日酸北海道(株) 代表取締役社長
幹事	乾 隆	函館酸素(株) 代表取締役社長
幹事	重塚 毅	日本エア・リキード(株) 北海道恵庭工場長
幹事	吉澤 尚芳	東邦アセチレン(株) 札幌営業所長
幹事	笹原 敦	エア・ウォーター(株) 総務部 事業所管理グループリーダー
会計監事	大道 和広	大陽日酸北海道(株) 取締役生産本部本部長 兼 製造部長
事務局長	高橋 宏史	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー エアガス部(札幌) 部長

### 技術保安部会

部会長	横山 則美	エア・ウォーター(株) 総務部 事業所管理グループ(札幌) 技術専任部長
委員	清水 和美	大陽日酸北海道(株) 生産本部 技術部 部長
委員	中山 稔	函館酸素(株) 製造技術部 部長
委員	重塚 毅	日本エア・リキード(株) 北海道恵庭工場長
委員	有田 健二	東邦北海道(株) 札幌事業所 製造課 課長
委員	三浦 克仁	高圧ガス工業(株) 札幌営業所長
委員	山本 和彦	北海道アセチレン(株) 取締役工場長

委員	深井 義昭	日本液炭(株)	北海道支店長
委員	土田 恭裕	北海道エア・ウォーター(株)	保安技術部 技術グループリーダー
委員	澤谷 敬司	共同炭酸(株)	工場長
委員	三浦 岳	苫小牧共同酸素(株)	工場長

#### 企画WG

委員	横山 則美	エア・ウォーター(株)	総務部 事業所管理グループ(札幌) 技術専任部長
委員	山中 能生	エア・ウォーター(株)	産業カンパニー 産業ガス関連事業部 エアガス部(札幌) 課長
委員	清水 和美	大陽日酸北海道(株)	生産本部 技術部 部長
委員	加藤 展弘	函館酸素(株)	取締役 設備工事部 部長
委員	松永 泰知	エア・リキード工業ガス(株)	東日本オペレーションセンター(恵庭) マネージャー
委員	有田 健二	東邦北海道(株)	札幌事業所 製造課 課長
委員	志田 勝広	北海道エア・ウォーター(株)	医療営業部 設備グループ グループリーダー
委員	河村 俊秋	日本液炭(株)	北海道支店
委員	山本 和彦	北海道アセチレン(株)	工場長
委員	橋本 和夫	高圧ガス工業(株)	札幌営業所 課長
委員	安彦 順治	エア・ウォーター炭酸(株)	札幌支店長代理
委員	三浦 岳	苫小牧共同酸素(株)	工場長
委員	澤谷 敬司	共同炭酸(株)	工場長
委員	高橋 宏史	エア・ウォーター(株)	産業カンパニー 産業ガス関連事業部 エアガス部(札幌) 部長

注)平成29年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

#### 5. 活動報告

##### 北海道農政部（鳥インフルエンザ対応）

- ・鳥インフルエンザ対応として、北海道による炭酸ガス容器の購入を依頼する。

北海道高圧ガス容器管理委員会 平成29年度定時  
総会

日 時：平成29年6月21日（水）

場 所：札幌全日空ホテル

##### その他の会議

全国事務局長会議

日 時：平成29年6月15日（木）

場 所：JIMGA本部

# 東北地域本部

## 1. 合同定時総会

(JIMGA東北地域本部産業ガス部門および医療ガス部門)

日 時：平成29年5月22日(月)15:15～16:30

(医療ガス部門との合同総会)

会 場：秋田ビューホテル

### 議 題

第1号議案 平成28年度事業報告および収支決算の承認を求める件

第2号議案 平成29年度事業計画および収支予算(案)の承認を求める件

第3号議案 役員の一部選退任の承認を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

### 来 賓

関東東北産業保安監督部東北支部

保安課長 伊藤 克哉 殿

秋田県産業労働部資源エネルギー産業課

課長 阿部 泰久 殿

秋田県産業労働部資源エネルギー産業課

主査 沢木 昭祥 殿

### 本部出席者

副会長 上羽 尚人

専務理事 永江 裕

常務理事 瀬戸 昭則

### 坂本本部長挨拶(要旨)

今年は政治的にも色々な変化が起きており、また、起きようとしております。アメリカの大統領選を皮切りに、ヨーロッパ・中東・韓国等各国の政治のトップが選挙で革新系あるいは保守系どちらに変わるかということに影響を受け、為替が大

きく変動し、国内の特に製造業への影響が日々新聞を賑わしております。半導体産業の一部が好況を維持していると聞こえてはおりますが、自動車関連業界が生産拠点をどこに置くかによって今後の国内企業の業績に大きく影響する時代になっております。

また、東北経済へ目を移しますと工業ガス需要は統計的に見ると震災前を下回っております。前年を下回る、あるいは、前年ほぼ横ばいの状況が続いており、震災前の状況には戻らない、あるいは先が見えないという状況にあります。

JIMGA医療ガス部門の活動では、在宅酸素療法において、患者さんの誤った火気の取り扱いによる火災死亡事故が依然として多く発生しています。是非、患者さん宅を訪問される時には、繰り返し火気の取り扱いについて注意喚起を継続していただきたいと考えております。また、日本麻酔科学会および日本医療ガス学会との三者合意により医療用炭酸ガスと医療用酸素の小瓶へ取り違い防止の医薬品ラベルを貼付することになり、すでに多くの会員に採用いただいています。この度、厚生労働省監修のもとに啓発ポスターも作成しましたので、医療機関の酸素容器保管場所へ掲示いただけますようご協力をお願いいたします。

更に、平成28年1月に「医療ガス容器保安対策指針」を制定し、具体的な活動として容器の返却時期を容易に確認できるように「納入月ラベル」の導入、年1回の「容器点検キャンペーン」の実施と「貸借契約の締結」の推進に取り組むため、「啓発チラシ」を会員の皆様へお届けしますのでご利用をお願いします。

産業ガス部門の活動では、RFタグ容器管理システムの導入推進で現在、全国253事業所、約758千本へ導入され、V3タイプへの移行も全体の84%まで進んでいます。東北の事務局では、会員

各社に出向いて説明会を実施しております。是非、ご検討ならびにお声掛けくださいますようお願いいたします。

昨年は5月に長崎市の魚市場、8月に姫路市の倉庫で長期停滞していた酸素容器の破裂事故が発生しました。幸いどちらも死傷者が発生するような人的な被害はありませんでしたが、東北の事務局としましては、全浴連の皆様とも協力して、周知文書の配布の徹底や、保安セミナーの開催等により、繰り返し保安に関する情報を提供していきたいと思っております。

また、東北では昨年11月の青森県に続き、本年3月には宮城県でも鳥インフルエンザが発生し、炭酸ガス供給に関して地元の各協会・各社が大きく貢献し、被害の拡散防止に寄与できたのは幸いだと感じております。

我々、ガス業界は災害時の医療ガスの供給、鳥インフルエンザ発生時の防疫作業への協力等を含め、地域への協力体制の強化は益々必要かつ重要になるものと思われまます。

高圧ガスを取り扱う事業者は、保安確保のためには一定のコストを覚悟しなければならない宿命にあります。今後更に会員各社の絶え間ない保安活動の推進と、益々のご健闘を祈念いたします。

結びにあたり、定時総会の会場の準備にご尽力頂いた地元の相場商店の相場社長へ御礼申し上げます。



坂本本部長挨拶

## 来賓ご挨拶（要旨）

関東東北産業保安監督部東北支部 保安課長

伊藤 克哉 殿

高圧ガスは産業分野から生活関連分野まで幅広く利用されております。最近では水素自動車・水素スタンド等新たな分野で利用されており産業活動や国民生活の根幹を担っており、高圧ガスによる事故撲滅は行政および事業者挙げての重大な使命と考えております。

平成28年の全国の高圧ガス関連の事故件数は863件で前年より111件の増加です。このうち容器喪失・盗難等を除く、災害と分類される事故は495件で、前年より43件増加し、過去最高の件数です。このうち製造事業者の事故は398件で同じく72件増加しており、主に冷凍事業所41件で25件増加、一般高圧は111件で21件増加となっております。重大事故であるB級またはB1事故以上は1件増加し、死傷者数は4名で2名増加し、負傷者は47名で21名減少していますが依然、死亡事故がなくなっておりません。

東北管内の状況は昨年、容器喪失・盗難を除く事故は37件で7件増加しています。負傷者数は重傷1名、軽傷9名と2名増加していますが、幸い昨年はB級事故が発生しておりません。しかし、今年に入って福島県の食品工場で1名が死亡したLPG爆発事故が発生し、原因調査中であります。

全国的に高圧ガス事故は増加傾向にあり、プラントの老朽化によるリニューアルの遅れ、安全管理を行っていた経験豊かなベテランの方のリタイヤにより技術の伝承がうまくなされていないことが原因の一つと考えております。このような状況が続くと重大事故の続くリスクが増大すると考えており、IoTやビックデータ等を活用して自主保安力を高めるためのスマート化の促進を進め、安全・安心の確保および企業の国際競争力の強化を目指しております。

高圧ガスの分野においても自主保安の高度化を促す制度として今年4月から始まった新認定事業所のスーパー認定事業所制度の創設、リスクアセスメントガイドラインの作成、ファスト・トラック制度の創設、水素ステーションや燃料電池自動車普及に向けた規制の見直し、エアバック等を規制対象外等の必要な法改正を順次進めております。

産業保安監督部としてもJIMGAを始めとする関係団体、各自治体と連携しつつ管内の高圧ガスの保安確保に努めてまいります。



来賓挨拶

#### 秋田県産業労働部資源エネルギー産業課

##### 阿部 泰久 殿

秋田県には古くから金属精錬・非鉄金属製造・弱電産業が立地している他、二つのロケット実験場も立地しています。会員の皆様にはこうした事業への産業ガスの供給、医療用ガスの安定供給の他、高圧ガスの安全の確保にご尽力していただきており感謝しております。

秋田県では35年間にわたり人口減少が続き、今年4月には100万人を切りました。県ではこの現状を踏まえ、未来総合戦略として人口減少問題を早期に解消するために産業振興による仕事づくりを目標とし、新エネルギー産業や交通産業等の成長分野の振興・人材育成に取り組んでおります。

また、最近では水素社会の実現を見据え、2040年ロードマップに向かって取り組みを進めています。秋田県は再生可能エネルギーが非常に多く、CO<sub>2</sub>フリーの水素製造について協力をお願いすることも多々あると思いますのでよろしくお願い致します。

製造業が良くなると産業ガス分野も良くなると思いますが、製造業が今後、極端に良くなることは難しいと思います。産業ガス分野が良くなる仕組みを構築していただきたいと思います。



来賓挨拶

#### 懇親会

##### 上羽副会長挨拶（要旨）

JIMGAの課題としまして、安心・安全を確立し、産業ガス・医療ガス業界の更なる地位向上を目指して頑張っております。

また同時に産業・医療ガスが、社会・産業のインフラおよびライフラインとして重要な製品であることを社会の皆様方に御理解いただけるように努め、また会員各社のブレンとして会員の皆様から必要とされるJIMGAであるために、絶えず発信することを意識してJIMGAのプレゼンス向上を務めてまいります。

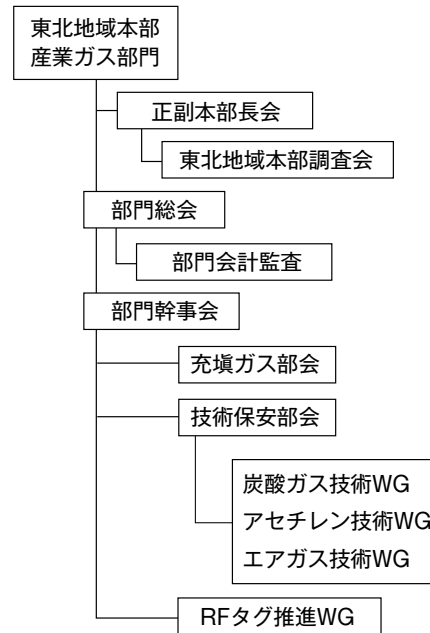
最後に本日ご出席の皆様方の益々のご繁栄とご健勝を、またそれぞれの会社のご発展を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。



## 2. 平成29年度活動方針

- 1) 保安対策の推進
  - ・ 高圧ガス保安法及び関連法規の周知とその遵守
  - ・ 協会自主基準、指針等の普及促進
  - ・ 長期停滞容器の回収と放置容器の撲滅
- 2) 各部会活動の推進
- 3) 関係官庁及び関係保安団体との連携強化

## 3. 組織図



## 4. 役員・部会・WG名簿 (敬称略・順不同)

### 役員



**本部長**  
坂本 雅博  
大陽日酸(株)  
常務執行役員 東北支社長



**副本部長**  
大場 正仁  
山形酸素(株)  
代表取締役社長



**副本部長**  
高橋 稔  
エア・ウォーター(株)  
執行役員 東北支社長



**副本部長**  
谷代 進  
東邦アセチレン(株)  
代表取締役専務

幹事	大塚 清高	日本エア・リキード(株)	東日本支社東北支店 支店長
幹事	加藤 尊康	高圧ガス工業(株)	仙台工場 理事 東北地区長 兼 工場長
幹事	松川 憲司	岩谷産業(株)	関東支社 仙台支店長
幹事	柿崎 卓也	第一開明(株)	代表取締役社長
幹事	相場 栄利	(株)相場商店	代表取締役社長
会計監事	熊谷 孝嘉	岩手工業(株)	代表取締役社長
会計監事	藤田 公	日本液炭(株)	東北支社長

### 東北地域本部調査会

会長	坂本 雅博	大陽日酸(株)	常務執行役員東北支社長
副会長	大場 正仁	山形酸素(株)	代表取締役社長
委員	谷代 進	東邦アセチレン(株)	代表取締役専務

委員	高橋 稔	エア・ウォーター(株)	執行役員東北支社長
委員	葛西 信二	(株)東酸	代表取締役社長
委員	相場 栄利	(株)相場商店	代表取締役社長
委員	竹内 久司	東邦岩手(株)	代表取締役社長
委員	柿崎 卓也	第一開明(株)	代表取締役社長
委員	窪田 英一	(有)クボタ商会	代表取締役社長
委員	大塚 清高	日本エア・リキード(株)	東日本支社東北支店 支店長
委員	渡辺 明宏	(株)郡山酸素商会	専務取締役

#### R F タグ推進WG

推進責任者	坂本 雅博	大陽日酸(株)	常務執行役員東北支社長
推進責任者	大場 正仁	山形酸素(株)	代表取締役社長
推進責任者	谷代 進	東邦アセチレン(株)	代表取締役専務
推進責任者	高橋 稔	エア・ウォーター(株)	執行役員東北支社長

#### 充填ガス部会

部会長	葛西 信二	(株)東酸	代表取締役社長
委員	工藤 良一	(株)工藤酸素店	代表取締役社長
委員	相場 栄利	(株)相場商店	代表取締役社長
委員	遠山 進	太平熔材(株)	代表取締役社長
委員	柿崎 卓也	第一開明(株)	代表取締役社長
委員	笠井 健	北良(株)	代表取締役社長
委員	大場 正仁	山形酸素(株)	代表取締役社長
委員	池田 真	(株)福島共同ガスセンター	常務取締役工場長
委員	高橋 稔	東北エア・ウォーター(株)	代表取締役社長
委員	伊藤 武彦	カガク興商(株)	代表取締役社長
委員	渡部 隆文	荘内ガス(株)	代表取締役社長
委員	小山 博幸	仙台日酸(株)	常務取締役

#### 技術保安部会

部会長	佐々木 丈志	大陽日酸(株)	東北支社 技術部長
委員	玉井 義明	太平熔材(株)	保安管理部長
委員	中村 成伸	北日本アセチレン(株)	工場長
委員	村上 晃也	岩手工業(株)	専務取締役
委員	藤田 敦	(株)東酸	製造課長
委員	長岡 貢司	山形酸素(株)	執行役員事業部長
委員	進藤 昌一	荘内ガス(株)	北港充填工場 常務取締役技術部長 兼 北港充填工場長
委員	小山 博幸	仙台日酸(株)	常務取締役
委員	原田 敏兆	日本液炭(株)	東北支社 技術サービス課長
委員	安齋 誠治	東邦アセチレン(株)	生産・技術本部技術部 課長
委員	村木 利雅	仙台アセチレン(株)	取締役工場長
委員	佐藤 哲	カガク興商(株)	配送センター 高圧ガス保安統括
委員	篠原 静夫	東北エア・ウォーター(株)	保安技術指導担当
委員	池田 真	(株)福島共同ガスセンター	常務取締役工場長

#### 炭酸ガス技術WG

グループ長	柿本 明広	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当(東北駐在) 部長
委員	原田 敏兆	日本液炭(株)	東北支社 技術サービス課長
委員	馬場 剛	エア・ウォーター炭酸(株)	技術部 生産・技術グループ課長

委員 名取 大輔 高圧ガス工業(株) 仙台工場課長  
委員 只野 英仁 昭和電工ガスプロダクツ(株) 東北支店副主事

#### アセチレンガス技術WG

グループ長 齋藤 祐輝 東邦アセチレン(株) 上席執行役員環境保安・品質保証部長  
委員 北日本アセチレン(株)  
委員 大陽日酸(株)  
委員 岩手工業(株)  
委員 仙台アセチレン(株)

※委員は検討案件に合わせて、各委員会社より選任する

#### エアガス技術WG

グループ長 長谷川繁則 大陽日酸(株) 東北支社 業務部長  
委員 東北エア・ウォーター(株)  
委員 東邦アセチレン(株)  
委員 (株)仙台サンソセンター  
委員 (株)大平洋ガスセンター  
委員 秋田液酸工業(株)  
委員 日本エア・リキード(株)  
委員 (株)いわきサンソセンター  
委員 岩谷産業(株)  
委員 小池酸素工業(株)  
委員 北日本酸素(株)

※委員は検討案件に合わせて、各委員会社より選任する

注) 平成29年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

## 5. 行事開催報告 (H29.2 ~ H29.7)

### (1) MGR更新時集合講習会

日時：平成29年2月22日(水) 13:00 ~ 17:00

場所：仙台ガーデンパレス

受講者：85名

### (2) 高圧ガス保安セミナー

日時：平成29年2月28日(火) 13:30 ~ 16:50

場所：仙台ガーデンパレス

受講者：20名

### (3) JIMGA東北地域本部合同幹事会および調査委員会

日時：平成29年5月11日(木) 12:45 ~ 15:00

場所：ホテルメトロポリタン仙台

概要：平成29年度合同定時総会議案書(案)

の審議および平成28年度消費税増税調査会活動報告および平成29年度活動計画説明

### (4) 技術保安部会

日時：平成29年6月20日(火) 15:30 ~ 17:00

場所：東北地域本部事務所

概要：部会員交替報告、平成29年度活動計画および平成29年度研修会計画検討ならびに高圧ガス保安セミナー計画検討

### (5) 炭酸ガス技術ワーキンググループ会議

日時：平成29年6月30日(金) 15:30 ~ 17:00

場所：東北地域本部事務所

概要：JIMGA本部活動状況報告および平成29年度活動計画検討

## 関東地域本部

### 1. 定時総会

日時：平成29年5月17日（水）16:00～16:40

会場：ホテル JALシテイ田町 東京

### 議 題

第1号議案 平成28年度事業報告の承認を求め  
る件

第2号議案 平成28年度収支報告の承認を求め  
る件

第3号議案 平成29年度事業計画（案）の承認  
を求める件

第4号議案 平成29年度収支予算（案）の承認  
を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認  
された。

### 本部出席者（合同懇親会）

会長 間 邦司

### 西田本部長挨拶（要旨）

今年の前半を振り返ってみますと、世界情勢として大きな変化がございました。今年初めのアメリカのトランプ政権の発足、イギリスのEU離脱、フランス、そしてお隣の韓国でも新しい大統領が誕生しております。なんとといっても我々としても決してひとつとではない米朝関係の動向は、気になるところであります。

国内経済に目を向けますと、わが国の昨年度の実質経済成長率は4月の発表では、1.0%とまだまだ低迷しておりますが、今年度は、シンクタンク等によって多少違いはありますが、1.0～1.3%と若干ではあります。微増の予想となっております。また鉱工業生産指数はこの1年ほど、そして実質輸出はこの2年ほど、それぞれ増加傾向でもあります。我々の業界においても、2016年度の決

算は、大体、前年度比で、増益という傾向のようです。このように緩やかではございますが、少しずつ景気上向きとなっているとの見方も、できるのではないかと考えております。

そして目先の希望としては2020年にひかえております東京オリンピックの特需がございました。是非、今年は後半にかけて、景気が更に上向き、我々産業ガス業界にとって良い半年になることを期待しております。

保安活動に関しましては、私ども関東地域本部では、毎年、産業ガス部門として、さまざまな講習会・セミナーを開催し、知識の向上、ひいては高圧ガスの事故撲滅に取り組んでおりますが、昨年も同様でございます。まずは、この場をお借りいたしまして、セミナーや講習会の講師をお勤めいただいた方々、そして運営にご協力頂きました方々に、あらためて御礼を申し上げます。

本年度のJIMGAの医療ガス部門・産業ガス部門の共通の課題としては、昨年同様「コンプライアンスの遵守」「保安・安全の推進、事故の撲滅」を第一に掲げており、産業ガス部門としての課題は「保安の一層の強化」「RFタグの普及推進と容器保安の確保」「環境・エネルギー問題の取り組み」「国際統合化・標準化」でございます。

私ども関東地域本部は、当協会で最大の地域本部であります。よって協会の中核として常に本部と連携し、全ての課題に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

その中でも、保安強化による事故撲滅に関しては、最重要テーマであると位置づけておりますので、今年度も保安に係る講習会・セミナーの開催等、保安の向上に積極的に取り組み、当業界の地位の向上を目指してまいります。

保安の強化・安全確保に関しましては、高圧ガスに係る全ての方が自らに課せられた責任を全う

する必要があると考えております。今一度、皆様の会社での安全確保の周知を徹底していただくと共に、是非、経営に携わっておられます皆様方が率先して保安の強化に取り組んでいただきたく、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

最後になりますが、会員各社の益々の発展、そして本日ご出席の皆様方のご健勝を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。



西田本部長挨拶（総会）

## 懇親会

### 西田代表地域本部長挨拶

2016年度の決算は、大体、前年度比では、減収ではありますが、増益という傾向のようであります。一方で、過去からのガスの販売量の推移を見ても2007年のピーク時から比べ、酸素30%、窒素20%、アルゴン25%のマイナスとなっております。我々のような素材産業で、10年間でこのマイナスというのは、相当厳しい数字です。

今後、お客様の工場の新設や増産があまり見込めない中、さらには工場の集約・閉鎖が加速する中、目先の希望としては2020年にひかえておりますオリンピック需要があります。是非、今年は後半にかけて、景気が更に上向き、我々医療ガス・産業ガス業界にとって良い半年になることを期待したいと思っております。

しかしながら、長期的には、わが国にとって大

きな問題である、少子高齢化、人口減少問題がございます。約50年後の2065年には日本の総人口が現在の1億2700万人より、約4000万人減少すると言われております。この問題は我々の業界だけではなく、確実に社会全体に影響が出るとも言われておりますが、私どもは政治家ではありませんので、抜本的対策を取るのには困難です。よって企業としてワークライフバランスの改善等、側面からのサポートが必要となるのではと考えております。

今年の賀詞交歓会のご挨拶でも申し上げましたが、我々の扱っている高圧ガスの保安というのは、駅伝に例えられると存じます。スタートである、サプライチェーンの最初のガスを作るプラントからお客様でお使いいただくまで、いくつもの区間を安全の確保という「たすき」を繋げ無事故というゴールに辿り着かなければなりません。事故は、作業をされている方ご自身だけではなく、そのご家族、同僚、会社、そして社会全体に不幸と不安をもたらします。今一度、皆様の会社での安全確保の周知徹底をしていただくようお願いいたします。

JIMGAのこれからの活躍と会員各社の益々の発展、そして本日ご列席の皆様方のご健勝を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

## 2. 平成29年度産業ガス部門活動方針

- ①地域における環境・安全・保安・技術等に関して、JIMGA本部と連携し、関東地域本部産業ガス部門構成員および消費者に対する周知徹底と教育・広報・情報の収集等地域に則した活動を行なう。
- ②自主保安の一層の充実を図る必要があることからセミナー、講習会を開催し、本部一体となって事故発生防止に努める。
- ③所属会員相互の向上発展に資するため、会員間の意思疎通に努めるとともに、各グループ間の

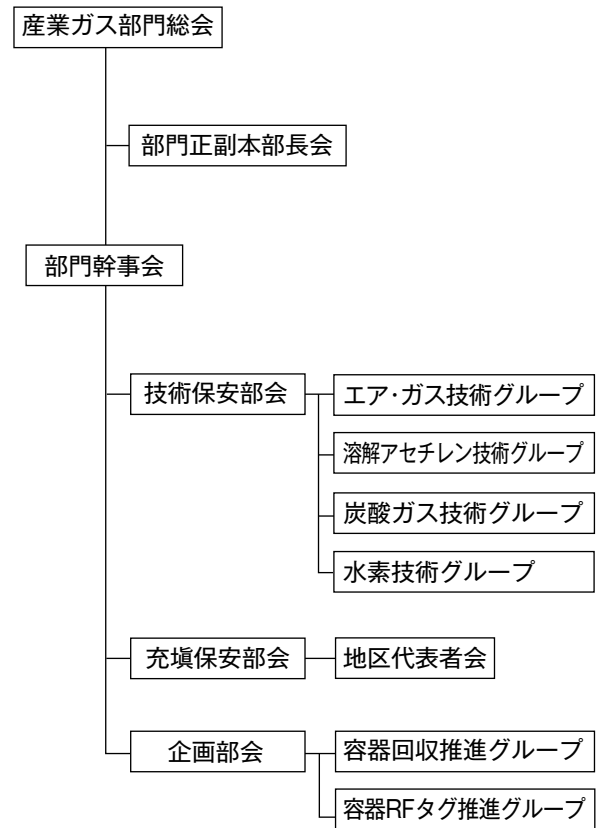
連携を強化し、活動の充実を図る。

- ④容器RFタグの導入推進をJIMGA本部WGと協力し行う。
- ⑤企画部会容器回収推進グループ、地区毎の関連諸団体とも共同して、放置容器・不明容器・長期停滞容器の回収を促進する。また、「容器管理指針」の活用と周知活動を支援する。



関東地域本部総会風景

### 3. 組織図



### 4. 役員・部会・WG名簿 (敬称略・順不同)

#### 役員



**本部長**  
西田 猛志  
エア・ウォーター(株)  
関東支社 次長



**副本部長**  
笠谷 宏  
岩谷産業(株)  
常務執行役員 関東支社長



**副本部長**  
佐波 充  
相模アセチレン(株)  
代表取締役



**副本部長**  
坪井 亮  
小池酸素工業(株)  
取締役 東京支店長  
兼 東日本グループ長

- 幹事 柳田 裕久 大陽日酸(株) 常務執行役員 関東支社長
- 幹事 黒木 幹也 高圧ガス工業(株) 専務取締役 東京事務所長
- 幹事 野村 和伯 エア・ウォーター炭酸株式会社 東京支店長
- 幹事 荒居 貴英 エア・ウォーター・ハイドロ(株) 営業企画担当部長
- 幹事 遠藤 芳朗 (株)鈴木商館 取締役 営業本部副本部長
- 代表監事 是永 敏弘 日本液炭(株) 執行役員 関東支社長
- 監事 長濱健太郎 岩谷瓦斯(株) 関東事業所長

## 技術保安部会

- 部長 笠谷 宏 岩谷産業(株) 常務執行役員 関東支社長  
 副部長 河原 大宙 岩谷産業(株) 環境保安部 担当部長(関東駐在)

## エア・ガス技術グループ

- グループ長 原田 裕司 大陽日酸(株) 関東支社 技術部長  
 副グループ長 國分 聡 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当(首都圏駐在)  
 委員 細川 純一 大陽日酸東関東(株) ガスビジネス統括本部 製造技術担当部長  
 委員 大西 孝好 関東エア・ウォーター(株) 管理部長  
 委員 長谷川正泰 小池酸素工業(株) ガス部 生産・技術グループ課長  
 委員 石坂 英一 カンサン株式会社 高崎事業所 エアガス・リニューアル工場長  
 委員 関 啓助 北国酸素(株) 代表取締役  
 委員 福永 直樹 日本エア・リキード(株) 技術本部 関東グループ長  
 委員 堀内 武浩 昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チーム マネージャー  
 委員 館田 英明 東京ガスケミカル(株) メンテナンス・サービス部長

## エア・ガス技術グループ(生産会社)

- 委員 渡部 浩明 エア・ケミカルズ(株) 常務取締役プラント長  
 委員 前田 久雄 川崎オキシトン(株) 代表取締役社長  
 委員 茂浦 悦男 (株)JFEサンソセンター 取締役工場長  
 委員 中島 太司 新相模酸素(株) 代表取締役社長  
 委員 金子 堅三 新洋酸素株式会社 代表取締役社長  
 委員 田中 義隆 (株)千葉サンソセンター 代表取締役 常務  
 委員 梅川 明彦 (株)ティーエムエアー 代表取締役社長  
 委員 井上 義夫 東京液化酸素(株) 代表取締役社長  
 委員 岡崎 志朗 東京酸素窒素(株) 代表取締役社長  
 委員 野口 行敏 長野液酸工業(株) 代表取締役社長  
 委員 蓮本 壽治 (株)浜松エア・サプライ 取締役社長

## 溶解アセチレン技術グループ

- グループ長 西川 隆浩 高压ガス工業(株) 神奈川工場長  
 副グループ長 堂元 美樹 小池酸素工業(株) 千葉工場長  
 委員 村石 秀人 エア・リキード工業ガス(株) 東日本オペレーションセンター長  
 委員 橋本 孝二 (株)鈴木商館 技術管理部 安全環境課  
 委員 松下 勝美 関東アセチレン工業(株) 常務取締役  
 委員 出村 憲二 川口総合ガスセンター(株) 代表取締役社長  
 委員 吉田 智徳 相模アセチレン(株) 工場長  
 委員 鴫田 秀穂 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当(関東駐在)  
 委員 坂本 一仁 大陽日酸(株) 北関東支社 技術部長  
 委員 橋本 貴由 田邊工業(株) 産業ガス部長  
 委員 今井 克彦 東海産業(株) 環境保安室 室長  
 委員 田中 祐次 東京高压山崎(株) 取締役 技術・製造本部長  
 委員 川人 政男 東日本高压(株) 千葉工場 工場長  
 委員 手塚 悦男 栃木共同アセチレン株式会社 代表取締役社長

## 水素技術グループ

グループ長	堀内 武浩	昭和電工(株)	基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チームマネージャー
副グループ長	時田豊志和	エア・ウォーター・ハイドロ(株)	技術部長 兼 品質保証部長
委員	國分 聡	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当(首都圏駐在)
委員	清瀬 信	関東エア・ウォーター(株)	産業事業部 部長
委員	廣澤 徳幸	岩谷瓦斯(株)	千葉工場 工場長
委員	大山 裕之	(株)鈴木商館	営業統括室 生産部 部長
委員	原田 裕司	大陽日酸(株)	関東支社 技術部長
委員	石川 貴士	新潟水素(株)	工場長
委員	澤田 庸介	丸由工材(株)	代表取締役社長
委員	清水 正樹	(株)渡商会	営業部営業グループ グループリーダー

## 炭酸ガス技術グループ

グループ長	神谷 利男	日本液炭(株)	関東支社 技術サービス課長
副グループ長	奥田 直史	エア・ウォーター炭酸(株)	技術部 生産・技術グループ 次長
委員	庄司 昭史	高圧ガス工業(株)	東京事業所 ガス事業本部 次長
委員	坂本 三夫	上毛天然瓦斯工業(株)	技術部 課長
委員	河原 大宙	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(関東駐在)
委員	佐藤久仁夫	昭和電工ガスプロダクツ(株)	南関東支店 リーダー
委員	原 啓一郎	東京ガスケミカル(株)	エンジニアリング・サービス部

## 充填保安部会

部会長	佐波 充	相模アセチレン(株)	代表取締役
副部会長	遠藤 芳朗	(株)鈴木商館	取締役 営業本部副本部長
副部会長	柳川 隆則	(株)宝山産業	代表取締役社長
副部会長	市村 博	市村酸素(株)	代表取締役社長
副部会長	今井 智仁	東海溶材(株)	ガス管理部 次長
委員	松谷 厚雄	関東酸素工業(株)	専務取締役
委員	鴨川 俊次	東邦酸素工業(株)	取締役社長
委員	田谷 豊生	小野里酸素(株)	代表取締役社長
委員	松川 裕	富士酸素工業(株)	取締役ガス溶材部長
委員	徳永 哲一	城南共同酸素(株)	常務取締役
委員	宮原 英嘉	宮原酸素(株)	業務部長
委員	神野 耕一	東京高圧山崎(株)	取締役 ガス本部長
委員	梅津 明仁	北関東東洋(株)	取締役 製造部長
委員	澤井 淳巳	東洋高圧ガス(株)	部長
委員	勝又 洋悦	(株)市川総合ガスセンター	取締役工場長
委員	川尻 光治	北関東日酸(株)	常務取締役
委員	阪田 亮	千葉エヌディーガスセンター(株)	常務取締役工場長
委員	大塚 弘次	武蔵野ガスセンター(株)	代表取締役社長
委員	菊池 公彦	東横化学(株)	関東支社 相模原事業所所長
委員	石橋 勇	静岡酸素(株)	取締役 製造部長
委員	出村 憲二	川口総合ガスセンター(株)	代表取締役社長



委員	森田 英興	大陽日酸東関東(株)	日立営業所 所長
委員	本島 章夫	東海産業(株)	代表取締役社長
委員	志田 和善	日東物産(株)	取締役部長
委員	永井 道生	(株)T O K A I	高圧栃木支店 支店長
委員	鈴木 実	カンサン(株)	代表取締役社長
委員	田中 宏明	城東日酸(株)	取締役工場長
委員	酒井 隆光	東京酸素(株)	専務取締役
委員	吉田 昌平	ヨシダ高圧(株)	代表取締役社長
委員	田邊 英	田邊工業(株)	代表取締役社長
委員	島田 隆昭	(株)シマキュウ	代表取締役社長
委員	福地 俊弘	埼京日酸(株)	取締役工場長
委員	清瀬 信	関東エア・ウォーター(株)	産業事業部 部長
委員	橋 隆之	(株)カネコ商会	代表取締役社長
委員	羽多野雄一	岡谷酸素(株)	常務取締役 営業本部長
委員	金子 茂男	小松川酸素(株)	代表取締役社長
委員	杉本 優	伊藤忠工業ガス(株)	神奈川支店長
委員	瓦井 貞光	光酸素(株)	代表取締役会長
委員	茂垣 行雄	(株)星医療酸器	専務取締役営業本部長
委員	和田 彰	エア・ウォーター(株)	産業ガス関連事業部 東京営業部長
委員	北條 一夫	フジオックス(株)	常務取締役営業本部長
委員	河野 昌幸	(株)サイサン	産業ガス部 部長

## 地区代表者会

委員長	佐波 充	相模アセチレン(株)	代表取締役
副委員長	徳永 哲一	城南共同酸素(株)	常務取締役
副委員長	川尻 光治	北関東日酸(株)	常務取締役
副委員長	柳川 隆則	(株)宝山産業	代表取締役社長
正委員	田中 宏明	城東日酸(株)	取締役工場長
正委員	市村 博	市村酸素(株)	代表取締役
正委員	遠藤 芳朗	(株)鈴木商館	取締役 営業本部 副本部長
正委員	澤井 淳巳	東洋高圧ガス(株)	部長
正委員	北條 一夫	フジオックス(株)	常務取締役営業本部長
正委員	葛上 真一	カンサン(株)	高崎事業所 取締役インダストリー営業部長
正委員	今井 智仁	東海溶材(株)	ガス管理部 次長
正委員	志田 和善	日東物産(株)	取締役部長
正委員	羽多野雄一	岡谷酸素(株)	常務取締役 営業本部長
正委員	橋 隆之	(株)カネコ商会	代表取締役社長
副委員	金子 茂男	小松川酸素(株)	代表取締役社長
副委員	鴨川 俊次	東邦酸素工業(株)	取締役社長
副委員	松川 裕	富士酸素工業(株)	取締役ガス溶材部長
副委員	宮原 英嘉	宮原酸素(株)	業務部長

## 企画部会

部長 坪井 亮 小池酸素工業(株) 取締役 東京支店長 兼 東日本グループ長  
副部長 吉澤 毅 小池酸素工業(株) 関東支社 ガス営業部 部長

## 容器回収推進グループ

グループ長 澤井 淳巳 東洋高圧ガス(株) 部長  
副グループ長 保々 賢次 小池酸素工業(株) 城北支店長  
委員 葛上 真一 カンサン(株) 高崎事業所 取締役インダストリ営業部長  
委員 清水 正樹 (株)渡商会 営業部 営業グループ グループリーダー  
委員 大山 裕之 (株)鈴木商館 生産部 部長  
委員 川村 一史 日本液炭(株) 関東支社 営業部 業務・物流課長  
委員 黒木 幹也 高圧ガス工業(株) 専務取締役 東京事務所長  
委員 秋本 隆司 上毛天然瓦斯工業(株) 顧問  
委員 柳川 隆則 (株)宝山産業 代表取締役社長  
委員 大西 孝好 関東エア・ウォーター(株) 管理部長  
委員 弓削 善紀 日本エア・リキード(株) 東日本地域本部 営業統括部 部長  
委員 和田 彰 エア・ウォーター(株) 産業ガス関連事業部 東京営業部長

## 容器RFタグ推進グループ

グループ長 神谷 利男 日本液炭(株) 関東支社 技術サービス課長  
副グループ長 大西 孝好 関東エア・ウォーター(株) 管理部長  
委員 國分 聡 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当(首都圏駐在)  
委員 田中 宏明 城東日酸(株) 取締役工場長  
委員 鶴見 隆 相模アセチレン(株) 取締役 営業部長  
委員 渡部 智之 東京ガスケミカル(株) 産業ガス企画部 需給グループマネージャー  
委員 長谷川正泰 小池酸素工業(株) ガス部 生産・技術グループ課長  
委員 中井 康夫 高圧ガス工業(株) ガス事業本部 関東地区長代理  
委員 徳永 哲一 城南共同酸素(株) 常務取締役  
委員 出村 憲二 川口総合ガスセンター(株) 代表取締役社長  
委員 田村 憲一 大陽日酸(株) 関東支社 ガス営業部長

注) 平成29年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

## 5. 行事開催報告 (H29.2 ~ H29.7)

### (1) 初級保安講習会

日 時：平成29年2月17日(金) 13:30 ~ 16:30

場 所：エッサム神田ホール2号館

概 要：「高圧ガスの性質と保安について」  
「e-ラーニングの紹介」

受講者：69名

### (2) 容器RFタグ説明会

日 時：平成29年3月10日(金) 15:00 ~ 16:30

場 所：エッサムホール本社ビル

受講者：28名

### (3) 産業ガス部門 幹事会

日 時：平成29年4月18日(火) 16:00 ~ 17:00

場 所：ホテル JALシティ田町 東京

概 要：報告事項、定時総会・議案書の確認と承認

### (4) 充填保安部会地区代表者会 企画部会容器回収推進グループ 合同例会

日 時：平成29年7月24日(月) 16:00 ~ 17:00

場 所：信州松代ロイヤルホテル

概 要：地域本部内の地区毎の容器管理に関する情報交換

### (5) 充填保安部会 総会

日 時：平成29年7月24日(月) 17:00 ~ 17:30

場 所：信州松代ロイヤルホテル

概 要：報告事項、議案書の確認と承認

# 東海地域本部

## 1. 定時総会

日時：平成29年5月9日（火）16:00～17:20

会場：ホテルキャッスルプラザ

### 議題：

- 第1号議案 平成28年度事業報告の承認を求め  
る件
- 第2号議案 平成28年度収支決算の承認を求め  
る件
- 第3号議案 平成29年度事業計画の承認を求め  
る件
- 第4号議案 平成29年度予算の承認を求め  
る件
- 第5号議案 平成29年度東海地域本部役員選任  
の件

### 本部出席者：

- 副会長 川本 健一
- 常務理事 瀬戸 昭則
- 常務執行役員 徳富栄一郎

### 藤田代表本部長挨拶（要旨）

この1年を振り返りますと、昨年は今までの常識が通用しない出来事が数多くありました。海外では、英国のEU離脱、アメリカ大統領選挙。国内では4月の熊本地震、8月の進路が迷走した台風、1月の鳥インフルエンザの発生等の自然災害がありました。我々高圧ガス業界の経済状況におきましては、世界経済の回復により、製造業の活動が総じて上向いていると感じられるようになりましたが、電力料金問題等に代表される課題が、依然として山積しております。

高圧ガス事故関連に目を向けますと、昨年放置容器の破裂事故が続発しました。また充填工場において死傷事故が発生し、非常に残念な状況となりました。事故件数は、依然として高止まりの傾

向にあると言えます。

事故原因面から見ますとヒューマンファクターによる事故がほとんどを占めており、こうした状況を顧みるに、企業による自主保安の啓発・喚起、業界団体による保安強化等、高圧ガス最大の業界団体であります私どもに課せられた責務の重さを強く認識しております。

こうした中、JIMGA本部では産業ガス部門、医療ガス部門両部門共通の優先課題としまして、コンプライアンスの遵守、および保安・安全の推進、事故撲滅に取り組んでいます。

東海地域本部では、JIMGA本部の課題をブレークダウンし、各部会、支部会ならびに委員会活動を通じて、事故防止と法令遵守の周知徹底、供給



藤田代表本部長挨拶



定時総会の模様

および消費上の安全対策の推進、保安を確保するための各種講習会の開催、災害時対策の強化、不明容器、放置容器をなくすための容器管理体制の強化、を課題として取り組み、事故撲滅に努めてまいりました。本年度も昨年度同様のテーマを継続的に取り組んでまいり所存です。

## 来賓ご挨拶（要旨）

中部近畿産業保安監督部 保安課長

加藤 久喜 殿

皆様方には、平素から、経済産業省の産業保安行政への御理解、御協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

昨年は、伊勢志摩サミットの開催により当地域が世界中から注目を集めました。今後も当地域が関わるビックプロジェクトとして2027年の開業に向けてリニア中央新幹線や名古屋駅前の再開発等の事業も進められています。また、水素社会の実現に向けて水素ステーションも各地で整備されているところです。

高圧ガスは、各種産業や生活・医療分野において幅広く使用され、国民生活になくはならないものでありますが、高圧ガス事故が発生した際には、我々の社会活動に大きな影響を及ぼすものであり、各事業所の皆様が、安全に操業をしていただくことが非常に重要であります。

貴協会における災害時マニュアルの見直しや自治体が主催する総合防災訓練への参加、保安講習会の開催などの高圧ガスの災害・事故に対応するためのさまざまな取り組みに対しまして、深く敬意を表する次第であります。

平成28年の高圧ガス事故統計を見ますと、全国で863件の事故が発生し、そのうち盗難を除く災害は495件で、対前年比で43件の増加となりました。製造所の事故件数は、依然多く、災害全体の約8割を占めています。中部監督部管内（東海北陸5県）の高圧ガス事故件数は131件で、盗難を

除く災害が103件発生し、現象別では噴出・漏えいが約8割強を占めています。残念ながら、管内の事故は、依然として増加傾向にあります。また、高圧ガスに起因する負傷者につきましても、死亡者1名、その他6名の方が負傷している状況にあります。これらの事故の原因としてはハード面では腐食管理不良や検査管理不良といった設備の維持管理不良によるもの、ソフト面では誤操作・誤判断といったヒューマンファクターによるものが目立っています。

経済産業省では、自主保安の高度化を促す制度として、高度なリスクアセスメントやIoT・ビックデータといった新技術を活用した取り組みに対する「新認定事業所制度（スーパー認定事業所等）」の創設、「リスクアセスメント・ガイドライン」の作成・公表、「人材育成プログラム」の作成・公表を行っています。また、新技術等への円滑な対応として、国内規格等をスムーズに取り入れ活用できる仕組みとして「ファスト・トラック制度」の創設、水素ステーション・燃料電池自動車の普及に向けた規制の見直し、新冷媒（温暖化係数の低い冷媒等）の普及に向けた規制見直しといった高圧ガス保安のスマート化に取り組んでいるところです。皆様方におかれましても自主保安の高度化や新技術等への円滑な対応によって、保安レベルの一層の向上を図っていただきますようお願い申し上げます。

昨年は九州熊本地震や鳥取地震、台風10号による東北・北海道地域での風水害といった自然災害が各地で発生しました。当地域におきましても南海トラフ巨大地震の発生確率が高いと言われております。以前にも増して南海トラフ巨大地震や資源災害への備えをお願いいたします。

愛知県防災局 消防保安課 産業保安室長

竹内 正光 殿

皆様方におかれましては、日頃から本県の産業

保安行政につきましては格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、高圧ガスはここで申し上げるまでもなく、幅広い分野において利用され、私達の生活にとって大変身近な存在となっております。それだけに、県民の皆様の安心・安全な生活を確保するため、高圧ガスの安全対策は大変重要でございます。

貴協会におかれましては、保安講習、防災訓練、容器管理体制の強化などさまざまな、保安対策、防災・減災対策に取り組まれており、感謝と敬意を表する次第です。しかし本県における高圧ガスによる事故をみますと平成28年度は61件で平成27年度の45件から16件の増加で、また、平成28年度は検査中の死亡事故も発生しており、改めて事故防止の難しさと保安の確保の重要性を認識したところです。

高圧ガスによる事故を防止するためには、法令による規制に加えて事業所の皆様方による自主保安活動が大変重要であると考えておりますので、よろしく願いいたします。

なお、平成30年4月1日からは、第5次地方分権一括法に基づき、名古屋市内については、高圧ガス保安法の権限が愛知県から名古屋市へ委譲されます。円滑に権限が委譲できるよう名古屋市と連携して準備を進めておりますので、名古屋市内の事業所の皆様におかれましては、特定事業所を除き、手続き窓口が愛知県から名古屋市に変わりますのでご協力いただきますようお願いいたします。

県といたしましては、貴協会との連携を密にし、引き続き高圧ガスによる事故防止のため保安対策の充実に努めていく所存でございますので、貴協会におかれましても産業保安の確保について一層のご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

## 愛知県健康福祉部 健康担当局 医薬安全課長 榊原 徹 殿

皆様方におかれましては、日頃より、適正な医療用ガスの製造や供給を通じて、本県の医薬安全行政の推進に、格別の御理解と御協力を賜っておりますことを、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

さて、昨年度は、熊本県や大分県を震源とする地震が連続して発生し、甚大な被害が出たところでもあります。本県では、被災地からの要請を受けて医療・保健分野の職員・医師等を現地に派遣するなど、全庁をあげて被災地支援に取り組みました。

一方、この東海地域におきましても、近い将来に南海トラフ巨大地震の発生が懸念されております。災害時におきましては、迅速に医療救護活動を行うことができるよう、活動に用いる医薬品や医療機器等を確保、供給する仕組みが必要不可欠です。

皆様方とは、災害時における医療用ガスの安定供給を確保するため、平成11年6月に「医療用酸素ガス等の供給に関する協定」を締結させていただき、災害時の医療体制の確保に多大なご尽力を賜っております。本県といたしましては、災害時の医薬品等の安定供給確保を始め、医薬品の適正な販売・製造等に関する指導や、医薬品の適正使用及び安全性を確保するための医薬分業の推進を通じて、県民生活の安心・安全の確保に万全を期してまいり所存です。今後とも、引き続きお力添えいただきますようお願い申し上げます。

なお、毎年9月1日の「防災の日」前後に実施しています、県の総合防災訓練ですが、今年度は8月20日の日曜日に春日井市で開催されることが決定しております。例年、貴協会を始めとする多くの団体に参加いただいておりますが、さまざまな団体や関係機関相互の連携を一層深めるための貴重な機会ですので、今年度も引き続き、御参加、

御協力いただきますようお願い申し上げます。

また、総合防災訓練とは別に医薬安全課独自で「災害時医薬品等供給情報伝達訓練」を実施しておりますが、日本産業・医療ガス協会様には非常に積極的に参加していただいております。今年度も必要な見直しを行いつつ、更に充実した訓練を実施したいと考えておりますので、こちらの訓練にも御協力のほどよろしくお願いいたします。

### 高圧ガス保安協会 中部支部 事務局長

#### 岡田 邦雄 殿

皆様には、平素から当協会の運営に関しまして御支援、御協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、今更申すまでもなく、産業ガス・医療ガスは、産業活動や国民生活において必要不可欠なものとなっており、安定供給とともに保安の確保はますます重要です。こうした中、貴協会東海地域本部におかれましては、事故防止を目的とした情報交換会の開催、高圧ガス保安法などの法令を遵守し、自主保安体制の確立に繋げる取り組み、保安講習会の開催、災害に備えるための防災訓練の実施、放置容器対策への取り組み等さまざまな保安活動を展開されており、深く敬意を表する次第であります。

私ども高圧ガス保安協会におきましても、高圧ガスの災害を防止するための民間規格であるKHK技術基準の作成や各種講習会の実施などを通じて高圧ガスの保安確保に努めているところであります。

ところで昨年は、熊本、鳥取で直下型の大地震がありました。東海地域で最も危惧されている南海トラフ地震については、政府の発表によりますと、マグニチュード8クラス以上の規模の巨大地震の発生確率は、今年1月を基準として10年以内に20～30%とされております。既に国や地方

自治体においては、地震対策の戦略会議の開催や防災計画の策定など具体的に対応されておりますが、民間企業においても各社でさまざまなご対応をされていると思います。残された時間は余りありませんが、やるべきことは山のようにあります。BCPの策定はそのひとつです。中でも社員の安否確認は重要です。手順の確認、伝言ダイヤルの活用などについて年1回でも良いですから、社内で防災訓練を実施していただき、社員全員参加で行うのが良いと思います。本日の総会後の懇親会などで他の企業の地震防災への取り組みなどお聞きしてご参考にされるのも良いかと思っております。

さて、せっかくの機会ですので、高圧ガス保安協会の最近のトピックスをご紹介しますと、今年7月に東京都町田市にある総合研究所に新たな建屋が竣工します。現在の建物の隣に新たな建物を建設しており、最新の内圧試験装置を設置し、容器の性能試験、材料試験など幅広い試験ニーズに対応していきます。完成後、是非ご活用いただければ幸いです。

中部支部の関係では、毎年11月に開催しております「中部高圧ガス保安大会」の事務局を担当させていただいており、今年は11月20日月曜日の午後に名鉄ニューグランドホテルにおいて開催する予定です。大勢の皆様のご参加を是非ともお願いいたします。

### 川本副会長 懇親会挨拶（要旨）

日頃は、JIMGAの活動に多大なご支援、ご協力を賜りまして、改めて御礼を申し上げます。

国内の景気は、異次元の金融政策もあり緩やかに回復が続いていると言われてはいますが、我々の業界では、なかなか景気の回復を実感することができていない状況ではないかと思っております。昨年度は熊本地震の発生に始まりましたが、年末から今年初めにかけては鳥インフルエンザの大流行があり、北海道、東北（青森、宮城）、新潟、岐阜、

九州(宮崎、熊本、佐賀)で発生しました。会員の皆様におかれましては、炭酸ガスの緊急供給要請への対応に大変ご苦労されたと聞いており、改めて敬意を表したいと思います。

高圧ガスに関しましては、昨年放置容器の人身事故が発生したことから、会員の皆様には10月の特別回収について例年以上のご協力をいただきました。この場を借りてご協力に感謝申し上げます。引き続き高圧ガス事故の撲滅を目指して、皆さんと協力して取り組みたいと思います。

さて、我々を取り巻く環境につきましては、ここ数年、二つのお話をさせていただいております。

一つは電力料金の問題です。原発停止による電気料金の値上げは、原油価格が低下したにも関わらず高止まりし、昨年末には再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)賦課金の減免制度の見直しがなされました。加えて、FIT賦課金は平成29年5月より、昨年度までの1kWhあたり2.25円から2.64円に改定されました。原燃料価格が現状維持で推移した場合、減免制度を利用しても産業ガス業界の電力費用は平成23年3月に比較して93億円の負担増となります。減免制度が現状のまま継続するとは考えられませんので、JIMGAとしましては、引き続き電力多消費産業11団体として連携し、取り組んでまいります。

消費税の問題につきましては、平成29年4月に予定されていた税率10%への再引き上げについて、平成31年10月の実施に再延期されました。協会としましては、転嫁カルテルの期限を延長するとともに、引き続き調査会を活用して転嫁状況を確認してまいります。

今年度の課題につきましては、後ほど両部門からお話ししますが、産業ガス、医療ガス両部門共通の課題としまして、コンプライアンスと保安の確保を第一に掲げ、安心・安全を確立し、産業ガス・医療ガス業界の更なる地位向上を目指していきたいと思います。

加えて、我々の産業・医療ガスが、社会・産業のインフラおよびライフラインとして重要な製品であることを社会の皆様方に御理解いただくため、また、会員各社のプレーンとして会員の皆様から必要とされるJIMGAであるために、絶えず発信することを意識してJIMGAのプレゼンス向上を目指してまいります。

最後に本日ご出席の皆様方の益々のご繁栄とご健勝を、またそれぞれの会社のご発展を祈念申し上げます、挨拶とさせていただきます。



川本副会長挨拶

#### 南部医療ガス部門本部長 懇親会挨拶(要旨)

本日の定時総会において、平成29年度の東海地域本部の事業計画が採択されました。東海地域本部といたしましては、JIMGA本部の課題をブレイクダウンし、JIMGA本部との連携により、着実にこの事業計画に取り組んでまいりますので、皆様のご理解並びにご協力をよろしくお願い致します。

今年3月、JIMGAが厚労省から受託していた「在宅酸素事業者の緊急・災害時の手引書」が完成し、会員の皆様全員と管轄の行政の薬務担当課に送付致しました。また昨年は残念ながら放置容器の破裂事故が発生しましたが、本年度はこれを踏まえ、医療ガス部門も、産業ガス部門に続き「医療ガス容器保安対策指針」を推進してまいります。

JIMGAの優先課題であります、「保安・安全の



推進、事故撲滅」を達成するためには、地道ではありますが継続的な教育が必要であり、協会としましては講習会を開催し、高圧ガスを取り扱い、消費される方々に技術向上および注意喚起を促していく必要があると考えています。

本年度も、産業ガス部門では、7月に「産業ガス保安セミナー」と12月に「東海・北陸セミナー」の開催を計画しております。また医療ガス部門では、11月に「三重県医療ガス保安講習会」を計画しております。これら講習会の開催にあたって、会員の皆様のご協力をいただき、また講習会には奮ってご参加をお願いいたします。

また、東海地域本部は、災害時への対応を十分に行っておく必要があり、議案書にもありましたように「東海地域本部災害時マニュアル」の見直し、備蓄品の対応、災害時連絡体制の構築を実施してきました。今後も、災害時対策委員会を中心にして、この地域の災害時対策を検討してまいりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

本日採択されました本年度の事業計画は、高圧ガスの業界が抱える課題が盛り込まれています。これらの課題を解決し実行していくためには、会員の皆様のご理解ならびにご協力を欠かすことができませんので、よろしくお願いいたします。

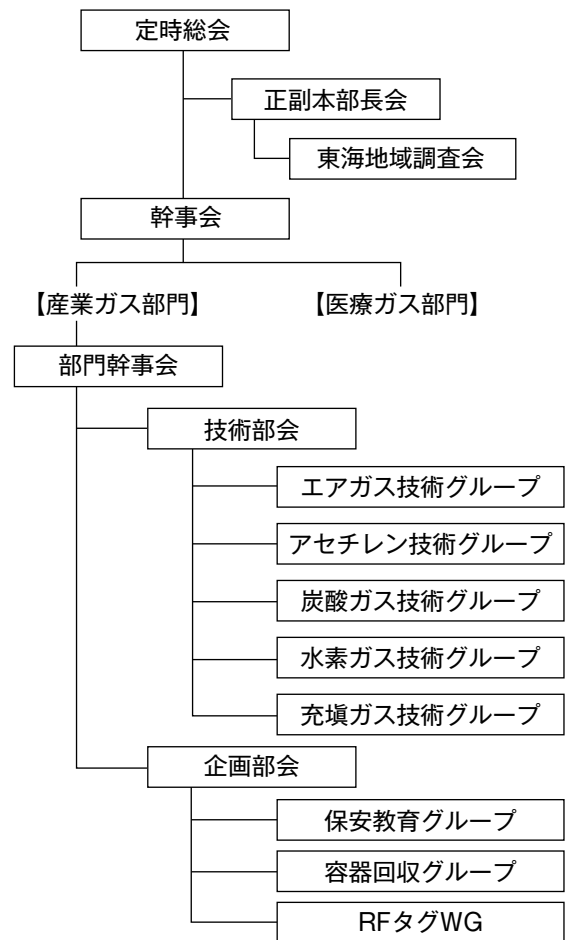


南部医療ガス部門本部長挨拶

## 2. 平成29年度活動方針

- (1) 事故防止と法令遵守の周知徹底
- (2) 供給および消費上の安全対策の推進
- (3) 保安講習会等の開催
- (4) 災害時対策の強化
- (5) 容器管理体制の強化
- (6) JIMGA本部との連携

## 3. 東海地域本部 産業ガス部門 組織図



#### 4. 役員・部会・WG名簿(敬称略・順不同)

##### 役員



**代表本部長**  
藤田 弘  
日本エア・リキード(株)  
中部支社長



**副本部長**  
森本 孝  
高圧ガス工業(株)  
取締役東海地区長



**副本部長**  
二階堂貴朗  
昭和電工ガスプロダクツ(株)  
中部支社長



**副本部長**  
飯田 哲郎  
名古屋酸素(株)  
取締役社長

- |        |       |                              |
|--------|-------|------------------------------|
| 幹事     | 和田 直樹 | 岩谷産業(株) 理事 中部支社長             |
| 幹事     | 桐山 良成 | イビデンケミカル(株) 中部ガス事業部 事業部長     |
| 幹事     | 菊池 幹夫 | エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店 名古屋営業所 所長 |
| 幹事     | 山田 容敬 | 東亜テクノガス(株) 代表取締役社長           |
| 代表会計監事 | 河野 靖彦 | 大陽日酸(株) 執行役員 中部支社長           |
| 会計監事   | 石田 恒美 | 豊田ガスセンター(株) 常務取締役 工場長        |

##### エアガス技術グループ

- |       |       |                               |
|-------|-------|-------------------------------|
| グループ長 | 三津田 真 | 中部エア・ウォーター(株) 管理部 部長          |
| 委員    | 市田 功司 | 岩谷産業(株) 名古屋支店長                |
| 委員    | 柄沢 直樹 | 大陽日酸(株) 中部支社 技術部長             |
| 委員    | 藤本 孝弘 | 東亜テクノガス(株) 取締役管理部長            |
| 委員    | 三木 秀樹 | 日本エア・リキード(株) カスタマーサービス中部グループ長 |

##### アセチレン技術グループ

- |       |       |                          |
|-------|-------|--------------------------|
| グループ長 | 吉田 馨  | 高圧ガス工業(株) 名古屋工場 工場長      |
| 委員    | 桐山 良成 | イビデンケミカル(株) 中部ガス事業部 事業部長 |
| 委員    | 名畑 芳彦 | 大陽日酸ガス&ウェルディング(株) 名古屋支店長 |
| 委員    | 鋤柄 喜彦 | 大日本アガ(株) 代表取締役           |
| 委員    | 諏訪 高敏 | 大陽日酸(株) 中部支社 技術部 担当課長    |
| 委員    | 成瀬 宜  | 竹中高圧工業(株) 営業部 部長         |
| 委員    | 橋本 行雄 | 東海アセチレン(株) 浜松工場 取締役工場長   |

##### 炭酸ガス技術グループ

- |       |       |                              |
|-------|-------|------------------------------|
| グループ長 | 笹 友徳  | 昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 主事       |
| 委員    | 小田島秀樹 | 岩谷産業(株) 中部支社 環境保安部 保安担当部長    |
| 委員    | 菊池 幹夫 | エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店 名古屋営業所 所長 |
| 委員    | 河野 康弘 | 日本液炭(株) 名古屋ガスセンター センター長代理    |
| 委員    | 松葉 昇  | 大洋化学工業(株) 工場長                |

- 委員 五十子 智 知多炭酸(株) 本社工場 品質管理課長  
委員 山田 修三 東亜テクノガス(株) 取締役 技術統括部長

### 水素ガス技術グループ

- グループ長 山田 修三 東亜テクノガス(株) 取締役 技術統括部長  
委員 小田島秀樹 岩谷産業(株) 中部支社 環境保安部 保安担当部長  
委員 三好 拓 エア・ウォーター(株) 北陸支店業務グループ グループ長  
委員 笹 友徳 昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 主事  
委員 荻上 仁 大陽日酸(株) 中部支社 技術部 技術一課長  
委員 前田 篤史 岩谷瓦斯(株) ガス事業部 中部事業所長  
委員 三木 秀樹 日本エア・リキード(株) カスタマーサービス中部グループ長  
委員 森本 直和 北酸高圧瓦斯(株) 代表取締役社長

### 充填ガス技術グループ

- グループ長(正) 日比富士雄 (株)ジーシー東海 取締役工場長  
グループ長(副) 吉岡 正弘 竹中高圧工業(株) 製造部 課長  
委員 新町 健児 共同高圧ガス工業(株) 執行役員工場長  
委員 斎藤 輝久 名古屋ガスセンター(株) 本社 業務グループ長  
委員 一瀬 孝行 岩谷瓦斯(株) 岡崎工場長  
委員 湯浅 喜和 イワタニ三重ガスセンター(株)  
委員 森本 孝 春日井ガスセンター(株) 代表取締役  
委員 藤城 清吾 ガステックサービス(株) 西三河事業所長  
委員 新井 成和 岐阜エア・ウォーター(株) 工場長  
委員 内田 久雄 協栄高圧ガス(株) 常務取締役  
委員 高垣 満正 ケミカルジャパン(株) 代表取締役  
委員 黒瀬 浩二 小池酸素工業(株) 名古屋支店長  
委員 原田 敬生 (株)原田商店 代表取締役  
委員 坂下 公朗 杉浦高圧(株) 取締役  
委員 服部 裕次 大日本アガ(株) 大府事業所 常務取締役  
委員 盛林 峰一 知多高圧ガス(株) 技術部 兼 品質管理担当 主任  
委員 三津井 篤 中京産商(株) 専務取締役  
委員 川原 哲也 中部エア・ウォーター(株) 名古屋充填工場 工場長  
委員 河原 英昭 東海ガスユナイテッド(株) 工場長  
委員 石田 恒美 豊田ガスセンター(株) 常務取締役 工場長  
委員 加藤 伸昭 名古屋酸素(株) 名古屋営業部長  
委員 伊藤 博文 名古屋日酸(株) 工場長

### 保安教育グループ

- グループ長 柄沢 直樹 大陽日酸(株) 中部支社 技術部長  
委員 小田島秀樹 岩谷産業(株) 中部支社 環境保安部 保安担当部長  
委員 笠井 勇人 中部エア・ウォーター(株) 技術グループ グループ長  
委員 新町 健児 共同高圧ガス工業(株) 執行役員工場長

委員	吉田 馨	高圧ガス工業(株) 名古屋工場 工場長
委員	笹 友徳	昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 主事
委員	坂下 公朗	杉浦高圧(株) 取締役
委員	吉岡 正弘	竹中高圧工業(株) 製造部 課長
委員	藤原 隆	中部液酸(株) 管理部長
委員	藤本 孝弘	東亜テクノガス(株) 取締役 管理部長
委員	服部 宗弘	名古屋酸素(株) 取締役製造部長 兼 小碓工場長
委員	伊藤 博文	名古屋日酸(株) 工場長
委員	三木 秀樹	日本エア・リキード(株) カスタマーサービス中部グループ長
委員	河野 康弘	日本液炭(株) 名古屋ガスセンター センター長代理

### 容器回収グループ

グループ長	土井不可止	イビデンケミカル(株) 大府ガス営業部 課長
委員	浅野 泰義	杉浦高圧(株) 部長
委員	伝田 仲男	東亜テクノガス(株) 技術統括部 課長代理
委員	中田 雅敏	岩谷瓦斯(株) 岡崎工場業務担当 マネージャー
委員	森 英昭	協栄高圧ガス(株) 業務本部 係長
委員	相木 好永	高圧ガス工業(株) 名古屋工場 ガス営業課 次長
委員	笹 友徳	昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 主事
委員	鈴木 隆信	大日本アガ(株) 製造物流部 係長
委員	篠崎 勝洋	大陽日酸(株) 中部支社 ガス営業部長
委員	名畑 芳彦	大陽日酸ガス&ウェルディング(株) 名古屋支店長
委員	小野 勝	竹中高圧工業(株) 営業部 次長
委員	浅井 純	知多高圧ガス(株) 業務部 課長代理
委員	小久保光男	中京産商(株) 溶材部 溶材課 課長
委員	川原 哲也	中部エア・ウォーター(株) 名古屋充填工場 工場長
委員	渡邊 雅樹	東海ガスユナイテッド(株) 工場長
委員	井上 洋一	豊田ガスセンター(株) 製造部 部長
委員	大貝 信夫	名古屋ガスセンター(株) 十四山工場
委員	服部 宗弘	名古屋酸素(株) 取締役製造部長 兼 小碓工場長
委員	伊藤 博文	名古屋日酸(株) 工場長
委員	田中 克幸	エア・リキード工業ガス(株) 中日本オペレーションセンター長
委員	日比富士雄	(株)ジーシー東海 取締役工場長
委員	河野 康弘	日本液炭(株) 名古屋ガスセンター センター長代理

### R F タグWG

グループ長	藤田 弘	日本エア・リキード(株) 中部支社長
委員	田中 克幸	エア・リキード工業ガス(株) 中日本オペレーションセンター長
委員	篠崎 勝洋	大陽日酸(株) 中部支社ガス営業部長
委員	上村 浩	エア・ウォーター(株) 執行役員 中部支社長
委員	山田 修三	東亜テクノガス(株) 取締役 技術統括部長
委員	森本 孝	高圧ガス工業(株) 取締役東海地区長

委員	鋤柄 喜彦	大日本アガ(株) 代表取締役
委員	名畑 芳彦	大陽日酸ガス&ウェルディング(株) 名古屋支店長
委員	二階堂貴朗	昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 支店長
委員	尾田 朝良	日本液炭(株) 中部支社 営業部 営業部長
委員	市田 功司	岩谷産業(株) 名古屋支店長
委員	成瀬 宜	竹中高圧工業(株) 営業部 部長
委員	飯田 哲郎	名古屋酸素(株) 取締役社長
委員	新町 健児	共同高圧ガス工業(株) 執行役員工場長
委員	坂下 公朗	杉浦高圧(株) 取締役
委員	斎藤 輝久	名古屋ガスセンター(株) 本社 業務グループ長
委員(医療)	南部 淳	(株)ナンブ 代表取締役
委員(医療)	中村 正二	静岡酸素(株) 代表取締役社長
委員(医療)	大島 康之	(株)大島商会 代表取締役
委員(医療)	伊藤 洋司	中京医療(株) 取締役 営業部長
委員(医療)	江場 大二	(株)エバ 代表取締役社長

注) 平成29年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

## 5. 活動報告 (H29.2 ~ H29.7)

### 1) 保安講習会の開催

「平成29年度産業ガス保安セミナー」

日 時：平成29年7月27日(木) 14:00 ~ 16:40

場 所：オフィスパーク名駅プレミアホール

講演内容：①ビデオ視聴解説「炭酸ガスの状態

実験」と「炭酸ガスCE設備の取扱い」

②「ヒヤリハット事例集(炭酸ガス

編)の解説」「e-ラーニングの紹介」

講師 JIMGA炭酸ガス技術WG委員

長谷川光一氏

③「高圧ガス保安に関する法令等改正についての解説」

④「リスクアセスメント(入門編)の解説」

講師 JIMGA本部 大沼 倫晃氏

参加者：66名



保安セミナーの様様

## 2) 各WGの活動

### (1) 水素ガス技術グループ会議

**日 時**：平成29年2月2日(木) 10:30～12:30

**場 所**：東海地域本部会議室

**議 題**：①本部技術・保安部会関連活動報告  
②平成28年東海地域本部産業ガス部門活動報告  
③本部水素ガス技術WGの活動報告  
④JIMGA表彰について

### (2) 充填ガス技術グループ会議

**日 時**：平成29年2月14日(火) 15:45～19:00

**場 所**：東海地域本部会議室

**議 題**：①本部技術・保安部会関連活動報告  
②平成28年東海地域本部産業ガス部門活動報告  
③平成29年産業ガス部門保安セミナー計画  
④JIMGA表彰について  
⑤平成29年度充填ガス技術グループ役員の選出

### (3) エアガス技術グループ会議

**日 時**：平成29年2月17日(金) 15:45～19:00

**場 所**：東海地域本部会議室

**議 題**：①本部技術・保安部会関連活動報告  
②平成28年東海地域本部産業ガス部門活動報告  
③平成29年産業ガス部門保安セミナー計画  
④JIMGA表彰について

### (4) アセチレン技術グループ会議

**日 時**：平成29年2月21日(火) 15:45～19:00

**場 所**：東海地域本部会議室

**議 題**：①本部技術・保安部会関連活動報告  
②平成28年東海地域本部産業ガス部門活動報告  
③本部アセチレンWGの活動報告  
④JIMGA表彰について

⑤平成29年産業ガス部門保安セミナー計画

### (5) 炭酸ガス技術グループ会議

**日 時**：平成29年2月24日(金) 15:45～19:00

**場 所**：東海地域本部会議室

**議 題**：①本部活動報告  
②平成28年東海地域本部産業ガス部門活動報告  
③平成29年産業ガス部門保安セミナー計画  
④JIMGA表彰について

### (6) 容器回収グループ会議

**日 時**：平成29年3月2日(木) 15:45～19:00

**場 所**：東海地域本部会議室

**議 題**：①本部技術・保安部会関連活動報告  
②平成28年東海地域本部産業ガス部門活動報告  
③地域行政の容器管理指針について  
④平成28年高圧ガス容器全国一斉特別回収報告  
⑤平成29年度容器回収グループ役員の選出

### (7) 容器RFタグWG会議

**日 時**：平成29年3月7日(火) 10:45～12:30

**場 所**：東海地域本部会議室

**議 題**：①平成28年東海地域本部産業ガス部門活動報告  
②平成28年東海地域本部医療ガス部門活動報告  
③平成29年東海地域本部事業計画案  
④本部容器RFタグ運営WG活動報告

### (8) 平成29年度第1回幹事会

**日 時**：平成29年4月11日(火) 10:30～12:30

**場 所**：東海ビル貸会議室

**議 題**：①平成29年度定時総会議案書の審議  
②平成29年度定時総会運営に関する確認

## ③JIMGA表彰推薦会員の確認

## (9) 炭酸ガス技術グループ会議

日 時：平成29年6月6日(火) 10:30～12:30

場 所：東海地域本部会議室

議 題：①平成29年度東海地域本部定時総会の報告  
 ②本部炭酸ガス技術G活動報告  
 ③平成29年「産業ガス保安セミナー」の検討  
 当日の運営と講演内容の確認

## (10) 保安教育グループ会議

日 時：平成29年6月8日(木) 10:30～12:30

場 所：東海地域本部会議室

議 題：①平成29年度東海地域本部定時総会の報告  
 ②本部技術・保安部会活動報告  
 ③平成29年「産業ガス保安セミナー」の検討  
 当日の運営と講演内容の確認  
 ④平成29年「東海・北陸セミナー」の講演テーマの決定

## (11) エアガス技術グループ会議

日 時：平成29年7月10日(月) 15:45～19:00

場 所：東海地域本部会議室

議 題：①平成29年度定時総会の報告  
 ②本部技術・保安部会活動報告

## ③本部医療・産業合同セミナーの報告

## ④災害時対策

## (12) 充填ガス技術グループ会議

日 時：平成29年7月13日(木) 10:45～12:30

場 所：東海地域本部会議室

議 題：①平成29年度定時総会の報告  
 ②本部技術・保安部会活動報告  
 ③本部医療・産業合同セミナーの報告  
 ④災害時対策  
 ⑤今年度研修会の検討

## (13) 水素ガス技術グループ会議

日 時：平成29年7月19日(水) 15:30～19:00

場 所：東海地域本部会議室

議 題：①平成29年度定時総会の報告  
 ②本部水素ガスWGの活動報告  
 ③本部医療・産業合同セミナーの報告  
 ④災害時対策  
 ⑤今年度研修会の検討

## (14) アセチレン技術グループ会議

日 時：平成29年7月21日(金) 10:30～12:30

場 所：東海地域本部会議室

議 題：①平成29年度定時総会の報告  
 ②本部溶解アセチレン技術WGの活動報告  
 ③本部医療・産業合同セミナーの報告  
 ④災害時対策

## 北陸地域本部

### 1. 定時総会

日時：平成29年5月18日（木）

会場：ANAクラウンプラザホテル金沢

#### 議 題

第1号議案 平成28年度事業活動報告

第2号議案 平成28年度収支決算報告

第3号議案 平成29年度活動及び予算案の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

#### 報告事項

JIMGA表彰の件

医療ガス部門草の根講師研修会の件

#### 本部出席者

常務理事 瀬戸 昭則

常務執行役員 羽坂 智

#### 谷屋本部長挨拶（要旨）

本日は、JIMGA北陸地域本部の定時総会に、ご出席をいただきありがとうございます。

会員の皆様には、日頃よりJIMGAの活動にご理解とご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

また、協会本部より医療ガス部門からは、瀬戸常務理事様、産業ガス部門から羽坂常務執行役員様に、ご臨席を賜りありがとうございます。

さて、新年度がスタートしていますが前期の北陸地方の景況感は、一部の業界や企業では好調な業績を継続されていますが、全体的には良くなかったと感じております。

今年こそ、オリンピック需要や北陸新幹線の延伸工事などが、北陸の経済を活気づかせてくれることを、期待したいと思っております。

JIMGA本部は、昨年「容器使用の考え方」をウェブサイトで公表し、契約書の書式についても掲載しております。これは、全溶連が商習慣の改善として、長年取り組んできていますが、より踏み込んだ形として公表しております。

昨年、長崎と姫路で発生した放置容器の事故を受けて、経産省はこの対策を強く業界に求めてきております。今年6月8日に姫路で、全溶連大会が開催され、テーマは「保安」とのことです。北陸地域本部としてはJIMGA本部の書式を基に、溶材組合と協力して対応し、北陸地域の容器保安に貢献したいと思っております。

最後になりますが、産業ガス部門、医療ガス部門とも平成29年度の活動を、更に充実したいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いして、簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。



谷屋本部長挨拶



総会風景





瀬戸常務理事の医療ガス部門近況報告

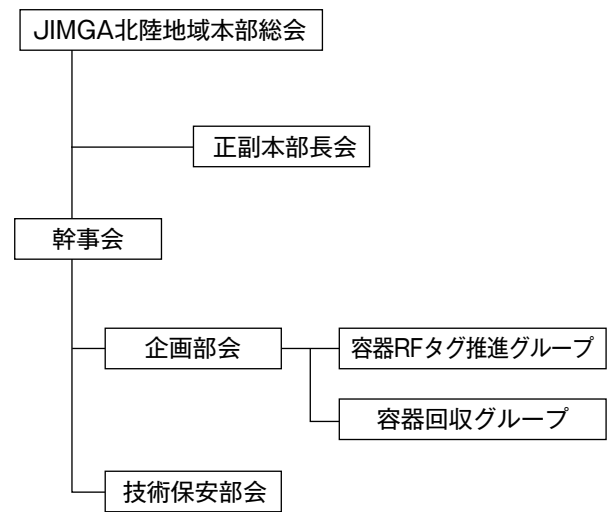


羽坂常務執行役員の産業ガス部門近況報告

## 2. 平成29年度産業ガス部門活動方針

- (1) 保安の推進 高圧ガス消費者保安講習会の開催
- (2) 会員研修会(アセチレン容器マス詰工場見学)の実施
- (3) RFタグの取り組み
- (4) 容器使用契約書についての講習会

## 3. 組織図



## 4. 役員・部会・WG名簿 (敬称略・順不同)

### 役員



**本部長**  
谷屋 五郎  
宇野酸素(株)  
代表取締役社長



**副本部長**  
森本 直和  
北酸高圧瓦斯(株)  
代表取締役社長



**副本部長**  
桐田 信也  
日星産業(株)  
富山支店 支店長

- |    |       |               |           |
|----|-------|---------------|-----------|
| 幹事 | 船岡 伸次 | 日本エア・リキード(株)  | 中部支社 業務部長 |
| 幹事 | 丹羽 信嗣 | 北越アセチレン(株)    | 代表取締役社長   |
| 幹事 | 田中 浩昭 | 日本液炭(株)       | 富山営業所 所長  |
| 幹事 | 志村 学  | 大陽日酸(株)       | 北陸支店長     |
| 幹事 | 木村 光彦 | 中部エア・ウォーター(株) | 東海北陸統括部長  |

幹事	南部 明彦	宇野酸素(株)	専務取締役
会計監事	志村 学	大陽日酸(株)	北陸支店長
会計監事	櫻井 二郎	サカキ産業(株)	代表取締役社長

#### 企画部会

委員	谷屋 五郎	宇野酸素(株)	代表取締役社長
委員	岩上 知司	岩谷産業(株)	北陸支店長
委員	木村 光彦	中部エア・ウォーター(株)	東海北陸統括部長
委員	船岡 伸次	日本エア・リキード(株)	中部支社 業務部長
委員	志村 学	大陽日酸(株)	北陸支店長
委員	角山 義樹	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 中部事業所 小松工場長
委員	森本 直和	北酸高圧瓦斯(株)	代表取締役社長
委員	田中 浩昭	日本液炭(株)	富山営業所長
委員	馬場 信幸	昭和電工ガスプロダクツ(株)	中部支店 富山営業所長
委員	柳澤 敏幸	直江津アセチレン(株)	取締役工場長
委員	松本 英明	新潟高圧ガス(株)	取締役工場長
委員	丹羽 宏彰	北越アセチレン(株)	部長
委員	谷屋 五郎	三国液酸(株)	代表取締役社長
委員	川崎 基	北陸エア・ケミカルズ(株)	取締役敦賀事務所長

#### 技術・保安部会

委員	谷屋 五郎	宇野酸素(株)	代表取締役社長
委員	岩上 知司	岩谷産業(株)	北陸支店長
委員	木村 光彦	中部エア・ウォーター(株)	東海北陸統括部長
委員	深谷 和則	東亜テクノガス(株)	北陸支店 北陸営業部
委員	船岡 伸次	日本エア・リキード(株)	中部支社 業務部長
委員	志村 学	大陽日酸(株)	北陸支店長
委員	渡辺 博之	北陸液酸工業(株)	取締役管理部長
委員	角山 義樹	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 中部事業所 小松工場長
委員	森本 直和	北酸高圧瓦斯(株)	代表取締役社長
委員	田中 浩昭	日本液炭(株)	富山営業所長
委員	馬場 信幸	昭和電工ガスプロダクツ(株)	中部支店 富山営業所長
委員	山口 淳	上毛天然瓦斯工業(株)	長岡支店長
委員	柳澤 敏幸	直江津アセチレン(株)	取締役工場長
委員	松本 英明	新潟高圧ガス(株)	取締役工場長
委員	丹羽 宏彰	北越アセチレン(株)	部長
委員	谷屋 五郎	三国液酸(株)	代表取締役社長
委員	川崎 基	北陸エア・ケミカルズ(株)	取締役敦賀事務所長

注) 平成29年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

## 5. 活動報告

### (2) 北陸地域本部幹事会

(1) 第7回MGR更新時集合講習会

日時：平成29年4月14日(金) 11:30～13:00

日時：平成29年2月21日(火) 13:00～17:00

場所：ANAクラウンプラザホテル金沢

場所：宇野酸素(株)金沢営業所

## 近畿地域本部

### 1. 定時総会

日時：平成29年5月17日(水) 16:15～17:20

会場：メルパルク大阪

#### 議 題

- 第1号議案 平成28年度事業報告承認の件
- 第2号議案 平成28年度経常費収支決算報告承認の件
- 第3号議案 各ガス部門役員変更承認の件
- 第4号議案 平成29年度事業計画(案)承認の件
- 第5号議案 平成29年度経常費収支予算(案)承認の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

#### 報告事項

##### (1) 会員数

産業ガス部門62社(平成29年3月31日現在)

##### (2) 表彰関係(平成28年度の受賞者)

経済産業大臣表彰、産業保安監督部近畿支部長表彰、大阪府知事表彰が紹介された。

##### (3) 今後の主な行事予定

JIMGA(本部)評議委員会および定時総会、ならびに関係他団体の総会日程等が報告された。

#### 本部出席者

副会長 南部 淳  
 常務執行役員 福盛 康宏  
 常務執行役員 山本 泰彦

#### 土田本部長挨拶(要旨)

開催に先立ち、土田本部長より挨拶があり「常日頃の皆様方のご協力を賜り、近畿地域本部のポリシーである『自主保安の確立』『コンプライア

ンスの徹底』『停滞容器の早期回収』が遵守されている」旨、感謝の意が述べられた。引き続き退任挨拶として、「(次の担当部門となる)食品業界でも、「安心・安全」を勝ち取ることが責務であり、この業界で覚えさせていただいたことを存分に活用させていただきたい」と抱負を述べた。最後に「本日の議題に対するご意見をよろしく願いたい」と挨拶を締めくくられた。



土田本部長挨拶



総会の模様

#### 懇親会

##### 上田本部長挨拶(要旨)

先程の定時総会にて日本産業・医療ガス協会の代表本部長を拝命いたしました。近畿地域本部の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

昨年度の高圧ガスの事故件数は863件で対前年度14%増となっております。事故をなくすということに対して皆さんと今後協力して取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。



上田本部長懇親会挨拶

#### 南部副会長挨拶（要旨）

日頃はJIMGAの活動に多大なご支援、ご協力を賜り改めて御礼を申し上げます。

年末から今年初めにかけて鳥インフルエンザの大流行が発生し、会員の皆様は炭酸ガスの緊急供給要請への対応に大変ご苦労されたと聞いております。改めて敬意を表したいと思います。

高圧ガスに関して昨年は放置容器の人身事故が発生したことから、皆様には10月の特別回収で例年以上のご協力をいただき心より感謝申し上げます。今後も高圧ガスの事故撲滅を目指してまいります。

さて、高止まりしております電力料金の問題ですが、昨年末には再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)賦課金の減免制度の見直しがなされました。FIT賦課金は平成29年5月より、昨年度までの1kWhあたり2.25円から2.64円に改定されました。原燃料価格が現状維持で推移した場合、減免制度を利用しても産業ガス業界の電力費用は平成23年3月に比較して93億円の負担増です。JIMGAでは、電力多消費産業11団体として連携

した取り組みを継続します。

また、税率引き上げが再延期されております消費税につきましては、協会では転嫁カルテルの期限を延長するとともに、調査会を活用して継続的に転嫁状況を確認してまいります。

産業ガス、医療ガス両部門共通の課題としましては、コンプライアンスと保安の確保を第一に掲げ、安心・安全を確立し、産業ガス・医療ガス業界の更なる地位向上を目指します。また会員各社の皆様から必要とされるJIMGAであるために、絶えず発信することを意識してJIMGAのプレゼンス向上を目指してまいります。

最後に本日ご出席の皆様方の益々のご繁栄とご健勝を、またそれぞれの会社のご発展を祈念申し上げます、挨拶とさせていただきます。



南部副会長挨拶

## 2. 平成29年度産業ガス部門活動方針

近畿地域本部の基本理念ある「自主保安の確立」「コンプライアンスの徹底」「停滞容器の早期回収」の三つの理念を中心に活動を押し進めてまいります。

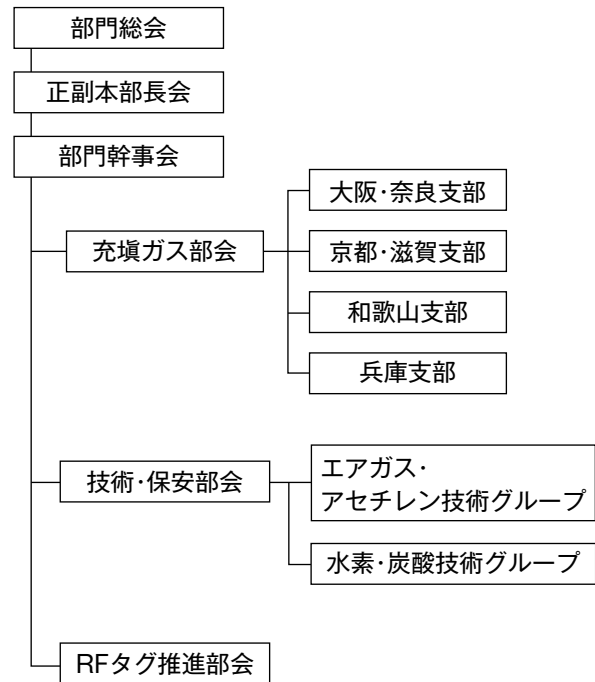
高圧ガス事故の状況として、災害件数は2年連続で増加となっております、本年度は減少が図れるよう、保安大会、防災訓練等保安活動の推進に努めます。

特に南海トラフ地震の発生も不安視される中、防災につきましては熊本地震にも学び、各地域色

も考慮しながら、災害時対策運営要綱の活用を推進しつつ、事故に繋がる放置容器等の減少のために、RFタグの運用をより広く押し進めたいと考えております。

コンプライアンスについては、今後とも業界の地位向上をはかる活動を通じて、より一層信頼される業界団体を目指します。

### 3. 組織図



### 4. 役員・部会・WG名簿 (敬称略・順不同)

#### 役員



#### 本部長

上田 恭久  
岩谷産業(株)  
常務執行役員 近畿支社長



#### 副本部長

塩見 由男  
エア・ウォーター(株)  
常務取締役 近畿支社長



#### 副本部長

浦谷 明弘  
エア・ウォーター(株)  
コンプライアンスセンター  
保安推進部 部長



#### 副本部長

(株)大岡酸素商会  
大岡 久晃  
取締役会長

- |      |       |               |                   |
|------|-------|---------------|-------------------|
| 幹事   | 山本 卓也 | 日本エア・リキード(株)  | 近畿支社 業務部長         |
| 幹事   | 成田 昌信 | 大陽日酸(株)       | 執行役員 関西支社長        |
| 幹事   | 陶国 昇  | 大阪ガスリキッド(株)   | 常務取締役 ガス営業本部長     |
| 幹事   | 平田 恭清 | 高圧ガス工業(株)     | 執行役員 ガス事業本部 近畿地区長 |
| 幹事   | 川中 尚  | エア・ウォーター炭酸(株) | 大阪支店長             |
| 会計監事 | 平尾 公治 | 小池酸素工業(株)     | 取締役 大阪支店長         |
| 会計監事 | 田中 政弥 | 協和ガス(株)       | 取締役 第1事業部長        |

## 充填ガス部会

部会長 大岡 久晃 (株)大岡酸素商会 取締役会長  
副部会長 難波 太郎 京都帝酸(株) 代表取締役社長

## 大阪・奈良支部

支部長 面谷 正久 (株)ダイオー 専務取締役  
副支部長 横山 亮 (株)関西ガスファースト 工場長  
委員 永田 裕信 大阪車輛工業(株) 取締役営業部長  
委員 成田 昌信 (株)大阪パッケージガスセンター 代表取締役社長  
委員 榊谷 隆 大丸エナウイン(株) 代表取締役  
委員 名倉 茂雄 大和熔材(株) 代表取締役社長  
委員 林 稔 浪速酸素(株) 代表取締役  
委員 宮崎 順平 (株)マスコール 代表取締役会長  
委員 伏山 英男 (株)伏山酸素商会 代表取締役

## 京都・滋賀支部

支部長 森脇 勝久 森脇産業(株) 代表取締役  
委員 中森 信輔 (株)泉産業 代表取締役社長  
委員 難波 太郎 京都帝酸(株) 代表取締役社長  
委員 高橋 寛 滋賀カーバイド(株) 代表取締役

## 和歌山支部

支部長 佐藤 秀樹 近畿エア・ウォーター(株) 取締役和歌山支店長  
副支部長 北山 雅章 和歌山酸素(株) 代表取締役  
委員 竹内 光男 新宮酸素(株) 代表取締役社長

## 兵庫支部

支部長 大岡 久晃 (株)大岡酸素商会 取締役会長  
副支部長 高浜 充治 高浜酸素(株) 代表取締役  
委員 堀田 秀樹 ネクスト・ワン(株) 代表取締役副社長  
委員 神田 保男 近畿酸素(株) 代表取締役社長  
委員 梅田 信夫 タツミ産業(株) 取締役営業本部長  
委員 橋詰 芳裕 (株)ニッコーコーポレーション 代表取締役  
委員 井本 光彦 姫路ダイサン(株) 代表取締役  
委員 藤田 元久 藤田酸素工業(株) 代表取締役社長  
委員 山下 隼人 (株)水島酸素商会 代表取締役社長

## 技術・保安部会

部会長 浦谷 明弘 エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部 部長  
委員 阿部 久志 大陽日酸(株) 関西支社 技術部長

## エアガス・アセチレン技術グループ

グループ長 阿部 久志 大陽日酸(株) 関西支社技術部長  
副グループ長 西田 善貞 イビデンケミカル(株) ガス事業部高石事業所 取締役工場長  
委員 中森 信輔 (株)泉産業 代表取締役社長  
委員 植田 耕司 岩谷瓦斯(株) 環境保安部 マネージャー

委員	小林 靖昌	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当部長
委員	浦谷 明弘	エア・ウォーター(株)	コンプライアンスセンター 保安推進部 部長
委員	佐藤 秀樹	近畿エア・ウォーター(株)	取締役和歌山支店長
委員	大岡 久晃	(株)大岡酸素商会	取締役会長
委員	石井 長文	協和ガス(株)	大阪工場製造係長
委員	廣田 淳一	近畿エア・ウォーター(株)	取締役管理部長
委員	厚沢不二夫	小池酸素工業(株)	支店長代理
委員	村上 孝一	高圧ガス工業(株)	堺工場長
委員	椋橋 明次	大陽日酸ガス&ウェルディング(株)	常務執行役員 技術本部長
委員	大岡 裕文	大丸エナウイン(株)	医療・産業ガス事業部 医療ガス課長
委員	輪島 茂光	日東高圧化学工業(株)	溶材部 部長
委員	八尋 正昭	日本エア・リキード(株)	技術本部カスタマー・エンジニアリング部 カスタマーサービス近畿グループ長

### 水素・炭酸技術グループ

グループ長	浦谷 明弘	エア・ウォーター(株)	コンプライアンスセンター 保安推進部 部長
副グループ長	三宅 秀典	昭和電工ガスプロダクツ(株)	大阪営業所
委員	石井 政行	尼崎水素販売(株)	所長
委員	植田 耕司	岩谷瓦斯(株)	環境保安部マネージャー
委員	小林 靖昌	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当部長
委員	川中 尚	エア・ウォーター炭酸(株)	大阪支店長
委員	岩見 憲二	近畿炭酸(株)	取締役管理部長
委員	綱島 誠司	新日鐵化学(株)	水素充填班班長
委員	阿部 久志	大陽日酸(株)	関西支社技術部長
委員	内田 陸	大阪ガスリキッド(株)	ソリューション開発部長
委員	阪田 尚久	日本液炭(株)	関西支社技術サービス課長

### RFタグ推進部会

部会長	塩見 由男	エア・ウォーター(株)	常務取締役 近畿支社長
委員	浦谷 明弘	エア・ウォーター(株)	コンプライアンスセンター 保安推進部 部長
委員	大岡 久晃	(株)大岡酸素商会	取締役会長
委員	廣田 淳一	近畿エア・ウォーター(株)	取締役管理部長
委員	平田 恭清	高圧ガス工業(株)	執行役員 ガス事業本部 近畿地区長
委員	阿部 久志	大陽日酸(株)	関西支社技術部長
委員	山本 卓也	日本エア・リキード(株)	近畿支社 業務部部長

注) 平成29年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

## 5. 活動報告 (H29.2 ~ H29.7)

### (1) 近畿地域本部主催

#### ○充填ガス部会 各支部合同部会

日 時：平成29年2月16日(木) 15:00 ~ 16:20

会 場：コンファレンスプラザ大阪御堂筋

内 容：今後の充填部会の方向性議論等

#### ○RFタグ推進部会

日 時：平成29年3月24日(金) 14:00 ~ 15:00

会 場：大阪会館

内 容：役員改選、水素ガス保安講習会開催他

#### ○幹事会

日 時：平成29年3月15日(水) 11:30 ~ 13:30

会 場：宇津房

内 容：収支報告、予算承認他

#### ○幹事会

日 時：平成29年4月20日(木) 14:00 ~ 15:50

会 場：コンファレンス大阪御堂筋

内 容：定時総会議案書承認他

#### ○水素・炭酸技術グループ会議

日 時：平成29年7月26日(水) 10:30 ~ 12:00

会 場：AP大阪淀屋橋

内 容：本部動向報告

### (2) 他団体行事

#### ○大阪府高圧ガス安全協会 総会

日 時：平成29年5月23日(火) 15:00 ~ 19:00

会 場：天王寺都ホテル

出席者：事務局長

#### ○大阪高圧ガス熔材協同組合 総会

日 時：平成29年5月24日(水) 17:30 ~ 19:30

会 場：スイスホテル南海大阪

出席者：事務局長

#### ○第74回全溶連大会2017兵庫大会

日 時：平成29年6月8日(木) 14:10 ~ 21:00

会 場：ホテル日航姫路

出席者：浦谷副本部長、事務局長

#### ○近畿高圧ガス容器管理委員会 総会

日 時：平成29年6月13日(火) 14:00 ~ 15:00

会 場：鐵鋼會館

出席者：上田本部長、事務局長

#### ○大阪高圧ガス熔材協同組合 総会

日 時：平成29年6月22日(木) 17:00 ~ 18:30

会 場：ホテル北野プラザ六甲荘

出席者：上田本部長、事務局長



## 中国地域本部

### 1. 定時総会

日 時：平成29年5月17日(水) 15:00～15:45

会 場：広島ガーデンパレス

出席者：33名

### 議案審議

第1号議案 平成28年度事業報告及び収支決算  
の承認を求める件

第2号議案 平成29年度事業計画(案)及び収  
支予算(案)の承認を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り全会  
一致で承認されました。

### 報告事項

(1) 会員の動静について、平成28年度内の事業  
所名変更1社、指定代表者交代8社、平成  
29年度5月迄の指定代表者交代3社を報告  
しました。

(2) 今後の主要行事日程を説明しました。

### 本部出席者

副会長 石井 敏康  
常務理事 瀬戸 昭則  
常務執行役員 大沼 倫晃

### 西村本部長挨拶

平素よりJIMGAの活動にご理解とご協力をい  
ただきまして誠にありがとうございます。

さて、日本経済は「アジアに対する輸出」が  
けん引役となり息の長い成長を続け、1～3月の  
GDP平均は年率換算1.9%増となり、5期連続のプ  
ラス成長となると言われております。中国地域の  
経済を見ていきますと、まだまだ実感するのは難  
しいところもあるものの製造業および個人消費は  
持ち直しの動きが出てきており、企業の設備投資

も徐々に増加しつつあります。しかしながら、一  
方で経済の回復に伴う生産持ち直しで、雇用情勢  
は一段とひっ迫してきております。

特に物流問題に関しましては人口減少、高齢  
化による働き手の減少、国の進める働き方改革の  
影響、また物流の増加によりさまざまな問題がお  
きております。厚生労働省の発表した「有効求人  
倍数」は全業種平均で、1.45倍となり、バブル期  
の1990年11月以来、26年ぶりの水準であります  
が、トラックの運転手が含まれる「自動車運転の  
職業」に限定をすると、2.63倍に達しております。  
最近の報道では特に、「宅配便業界」にとって大  
きな影響を及ぼすものと捉えられがちであります  
が、高圧ガスの業界もシリンダーの輸送、ローリ  
での輸送と高圧ガスの製造現場と同じく重要な  
のが「高圧ガスの物流」であり今後、安定した「高  
圧ガスの物流の確保」がより重要になってくるも  
のと思われまます。

また、世界情勢を考えますと北朝鮮情勢の緊  
張が日増しに高まりつつある状況であります。昨  
年、国際情勢が不安定な状況を受け高圧ガスがテ  
ロ行為に使用されないようにと、注意喚起される  
ようになりました。今後、我々は高圧ガスの保安  
をさまざまな角度から守っていかねばならな  
くならないと考えております。我々の仕事の中で最も  
大切なことは、絶対的な保安の確保から始まるも  
のと言えます。

ここで昨年、平成28年度のJIMGAの活動を振  
り返りますと、皆様のご協力のお陰をもちまし  
て、3回の保安講習会と保安セミナーが開催す  
ることができました。6月には四国地域本部との合  
同開催により「水素ガス保安講習会」を、10月  
には高圧ガス保安活動促進週間の行事として「高  
圧ガス保安法令講習会」を、11月には炭酸ガス  
従事者向けに保安意識の向上を推進し自主保安を

確保、高圧ガスによる災害を防止することを目的として3年毎に全国一斉開催している「炭酸ガス保安講習会」を中国地域本部で独立開催いたしました。それぞれ、各講習会ともに60名を超える皆様方にご参加いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

また、昨年4月には広島県において、中国地域で3県目となる「容器管理指針」が高圧ガス業界4団体の連盟で制定されており、更に8月には未制定の鳥取県・島根県にも指針制定の要望を行なってまいりました。容器の管理は高圧ガス業界において最重要課題である為、RFタグの普及を目指して7月には「RFタグ／JIMGA - EDI説明会」を実施し、多くの方々にご参加いただきました。

日本の産業界を陰で支える高圧ガス業界、そこに従事する我々にとって保安・安全の確保は何より優先すべきことであると考えております。平成29年度もJIMGAとして「保安講習会」「保安セミナー」の開催、高圧ガス保安大会等の積極的参加により、中国地域全ての高圧ガス事業関係者の保安意識の向上と、自主保安体制の確立に努めてまいりたいと考えております。

本日はその基本となります「平成29年度JIMGA中国地域本部産業ガス部門定時総会」でございませう。是非とも皆様方のご質問、活発な意見の交



西村本部長挨拶

換を行なっていただければ幸いです。終わりになりますが、これまで同様、皆様方の一層のご支援ご協力をお願いし、私からの挨拶とさせていただきます。

### 石井副会長挨拶

日頃は、JIMGAの活動に多大なご支援、ご協力を賜りまして、改めて御礼を申し上げます。

国内の景気は、異次元の金融政策もあり緩やかに回復が続いていると言われております。4月の末に発表された中国財務局の管内経済情勢報告によれば、中国地方の企業の生産活動は、アジアのインフラ整備向けや国内の自動車部品向けが好調であり、またスマートフォン用部品製造装置やフィルム製造装置などが堅調であり、全体として「緩やかに回復しつつある状況」となっております。更に、設備投資は、前年度を上回る見込みとなっております。雇用情勢に関しては、先ほど西村本部長のお話にもございましたが、人手不足が一段と拡がっており、有効求人倍率は1.64倍と全国のそれよりも0.2ポイント以上高く、完全失業率も2.3%と非常に低い値となっております。こうしてみると、全国と比較しても、中国地方の景気は良いと思いますが、我々の業界では、なかなか景気の回復を実感することができていない状況ではないかと思っております。これは、全体としての景気は回復基調であるものの、業種ごとに細かく見ていくと、良いところ、悪いところがまだ模様になっており、また、同じ企業でも扱っている商品により、良いところ、悪いところが併存している状況故と感じております。

また、このような経済情勢の中、企業に対する社会の要請は一段と厳しくなっており、コンプライアンスの順守はもちろんですが、企業グループ内のガバナンス強化、労働時間短縮等の働き方改革、ダイバーシティ等の対応も一層求められています。女性の登用といった話に加え、LGBTへの

対応もしっかりと進めていかねばなりません。ここにおられる皆様も日々その対応にご尽力されていることと存じます。

さて、昨年度は4月に発生した熊本地震のへの対応で始まりましたが、昨年末から今年初めにかけては鳥インフルエンザの大流行もあり、会員の皆様におかれましては炭酸ガスの緊急供給要請への対応に大変ご苦労されたと聞いております。改めて敬意を表します。ありがとうございます。

高圧ガスに関しましては、昨年放置容器の人身事故が発生したことから会員の皆様には10月の特別回収について例年以上のご協力をいただきました。この場を借りてご協力に感謝申し上げます。引き続き高圧ガス事故の撲滅を目指して、皆さんと協力して取り組みたいと思います。

さて、我々を取り巻く環境につきましては、ここ数年、二つの話をさせていただいております。

一つは電力料金の問題です。本日、川内1・2号機、伊方の3号機に続き、国内で4基目となる、関西電力の高浜原発4号機が再稼働することですが、原発停止による電気料金の値上げは、原油価格が低下したにも関わらず高止まりし、昨年末には再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)賦課金の減免制度の見直しがなされました。加えて、FIT賦課金は平成29年5月より、昨年度までの1kWhあたり2.25円から2.64円に17%アップへと改定されました。原燃料価格が現状維持で推移した場合、減免制度を利用しても産業ガス業界の電力費用は平成23年3月に比較して93億円の負担増となります。減免制度が現状のまま継続するとは考えられませんので、JIMGAとしましては、引き続き電力多消費産業11団体として連携し、取り組んでまいります。

消費税の問題につきましては、平成29年4月に予定されていた税率10%への再引き上げについ

て、平成31年10月の実施に再延期されました。協会としましては、転嫁カルテルの期限を延長するとともに、引き続き調査会を活用して転嫁状況を確認してまいります。

今年度の課題につきましては、まず産業ガス、医療ガス両部門共通として、コンプライアンスと保安の確保を第一に掲げ、安心・安全を確立し、産業ガス・医療ガス業界の更なる地位向上を目指していきたくと思います。

産業ガス部門では、「保安の一層の強化」、「RFタグの普及推進と容器保安の確保」、「環境・エネルギー問題への取り組み」、「国際統合化、標準化」の4つの課題に取り組みます。保安・安全の問題として、高圧ガスの事故は多少減ってきていますが依然として高止まりの水準にあります。昨年は残念ながら放置容器の破裂が続発し、人身事故も発生しました。また、超低温容器の破裂による死亡事故も発生しています。原因は同じでありませんが容器の管理は極めて重要であり、容器管理指針の徹底と、昨年公表した容器使用料の考え方を基に、容器使用契約の締結推進を図りたいと思います。

更に行政では産業保安のスマート化の施策が進められており、規制緩和の一方で保安水準の維持・向上と事故撲滅のため、新たな制度の運用が始められています。JIMGAとしましても事業者の立場から合理的な規制緩和と制度の運用を求め、安心・安全を確立するために取り組んでいきたいと考えています。

部門の課題を解決に加えて、我々の産業・医療ガスが、社会・産業のインフラおよびライフラインとして重要な製品であることを社会の皆様方に御理解いただくため、また、会員各社のプレーンとして会員の皆様から必要とされるJIMGAであるために、絶えず発信すること意識してJIMGAのプレゼンス向上を目指してまいります。

最後に本日ご出席の皆様方の益々のご繁栄とご健勝を、またそれぞれの会社のご発展を祈念申し上げます、挨拶とさせていただきます。



石井副会長挨拶

### 大沼常務執行役員（要旨）

日頃はJIMGAの活動に御支援をいただき御礼申し上げます。

10月の容器特別回収では例年以上の取り組みをお願いし、放置・不明容器合わせて2,878本となりました。経産省高圧ガス保安室の要望もあり今回は訪問件数も記載した結果、訪問件数は全溶連と合わせて32,000件でした。皆様のご協力に感謝いたします。不明容器撲滅の一つの手段であるRFタグは、平成29年3月末時点で77万本に装着され、72社、253拠点で運用されています。また容器管理指針は、鳥取・島根と東北4県を除き41都道府県から発行されております。

ウェブサイトに公開中のeラーニングは、累計アクセス数が29,000を超えています。昨年度は「高圧ガスの安全基礎知識」を改訂、また消費先での事故が多いアセチレンについて「溶解アセチレンの安全な取扱い」を制作、4月に公開しました。

「高圧ガスハンドブック」は保安法施行令が改正を反映し、第3次改訂版を3月に発行しました。またJISはJIMGAからの発行ではありませんが改訂委員会を設立し、JIS酸素・アルゴンの改訂を行い、

経済産業省国際標準化の審議を経て3月21日に官報に公示、日本規格協会から発売されました。

今後の予定は、5月26日の産業ガス部門／医療ガス部門の理事会・評議会、6月14日のJIMGA定時総会（セミナーでは「水素スタンドプロジェクト進捗状況」「医療ガス容器保安対策の推進」「封キャップの開発」「JIS改正（酸素・アルゴン）」「高圧ガス保安法関連改正内容について」を講演予定）です。指定代表者の皆様へご案内が届いていると思いますのでよろしくお願いいたします。

定時総会の後、JIMGA懇親会を開催しました。

藤井副本部長の乾杯で始まり、武代表本部長（医療ガス部門本部長）の中締めで終えました。



藤井副本部長の音頭による乾杯

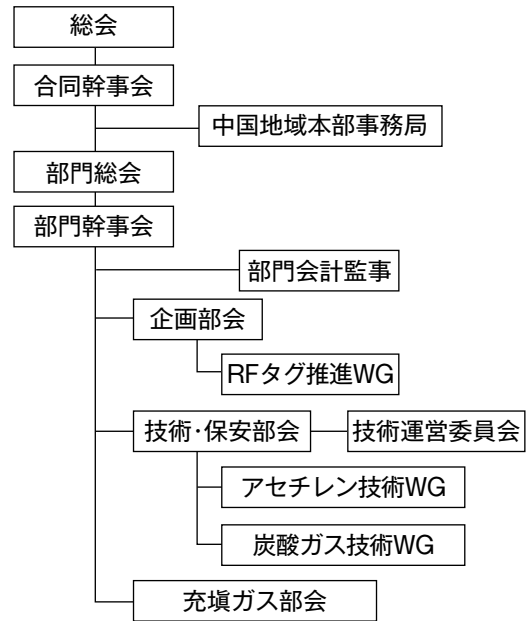
## 2. 平成29年度事業計画

産業ガス事業の製造、輸送、販売、消費等に関して、それらの改善・合理化の推進、技術の向上、および安全・保安の確保に努め、本部との連携を取りながら次の事業を遂行いたします。

- (1) 本部評議委員会、事務局長会、等へ積極的に参加する。
- (2) 従来から取り組んできた講習会活動を継続・展開する。
- (3) 高圧ガス保安大会や、高圧ガス保安活動促進週間の協賛諸行事へ積極的に参加する。

- (4) 本部指示のもと、関連法規の周知徹底並びに法令上の諸問題について地域監督官庁と話し合いを進める。
- (5) 各部会の特有の諸問題に関してはそれぞれの部会で討議解決をはかる。
- (6) 消費増税調査会は、窓口を中国地域本部事務局として継続する。

### 3. 組織図



### 4. 役員・部会・WG名簿 (敬称略・順不同)

#### 役員



**本部長**  
西村 浩和  
エア・ウォーター(株)  
執行役員中・四国支社長



**副本部長**  
藤井 基博  
藤井商事(株)  
代表取締役会長



**副本部長**  
並河 勉  
山陰酸素工業(株)  
代表取締役社長



**副本部長**  
中川 裕義  
高圧ガス工業(株)  
中・四国地区長



**副本部長**  
瀬戸 和義  
日本エア・リキード(株)  
中四国支社長

幹事	山本 敬史	大和酸素(株)	代表取締役社長
幹事	國廣 憲	中国アセチレン(株)	代表取締役社長
幹事	宮垣 尚民	岩谷産業(株)	中国支社長
幹事	武 浩一	大陽日酸(株)	中四国支社長
幹事	南場 勉	日本液炭(株)	執行役員 中四国支社長
会計監事	川崎 兼二	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 西日本事業所長
会計監事	小林 通匡	ニッキフッコー(株)	代表取締役社長

#### 企画部会

部会長	古田 正彦	日本エア・リキード(株)	カスタマー・エンジニアリング部 中四国グループ長(倉敷)
委員	青木 孝之	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当部長(中国駐在)
委員	松井 勇兒	大陽日酸(株)	中四国支社 技術部長
委員	福井 雅則	高圧ガス工業(株)	広島工場長
委員	金田 孝雄	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 西日本事業所 広島工場長
委員	宮澤 昭浩	藤井商事(株)	本社工場 製造課長
委員	浜田 拓也	山陰酸素工業(株)	安来ガスセンター長
委員	山本 正治	エア・リキード工業ガス(株)	山口工場長
委員	吉藤 宏行	岡山エア・ウォーター(株)	工場長
委員	黒田 秀昭	中国アセチレン(株)	取締役 製造部長

#### R F タグ推進WG

WG長	金田 孝雄	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 西日本事業所 広島工場長
委員	福井 雅則	高圧ガス工業(株)	広島工場長
委員	黒田 秀昭	中国アセチレン(株)	取締役 製造部長
委員	古田 正彦	日本エア・リキード(株)	カスタマー・エンジニアリング部 中四国グループ長(倉敷)
委員	浜田 拓也	山陰酸素工業(株)	安来ガスセンター長
委員	宮澤 昭浩	藤井商事(株)	本社工場 製造課長

#### 技術・保安部会

部会長	松井 勇兒	大陽日酸(株)	中四国支社 技術部長
副部会長	福井 雅則	高圧ガス工業(株)	広島工場長
委員	金田 孝雄	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 西日本事業所 広島工場長
委員	青木 孝之	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当部長(中国駐在)
委員	石葉 光伸	エア・ウォーター炭酸(株)	大阪支店 課長
委員	飯島 篤	小池酸素工業(株)	尾道工場長
委員	西村 宏一	高圧ガス工業(株)	岡山工場長
委員	田代 晃裕	山陰酸素工業(株)	技術部長
委員	金塚 博	山陽酸素(株)	工場長
委員	北 健太郎	昭和電工ガスプロダクツ(株)	中四国営業所 技術リーダー
委員	牧野 邦彦	(株)ゼネラルガスセンター	本社工場長
委員	花田 英治	(株)ゼネラルガスセンター	三原工場長
委員	川下 明彦	大陽日酸ガス&ウェルディング(株)	山口支店長
委員	黒田 秀昭	中国アセチレン(株)	取締役製造部長

委員	中元 昌幸	中国酸素(株)	広島工場長代理
委員	赤松 興一	中・四国エア・ウォーター(株)	下松ガスセンター長
委員	海上 欣三	中・四国エア・ウォーター(株)	広島工場長
委員	下畦 貴之	ニッキフッコー(株)	営業技術課長
委員	古田 正彦	日本エア・リキード(株)	カスタマー・エンジニアリング部 中四国グループ長(倉敷)
委員	小林 統	日本液炭(株)	中四国支社 技術サービス課長
委員	柴田 巖	広島日酸(株)	取締役工場長
委員	宮澤 昭浩	藤井商事(株)	本社工場 製造課長
委員	藤原 慎治	藤井商事(株)	水島工場 製造課長
委員	村山 昇	水アセ(株)	取締役工場長
委員	大野 剛	安浦アセチレン(株)	広島工場 課長
委員	徳永 守男	リンクス(株)	テクノガスセンター工場長

## アセチレン技術WG

WG長	福井 雅則	高圧ガス工業(株)	広島工場長
委員	金田 孝雄	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 西日本事業所 広島工場長
委員	黒田 秀昭	中国アセチレン(株)	取締役製造部長
委員	川下 明彦	大陽日酸ガス&ウェルディング(株)	山口支店長
委員	松井 勇児	大陽日酸(株)	中四国支社 技術部長
委員	西村 宏一	高圧ガス工業(株)	岡山工場長
委員	大野 剛	安浦アセチレン(株)	広島工場 課長
委員	村山 昇	水アセ(株)	取締役工場長
委員	飯島 篤	小池酸素工業(株)	尾道工場長

## 炭酸ガス技術WG

WG長	青木 孝之	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当部長(中国駐在)
委員	石葉 光伸	エア・ウォーター炭酸(株)	大阪支店 課長
委員	北 健太郎	昭和電工ガスプロダクツ(株)	中四国営業所 技術リーダー
委員	小林 統	日本液炭(株)	中四国支社 技術サービス課長

## 充填ガス部会

部会長	藤井 基博	藤井商事(株)	代表取締役会長
委員	平松 丈始	旭化成酸素(株)	代表取締役社長
委員	川崎 兼二	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 西日本事業所長
委員	武田 公樹	エア・リキード工業ガス(株)	西日本オペレーションセンター長
委員	岡本 茂裕	オカモト産業(株)	代表取締役社長
委員	西村 浩和	岡山エア・ウォーター(株)	代表取締役社長
委員	露崎 弘通	小池酸素工業(株)	中国支店長
委員	並河 勉	山陰酸素工業(株)	代表取締役社長
委員	木次 徳在	山陽酸素(株)	代表取締役社長
委員	白神 巧	(株)ゼネラルガスセンター	取締役社長
委員	山本 敬史	大和酸素(株)	代表取締役社長
委員	高山 眞司	高山産業(株)	代表取締役社長

委員	國廣 憲	中国アセチレン(株)	代表取締役社長
委員	川崎 能弘	中国酸素(株)	代表取締役社長
委員	洪江 幹男	中・四国エア・ウォーター(株)	岡山支店長
委員	五島 明憲	中・四国エア・ウォーター(株)	広島支店長
委員	小林 通匡	ニッキフッコー(株)	代表取締役社長
委員	山脇 淳平	広島高圧ガス(株)	代表取締役
委員	柴田 巖	広島日酸(株)	取締役工場長
委員	村山 昇	水アセ(株)	取締役工場長
委員	松本 眞	リンクス(株)	代表取締役社長

注) 平成29年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

## 5. 今後の事業活動計画

### (1) 「技術研修会／技術・保安部会」

日 程：平成29年9月15日(金)・16日(土)

場 所：トヨタ(愛知県)、他

### (2) 「高圧ガス保安法令講習会」

日 程：平成29年10月12日(木) 13:00～16:30

会 場：RCC文化センター

### (3) 「中国地域高圧ガス保安大会」

(協賛JIMGA中国地域本部)

日 程：平成29年11月8日(水) 13:30～17:00

会 場：メルパルク広島

### (4) 「中国地域 炭酸ガス保安講習会」

(中国地域本部の独自開催)

日 程：平成29年11月17日(金) 13:00～16:30

会 場：岡山国際文化センター

### (5) 「中国地区高圧ガス関係団体合同新春互礼会」

(共催JIMGA中国地域本部)

日 程：平成30年1月10日(水) 11:00～13:00

会 場：ANAクラウンプラザ広島

### (6) 「産業ガス保安セミナー」

日 程：平成30年2月15日(木)

開始時刻等詳細未確定

会 場：RCC文化センター



## 四国地域本部

### 1. 定時総会

日時：平成29年5月17日（水）15:55～16:40

会場：ホテル日航高知

#### 議題

第1号議案 平成28年度事業報告および収支決算について承認を求める件

第2号議案 平成29年度事業計画（案）および収支予算（案）について承認を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

#### 本部出席

副会長 矢原 史郎

専務理事 永江 裕



定時総会の模様

#### 野村本部長挨拶（要旨）

日頃は、JIMGA四国地域本部の活動に多大なご協力を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。

昨年度は放置容器に起因する容器破裂事故が多発し、徳島県内で酸素容器に移充填中に容器が破裂するという人身事故も発生いたしました。昨年度、新たに発行されました容器管理指針を活用し、容器管理を徹底することで消費者の啓発を進め、容器使用料契約までつなげたいと考えています。

四国地域本部産業ガス部門の取り組む最重要課題は高圧ガス事故撲滅です。今年度は高圧ガス保安講習会を高知県で開催し、一般消費者に高圧ガスに関する危険性を十分に認識していただき、高圧ガスの安全な取扱方法を周知することにより、高圧ガスに関する重大事故をなくしていきたいと考えています。

また、RFタグにつきましては、協会本部と連携してその普及促進を図ります。

今年度から四国高圧ガス協議会の事務局もJIMGA事務局で業務を行いますので、四国の高圧ガス三団体の連携を強めて高圧ガス保安活動を進めてまいります。

地域特性に合った情報発信をしてJIMGAの存在価値を高めてまいりますので、会員皆様方の一層のご支援、ご協力をお願いします。



野村本部長挨拶

#### 矢原副会長挨拶（要旨）

日頃はJIMGAの活動に多大なご支援、ご協力を賜りまして、改めて御礼を申し上げます。電力料金につきましては、原油価格が低下したにも関わらず高止まりし、昨年末には再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）賦課金の減免制度の見直しがなされました。JIMGAとしましては、引き続き



副会長挨拶

き電力多消費産業11団体として連携し、取り組んでまいります。

産業ガス部門では、「保安の一層の強化」、「RFタグの普及推進と容器保安の確保」、「環境・エネルギー問題への取り組み」、「国際整合化、標準化」の4つの課題に取り組めます。

保安・安全の問題として、高压ガスの事故は依然高止まりであり、昨年は残念ながら放置容器の破裂事故が続発し人身事故も発生いたしました。容器の管理は極めて重要であり、容器管理指針の徹底と昨年公表した容器使用料の考え方を基に容器使用契約の締結推進を図りたいと思います。

JIMGAとしましても事業者の立場から合理的な規制緩和と制度の運用を求め、安心・安全を確立するために取り組んでいきたいと考えています。

最後に本日ご出席の皆様方の益々のご繁栄とご健勝を、またそれぞれの会社のご発展を祈念申し上げます。

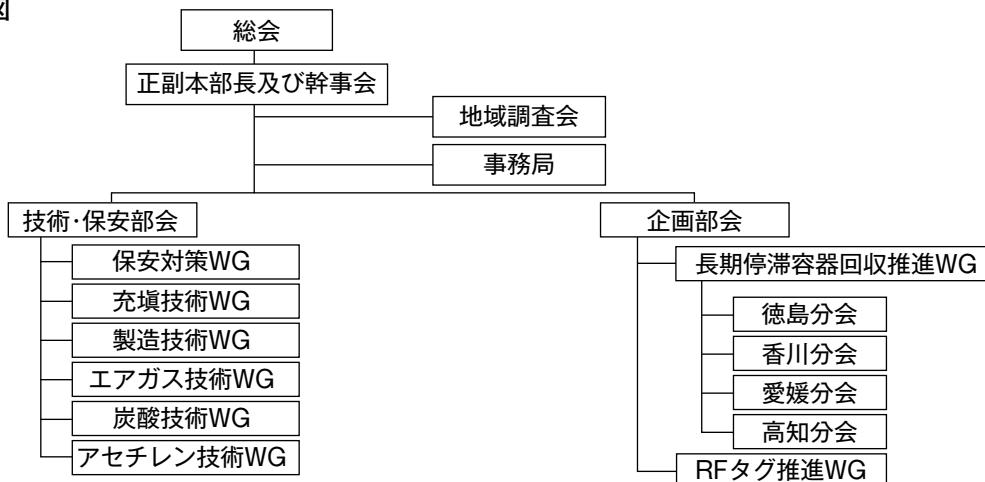
## 2. 平成29年度産業ガス部門活動方針

今年度、四国地域本部における課題の第一は高压ガスによる事故の撲滅です。そのため会員および一般消費者に対し、業界団体と協力をしながら高压ガス保安に関する啓発を図ってまいります。具体的な活動として、消費者向け高压ガス保安講習会の開催、会員向け保安セミナー開催ならびに企業研修会の実施等、高压ガス保安啓発に努めます。

また、昨年度四国地域内でも相次いで発行された高压ガス容器管理指針の周知を図ることにより、RFタグによる容器管理を推進するとともに、容器使用料について啓発を図ってまいります。そして当地域で高压ガス事故を撲滅していくため、放置容器、不明容器を無くす活動を続けてまいります。

以上のように会員ならびに高压ガス消費者に向けて地域特性に沿った情報発信を続け、行政に向けては高压ガス保安に関する諸状況を改善するための要請を進め、JIMGAの技術面、保安面で立場を向上させてまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。

## 3. 組織図



4. 役員・部会・WG名簿(敬称略・順不同)

役員



**本部長**  
野村 茂  
土佐酸素(株)  
代表取締役社長



**副本部長**  
大橋 正明  
四国アセチレン工業(株)  
代表取締役社長



**副本部長**  
岸田 和久  
日本エア・リキード(株)  
中四国支社 業務グループ  
グループ長



**副本部長**  
長谷 眞史  
四国岩谷産業(株)  
専務取締役

- |      |       |                 |             |
|------|-------|-----------------|-------------|
| 幹事   | 米田 勝明 | 中・四国エア・ウォーター(株) | 四国支店 取締役支店長 |
| 幹事   | 八木 智雄 | 四国大陽日酸(株)       | 代表取締役社長     |
| 幹事   | 橋口 朋之 | 大陽日酸(株)         | 中四国支社 四国支店長 |
| 幹事   | 太田 賀久 | 高松帝酸(株)         | 代表取締役社長     |
| 会計監事 | 一色あをみ | 大和酸素工業(株)       | 代表取締役社長     |

企画部会

部会長 野村 茂 土佐酸素(株) 代表取締役社長

長期停滞容器回収推進WG

- |      |       |              |           |
|------|-------|--------------|-----------|
| WG長  | 大橋 正明 | 四国アセチレン工業(株) | 代表取締役社長   |
| 徳島分会 | 岡崎 靖大 | 四国大陽日酸(株)    | 徳島営業所 所長  |
| 香川分会 | 下津 康弘 | 四国岩谷産業(株)    | 坂出工場 工場長  |
| 愛媛分会 | 一色 貴志 | 大和酸素工業(株)    | 代表取締役副社長  |
| 高知分会 | 小島 克典 | 土佐酸素(株)      | 高知工場 課長代理 |

RFタグ推進WG

- |     |       |                 |               |
|-----|-------|-----------------|---------------|
| WG長 | 長谷 眞史 | 四国岩谷産業(株)       | 専務取締役         |
| 委員  | 大橋 正明 | 四国アセチレン工業(株)    | 代表取締役社長       |
| 委員  | 一色 貴志 | 大和酸素工業(株)       | 代表取締役副社長      |
| 委員  | 篠原 和伸 | 四国大陽日酸(株)       | 常務取締役技術部長     |
| 委員  | 濱口 健二 | 土佐酸素(株)         | 取締役技術部長       |
| 委員  | 齋藤 公司 | エヒメ酸素(株)        | 常務取締役         |
| 委員  | 米田 勝明 | 中・四国エア・ウォーター(株) | 四国支店 取締役支店長   |
| 委員  | 川崎 起樹 | 高圧ガス工業(株)       | 岡山工場 次長       |
| 委員  | 加藤 省吾 | 高松帝酸(株)         | 製造技術グループ 課長代理 |

技術・保安部会

部会長 岸田 和久 日本エア・リキード(株) 中四国支社 業務グループ グループ長

保安対策WG

WG長 竹内 正則 四国岩谷産業(株) 担当技術部長

委員	田中 智博	エア・ウォーター炭酸(株)	大阪支店 広島出張所 所長
委員	篠原 和伸	四国大陽日酸(株)	常務取締役技術部長
委員	熊本 佳史	大陽日酸(株)	中四国支社 技術部 技術課 担当課長
委員	加藤 省吾	高松帝酸(株)	製造技術グループ 課長代理
委員	鈴木 利光	昭和電工ガスプロダクツ(株)	西日本支店 中・四国営業所 主務
委員	小林 統	日本液炭(株)	中四国支社 技術サービス課長
委員	古田 正彦	日本エア・リキード(株)	カスタマー・エンジニアリング部中・四国グループ グループ長
委員	安部 元行	小池酸素工業(株)	四国営業所 所長
委員	川崎 起樹	高圧ガス工業(株)	岡山工場 次長

#### 充填技術WG

WG長	濱口 健二	土佐酸素(株)	取締役技術部長
委員	一色 貴志	大和酸素工業(株)	代表取締役副社長
委員	住吉 直人	中・四国エア・ウォーター(株)	四国支店 工場長
委員	樋笠 和樹	四国アセチレン工業(株)	製造部門長
委員	木村 昭夫	株東予ガスセンター	センター長
委員	片山 昌也	エヒメ酸素(株)	主任

#### 製造技術WG

WG長	三輪 朗	四国液酸(株)	取締役工場長
委員	渡部 正功	松山オキシトン(株)	工場長
委員	伊藤 聖哉	住化高純度ガス(有)	製造課長

#### エアガス技術WG

WG長	渡部 正功	松山オキシトン(株)	工場長
-----	-------	------------	-----

#### 炭酸技術WG

WG長	水間 裕英	昭和電工ガスプロダクツ(株)	西日本支店 中・四国営業所
-----	-------	----------------	---------------

#### アセチレン技術WG

WG長	樋笠 和樹	四国アセチレン工業(株)	製造部門長
-----	-------	--------------	-------

注) 平成29年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

## 5. 行事開催報告

### 第1回技術・保安部会

日 時：平成29年5月12日(金) 12:00～14:00  
 場 所：四国地域本部  
 議 題：①平成29年度活動計画  
 ②「みんなで学ぶ 保安の知識」講習

### 第2回技術・保安部会

日 時：平成29年7月6日(木) 12:00～13:30  
 場 所：四国地域本部  
 議 題：平成29年度活動計画の検討  
 ①JIMGA保安セミナー  
 ②消費者向け保安講習会  
 ③企業訪問

## 6. 今年度の講習会予定

### ①JIMGA保安セミナー

日 時：平成29年8月24日(木) 13:00～  
 場 所：ホテルパールガーデン  
 内 容：①産業・医療ガスの臭気判定について  
 ②酸素ガス充填所作業基準(追補)  
 ③CEに関するQ&A

### ②高圧ガス保安講習会

日 時：平成29年11月9日(木) 13:00～  
 場 所：サンピアシリーズ  
 内 容：①最近の高圧ガス行政の動向について  
 ②みんなで学ぶ保安の知識  
 ③高圧ガス事故事例

# オープン表示機能付バルブ

大型の開閉表示窓で見やすく使いやすい。

バルブの開閉状態がひと目でわかる大きな表示が特長です。  
 高機能・低コストを実現したバルブですので、幅広い分野で活躍すること間違いなしです。  
 また、ハンドル部にRFタグを搭載したタイプもあり、RFタグ機能付きバルブとしてご使用いただけます。



III HAMAI

III 株式会社 ハマイ

■本社 〒141-8512 東京都品川区西五反田7-7-7 SGスクエア2F  
 TEL.03-3492-6655 FAX.03-3492-6660  
 ■府中工場 ■大多喜工場 ■大阪営業所 ■名古屋営業所 ■福岡営業所 ■仙台営業所 ■倉敷出張所

## 九州地域本部

### 1. 定時総会

日時：平成29年5月19日（金）14:30～16:00

会場：ホテルセントラーザ博多

### 議 題

第1号議案 平成28年度事業報告及び収支報告の件

第2号議案 平成29年度事業計画（案）および予算（案）の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

### 報告事項

平成28年度販売・消費事業所高圧ガス点検結果報告

### 本部出席者

副会長 小池 和夫  
専務理事 永江 裕  
常務執行役員 鈴木 正晴

### 栗下代表地域本部長挨拶（要旨）

本日は28年度の事業報告および収支報告ならびに29年度事業計画案および予算案を審議いただきますが、28年度の活動として産業ガスおよび医療ガスの講習会を4回開催し約630名のご参加をいただきました。これもひとえに会員各社様のご尽力の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

先般、保安協会より28年度の高圧ガス事故のまとめが出されておりましたが、消費側での事故が全国で67件、前年比で18.3%減っておりました。これも講習会そして何よりも会員各位の安全指導によるものと思います。

数字はともかく我々は逆にますます安全指導を強化する必要があるのではないかと考えていま

す。消費先現場が変わってきています。溶接作業においても若い女性が作業をされているケースも散見されます。これまではベテランと若手のバランスが取れていた職場に若手が入らずベテランばかりの現場、逆にベテランの方の引退・配置転換などで人数が減った結果若手ばかりの現場など、現場における方々の構成が変わってきており、経験の浅い方々が高圧ガスをお使いになられているケースが増えています。

ベテランの方は火を見ただけで、あるいは最初の試しだけで、ガスの純度がおかしいとか漏れていないかとか、違うバルブが開いているのではないかなど、これまでの経験からいろいろなことを未然に察知されていた。それがなくなってきており、危険な状態であっても使用してしまう、あるいは容器を動かそうとして転倒するなど事故につながる環境は決して減っていないと思います。

従いまして、今後も初歩的な高圧ガスの取り扱いをはじめ、一律ではなく現場の方々のレベルに見合った保安活動の必要がありますので、皆様方におかれましては、その辺を見極めていただきながら、引き続きご指導をお願いいたします。

もう1点は、昨年は放置容器がらみの事故が目立ちました。先ほど申し上げた現場における活動のみならず、回収についてもお客様との取り決めに注力する重要性が増してきているというのが、28年の事故例から見て取れるものと思います。

昨年、九州・熊本は大震災に見舞われました。その際、福岡県と熊本県で2件のガス漏えいがありましたが、それも含めて九州沖縄では、おそらく11件の災害事故があり、全国では110件ですから約10%に当たります。今年度も事故ゼロを目標として、皆様方と共に各種活動を進め、また行

政やJIMGA本部との連携にも努めてまいりますので、本年度も変わらぬご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。



栗下本部長挨拶



総会の模様

### 小池副会長挨拶（要旨）

日頃は、JIMGAの活動に多大なご支援、ご協力を賜りまして、改めて御礼を申し上げます。国内の景気は、異次元の金融政策もあり緩やかに回復を続けていると言われていますが、我々の業界では、なかなか景気の回復を実感することができていません。

昨年度は熊本地震の発生に始まりましたが、年末から今年初めにかけては鳥インフルエンザの大流行もあり九州においては宮崎、熊本、佐賀発生しました。会員の皆様におかれましては、炭酸ガスの緊急供給要請への対応に大変ご苦労された

と聞いております。改めて敬意を表したいと思います。

高圧ガスに関しましては、昨年放置容器の人身事故が発生したことから、会員の皆様には10月の特別回収について例年以上のご協力をいただきました。この場を借りてご協力に感謝申し上げます。引き続き高圧ガス事故の撲滅を目指して、皆さんと協力して取り組みたいと思います。

さて、我々を取り巻く環境につきましては、お話をさせていただきます。

まず電力料金の問題です。原発停止による電気料金の値上げは、原油価格が低下したにも関わらず高止まりし、昨年末には再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）賦課金の減免制度の見直しがなされました。加えて、FIT賦課金は平成29年5月より、昨年度までの1kWhあたり2.25円から2.64円に改定されました。原燃料価格が現状維持で推移した場合、減免制度を利用しても産業ガス業界の電力費用は平成23年3月に比較して93億円の負担増となります。減免制度が現状のまま継続するとは考えられませんので、JIMGAでは、引き続き電力多消費産業11団体として連携し、取り組んでまいります。

また平成29年4月に予定されていた消費税の税率10%への再引き上げについて、平成31年10月の実施に再延期されました。JIMGAでは転嫁カルテルの期限を延長するとともに、引き続き調査会を活用して転嫁状況を確認してまいります。

今年度の課題につきましては、まず産業ガス、医療ガス両部門共通として、コンプライアンスと保安の確保を第一に掲げ、安心・安全を確立し、産業ガス・医療ガス業界のさらなる地位向上を目指していきたいと思います。

医療ガス部門では、今年度も「安全推進・事故防止」、「法・規制への対応」、「災害時協定の充実

推進」、「MGRの公的地位の向上」の4つのテーマについて取り組みます。特に、医療ガス事故の防止と医療ガス容器の放置防止を目指して制定しました「医療ガス容器保安対策指針」について、今年度は具体的な取り組みとして、「納入月ラベル」の導入、「容器点検キャンペーン」の実施、容器の「貸借契約の締結」に取り組みます。また、昨年公表しました医療ガスボンベ誤認防止の取り組みにつきましては、二酸化炭素ボンベのラベルを既に多くの会員の皆様に採用いただいております。今年度は「医療ガス教育の推進」の実効策として啓発ポスターを準備しましたので、皆様のご活用をお願いします。

産業ガス部門では、「保安の一層の強化」、「RFタグの普及推進と容器保安の確保」、「環境・エネルギー問題への取り組み」、「国際整合化、標準化」の4つの課題に取り組みます。

保安・安全の問題として、高圧ガスの事故は多少減ってきていますが依然として高止まりの水準にあります。昨年は残念ながら放置容器の破裂が続発し、人身事故も発生しました。また、超低温容器の破裂による死亡事故も発生しています。原因は同じではありませんが容器の管理は極めて重要であり、容器管理指針の徹底と、昨年公表した容器使用料の考え方を基に、容器使用契約の締結推進を図りたいと思います。さらに行政では産業保安のスマート化の施策が進められており、規制緩和の一方で保安水準の維持・向上と事故撲滅のため、新たな制度の運用が始められています。JIMGAとしましても事業者の立場から合理的な規制緩和と制度の運用を求め、安心・安全を確立するために取り組んでいきたいと考えています。

医療ガス部門、産業ガス部門の課題解決に加えて、我々の産業・医療ガスが、社会・産業のインフラおよびライフラインとして重要な製品であ

ることを社会の皆様方に御理解いただくため、また、会員各社のプレーンとして会員の皆様から必要とされるJIMGAであるために、絶えず発信すること意識してJIMGAのプレゼンス向上を目指してまいります。

## 懇親会

九州産業保安監督部、福岡県庁工業保安課・業務課、高圧ガス保安協会九州支部からの来賓を交え懇親会を開催しました。九州産業保安監督部の上條部長様に来賓のご挨拶を頂戴し、恒例の平成28年度高圧ガス保安関連表彰者を紹介し、中村産業ガス部門副本部長の挨拶・乾杯で和やかな懇親会が始まりました。歓談の後、沖縄県よりご参加の(株)おきさんの富永社長の中締めで散会となりました。



乾杯の様様



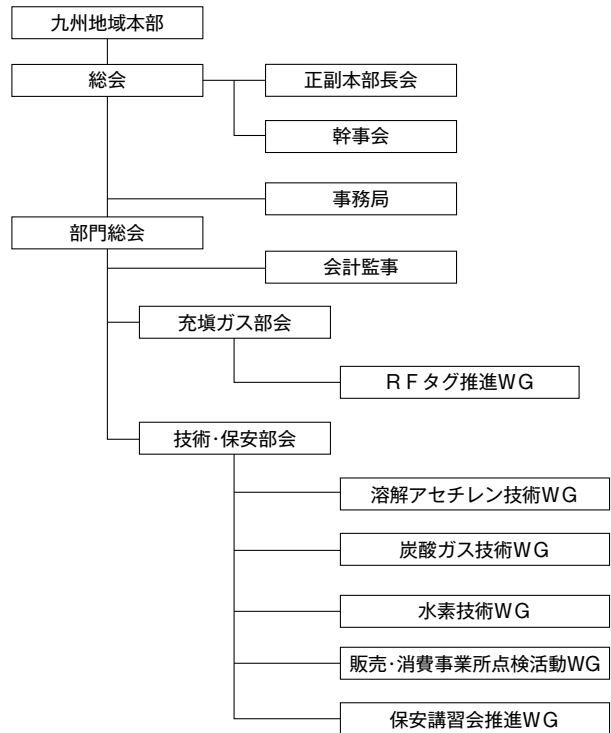
懇親会の様様



## 2. 平成29年度産業ガス部門活動方針

- (1) JIMGA本部、関係団体、行政関係部署との連携推進
- (2) 会員向け情報発信の迅速化および充実 (JIMGA本部の活動状況、行政の動向等)
- (3) 放置容器・不明容器対策の推進 (九州高圧ガス容器管理委員会との連携)
- (4) 行政への容器管理指針発行要請 (KKHR、各県KHKと連携)
- (5) RFタグの周知・普及の推進

## 3. 組織図



## 4. 役員・部会・WG名簿 (敬称略・順不同)

### 役員



#### 本部長

栗下 敏一  
大陽日酸(株)  
執行役員 九州支社長



#### 副本部長

中村 英己  
エア・ウオーター(株)  
執行役員 九州支社長



#### 副本部長

山口 和美  
日本エア・リキード(株)  
技術本部カスタマーエンジニアリング部  
九州グループ長

- |    |       |            |            |
|----|-------|------------|------------|
| 幹事 | 宮嶋 寛幸 | 福豊帝酸(株)    | 代表取締役社長    |
| 幹事 | 床本 浩二 | 岩谷産業(株)    | 執行役員 九州支社長 |
| 幹事 | 藤内 治敏 | 福岡酸素(株)    | 代表取締役社長    |
| 幹事 | 柳谷 敏明 | 西日本高圧瓦斯(株) | 代表取締役社長    |
| 幹事 | 磯田 光功 | 高圧ガス工業(株)  | 執行役員九州地区長  |
| 幹事 | 江藤 伸一 | 江藤酸素(株)    | 代表取締役会長    |
| 幹事 | 吉田 浩之 | 日本液炭(株)    | 執行役員 九州支社長 |

幹事	大坂 耕示	福岡酸素(株)	伊万里支社 支社長
幹事	山崎 俊隆	(株)武田商事	代表取締役社長
幹事	今川 敬志	内村酸素(株)	代表取締役社長
幹事	山本 和久	江藤酸素(株)	代表取締役社長
幹事	岩切 充弘	宮崎酸素(株)	代表取締役社長
幹事	内村 武志	サツマ酸素工業(株)	代表取締役社長
幹事	與儀 盛輝	(株)オカノ	代表取締役社長
会計監事	福田愛二郎	貴船商事(株)	代表取締役社長
会計監事	川崎 兼二	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 取締役西日本事業所長

#### 充填ガス部会

部会長	宮嶋 寛幸	福豊帝酸(株)	代表取締役社長
副部会長	杉谷 英範	(株)朝日酸素商会	代表取締役社長
委員	大坂 耕示	福岡酸素(株)	伊万里支社 支社長
委員	山崎 俊隆	(株)武田商事	代表取締役社長
委員	朝熊 真一	内村酸素(株)	嘉島事業所 製造課課長
委員	佐藤 祐平	江藤酸素(株)	取締役技工ブロック長
委員	岩切 英教	宮崎酸素(株)	専務取締役
委員	荒川 一裕	サツマ酸素工業(株)	専務取締役
委員	金城 優典	(株)オカノ	ガス部部長

#### RFタグ推進部会

WG長	宮嶋 寛幸	福豊帝酸(株)	代表取締役社長
委員	杉谷 英範	(株)朝日酸素商会	代表取締役社長
委員	加藤 雅律	岩谷産業(株)	九州支社福岡支店長
委員	東 成政	九州エア・ウォーター(株)	取締役製造技術部長
委員	荒木 淳支	高圧ガス工業(株)	小倉工場 執行役員統括工場長
委員	橋本 祐治	大陽日酸(株)	九州支社 技術部長
委員	渡島 康隆	西日本高圧瓦斯(株)	取締役生産部長
委員	鈴木 貴志	日本液炭(株)	九州支社 技術サービス課長
委員	深堀 慎一	福岡酸素(株)	業務部 係長
委員	大坂 耕示	福岡酸素(株)	伊万里支社 支社長
委員	高尾正太郎	(株)武田商事	総務部長
委員	伊集院宏之	内村酸素(株)	ガス業務部課長
委員	佐藤 祐平	江藤酸素(株)	取締役技工ブロック長
委員	岩切 英教	宮崎酸素(株)	専務取締役
委員	荒川 一裕	サツマ酸素工業(株)	専務取締役
委員	金城 優典	(株)オカノ	ガス部 部長

#### 技術・保安部会

部会長	中村 英己	エア・ウォーター(株)	執行役員 九州支社長
委員	長家 茂	福岡酸素(株)	取締役技術統轄部長
委員	橋本 祐治	大陽日酸(株)	九州支社 技術部長
委員	山口 和美	日本エア・リキード(株)	カスタマー・エンジニアリング部 九州グループ長
委員	荒木 淳支	高圧ガス工業(株)	小倉工場 執行役員統括工場長
委員	森 宏太郎	岩谷産業(株)	九州支社 環境保安部(九州駐在)
委員	渡島 康隆	西日本高圧瓦斯(株)	取締役生産部長

委員	鈴木 貴志	日本液炭(株)	九州支社 技術サービス課長
委員	大村 利美	福豊帝酸(株)	取締役専務執行役員 営業本部長
委員	大坂 耕示	福岡酸素(株)	伊万里支社 支社長
委員	男澤 隆	(株)武田商事	製造部 部長
委員	石橋 猛	内村酸素(株)	有明事業所 製造課 課長
委員	佐藤 祐平	江藤酸素(株)	取締役技工ブロック長
委員	菊池 誠	宮崎酸素(株)	取締役製造部長
委員	荒川 一裕	サツマ酸素工業(株)	専務取締役
委員	諸喜田 隆	(株)オカノ	常務取締役

#### 溶解アセチレン技術WG

WG長	荒木 淳支	高圧ガス工業(株)	小倉工場 執行役員統括工場長
委員	森 宏太郎	岩谷産業(株)	九州支社 環境保安部(九州駐在)
委員	田坂 友成	岩谷瓦斯(株)	北九州工場 工場長
委員	佐藤 祐平	江藤酸素(株)	取締役技工ブロック長
委員	翁長 健	(株)おきさん	取締役
委員	橋本 祐治	大陽日酸(株)	九州支社 技術部長
委員	小柳 直	西日本高圧瓦斯(株)	ガス関連事業部 部長
委員	山口 和美	日本エア・リキード(株)	カスタマー・エンジニアリング部 九州グループ長

#### 炭酸ガス技術WG

WG長	鈴木 貴志	日本液炭(株)	九州支社 技術サービス課長
委員	森 宏太郎	岩谷産業(株)	九州支社 環境保安部(九州駐在)
委員	吉田 秀幸	エア・ウォーター炭酸(株)	福岡支店 課長
委員	翁長 健	(株)おきさん	取締役
委員	村田 眞信	昭和電工ガスプロダクツ(株)	九州支店 副主事
委員	田中 伸一	福岡酸素(株)	保安管理部 課長

#### 水素技術WG

WG長	折尾 美昭	岩谷瓦斯(株)	佐賀工場 工場長
委員	千々和 徹	伊藤忠工業ガス(株)	水素業務課長
委員	森 宏太郎	岩谷産業(株)	九州支社 環境保安部(九州駐在)
委員	木内 正進	昭和電工(株)	福岡支店長
委員	舟橋 和生	新日鉄住金化学(株)	ガス部 マネージャー
委員	橋本 祐治	大陽日酸(株)	九州支社 技術部長
委員	山口 和美	日本エア・リキード(株)	カスタマー・エンジニアリング部 九州グループ長
委員	岡 潔	福岡酸素(株)	取締役経営企画部長

#### 販売・消費事業所点検活動WG

WG長	山口 和美	日本エア・リキード(株)	カスタマー・エンジニアリング部 九州グループ長
委員	森 宏太郎	岩谷産業(株)	九州支社 環境保安部(九州駐在)
委員	山下 隆二	九州エア・ウォーター(株)	製造技術部 課長
委員	荒木 淳支	高圧ガス工業(株)	小倉工場 執行役員統括工場長
委員	栗田 英次	大陽日酸(株)	九州支社 技術部 技術課長
委員	渡島 康隆	西日本高圧瓦斯(株)	取締役生産部長
委員	鈴木 貴志	日本液炭(株)	九州支社 技術サービス課長
委員	田中 伸一	福岡酸素(株)	保安管理部 課長

委員	大村 利美	福豊帝酸(株)	取締役専務執行役員 営業本部長
委員	大坂 耕示	福岡酸素(株)	伊万里支社 支社長
委員	男澤 隆	(株)武田商事	製造部 部長
委員	飯沼 由博	内村酸素(株)	ガス業務部 主任
委員	野尻 裕二	江藤酸素(株)	保安課長
委員	谷口 修	宮崎酸素(株)	営業部長
委員	荒川 一裕	サツマ酸素工業(株)	専務取締役
委員	浦崎 隼人	(株)オカノ	ガス部第一課 課長

#### 保安講習会開催WG

WG長	山口 和美	日本エア・リキード(株)	カスタマー・エンジニアリング部 九州グループ長
委員	森 宏太郎	岩谷産業(株)	九州支社 環境保安部(九州駐在)
委員	佐藤 祐平	江藤酸素(株)	取締役技工ブロック長
委員	山下 隆二	九州エア・ウォーター(株)	製造技術部 課長
委員	荒木 淳支	高圧ガス工業(株)	小倉工場 執行役員統括工場長
委員	橋本 祐治	大陽日酸(株)	九州支社 技術部長
委員	鈴木 貴志	日本液炭(株)	九州支社 技術サービス課長
委員	長家 茂	福岡酸素(株)	ガスエンジニアリング部 取締役技術統轄部長
委員	大村 利美	福豊帝酸(株)	取締役専務執行役員 営業本部長

注) 平成29年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

#### 5. 活動報告 水素ガス保安講習会の開催

日時：平成29年7月21日(金) 14:00～17:00

場所：TKPガーデンシティ PREMIUM

受講者：45名

内容：水素ガス取扱い上の基礎知識 前編／  
後編



講習会の模様

## 統計データ一覧

2012年～2016年 地区別酸素（一般）販売実績推移表……………	123
2012年～2016年 地区別窒素（一般）販売実績推移表……………	124
2012年～2016年 地区別アルゴン（一般）販売実績推移表……………	125
業種別酸素（一般）販売実績推移表（5年間：2012年度～2016年度） ……	126
業種別窒素（一般）販売実績推移表（5年間：2012年度～2016年度） ……	127
業種別アルゴン（一般）販売実績推移表（5年間：2012年度～2016年度） ……	128
2016年4月～2017年3月 地区別酸素生産・販売実績表 ……	129
2016年4月～2017年3月 酸素生産量・一般販売実績推移グラフ ……	129
2016年4月～2017年3月 地区別窒素生産・販売実績表 ……	130
2016年4月～2017年3月 窒素生産量・一般販売実績推移グラフ ……	130
2016年4月～2017年3月 地区別アルゴン生産・販売実績表 ……	131
2016年4月～2017年3月 アルゴン生産量・一般販売実績推移グラフ ……	131
2012年度～2016年度 溶解アセチレン生産・販売実績表……………	132
2012年度～2016年度 液化炭酸ガス工場出荷・用途別販売実績推移表……………	132
2012年～2016年 主要半導体材料ガス等国内販売実績推移表……………	133
2012年～2016年 標準ガス国内販売実績推移表……………	134
2012年～2016年 圧縮水素出荷実績推移表……………	134

## 2012年～2016年 地区別酸素（一般）販売実績推移表

単位：千m<sup>3</sup>

地区別	西暦	液化酸素	対前年比	パイピング	対前年比	ボンベ詰	対前年比	合計	対前年比
北海道	2012	14,464	101%	7,292	88%	4,538	103%	26,294	97%
	2013	14,514	100%	7,429	102%	4,415	97%	26,358	100%
	2014	14,276	98%	6,679	90%	4,362	99%	25,317	96%
	2015	13,353	94%	5,836	87%	4,378	100%	23,567	93%
	2016	12,866	96%	5,824	100%	4,275	98%	22,965	97%
東北	2012	46,121	94%	87,610	162%	2,223	109%	135,954	129%
	2013	46,299	100%	86,775	99%	2,049	92%	135,123	99%
	2014	47,009	102%	81,471	94%	1,922	94%	130,402	97%
	2015	44,431	95%	77,886	96%	1,771	92%	124,088	95%
	2016	48,051	108%	80,820	104%	1,800	102%	130,671	105%
関東	2012	231,529	98%	278,950	109%	9,787	98%	520,266	104%
	2013	227,282	98%	282,524	101%	9,290	95%	519,096	100%
	2014	219,448	97%	287,227	102%	9,407	101%	516,082	99%
	2015	206,920	94%	245,602	86%	8,634	92%	461,156	89%
	2016	189,395	92%	212,611	87%	8,305	96%	410,311	89%
東海	2012	148,354	93%	184,363	98%	3,830	98%	336,547	96%
	2013	135,544	91%	182,276	99%	3,349	87%	321,169	95%
	2014	142,018	105%	181,708	100%	3,234	97%	326,960	102%
	2015	141,765	100%	187,226	103%	2,768	86%	331,759	101%
	2016	141,225	100%	184,436	99%	2,552	92%	328,213	99%
近畿	2012	241,383	95%	129,184	91%	5,375	94%	375,942	93%
	2013	196,678	81%	135,829	105%	4,859	90%	337,366	90%
	2014	197,082	100%	135,618	100%	4,300	88%	337,000	100%
	2015	178,791	91%	123,269	91%	3,822	89%	305,882	91%
	2016	172,174	96%	124,722	101%	2,790	73%	299,686	98%
中国	2012	65,890	86%	130,976	72%	3,073	96%	199,939	76%
	2013	63,657	97%	137,782	105%	3,082	100%	204,521	102%
	2014	67,249	106%	169,715	123%	2,856	93%	239,820	117%
	2015	61,032	91%	136,490	80%	2,839	99%	200,361	84%
	2016	59,829	98%	136,646	100%	2,606	92%	199,081	99%
四国	2012	31,126	92%	0	0%	2,027	98%	33,153	92%
	2013	29,569	95%	0	0%	2,038	101%	31,607	95%
	2014	32,263	109%	0	0%	2,080	102%	34,343	109%
	2015	30,054	93%	0	0%	1,962	94%	32,016	93%
	2016	33,153	110%	0	0%	1,982	101%	35,135	110%
九州	2012	95,265	105%	87,480	76%	1,789	98%	184,534	89%
	2013	82,126	86%	86,476	99%	1,676	94%	170,278	92%
	2014	76,169	93%	94,806	110%	1,818	108%	172,793	101%
	2015	76,344	100%	87,209	92%	1,942	107%	165,495	96%
	2016	76,458	100%	90,621	104%	1,805	93%	168,884	102%
合計	2012	874,132	96%	905,855	96%	32,642	99%	1,812,629	96%
	2013	795,669	91%	919,091	101%	30,758	94%	1,745,518	96%
	2014	795,514	100%	957,224	104%	29,979	97%	1,782,717	102%
	2015	752,690	95%	863,518	90%	28,116	94%	1,644,324	92%
	2016	733,151	97%	835,680	97%	26,115	93%	1,594,946	97%

## 2012年～2016年 地区別窒素（一般）販売実績推移表

単位：千m<sup>3</sup>

地区別	西暦	液化窒素	対前年比	パイピング	対前年比	ボンベ詰	対前年比	合計	対前年比
北海道	2012	35,035	97%	24,192	99%	1,017	102%	60,244	98%
	2013	36,072	103%	23,413	97%	1,209	119%	60,694	101%
	2014	41,735	116%	21,422	91%	1,134	94%	64,291	106%
	2015	36,855	88%	16,241	76%	1,057	93%	54,153	84%
	2016	37,018	100%	16,051	99%	1,116	106%	54,185	100%
東北	2012	172,095	106%	34,399	125%	1,297	105%	207,791	108%
	2013	162,475	94%	35,159	102%	1,245	96%	198,879	96%
	2014	167,179	103%	33,284	95%	1,205	97%	201,668	101%
	2015	165,570	99%	33,716	101%	1,175	98%	200,461	99%
	2016	186,455	113%	33,992	101%	1,183	101%	221,630	111%
関東	2012	831,449	103%	911,513	98%	6,077	95%	1,749,039	100%
	2013	787,482	95%	897,311	98%	5,625	93%	1,690,418	97%
	2014	810,198	103%	876,043	98%	5,035	90%	1,691,276	100%
	2015	799,540	99%	825,424	94%	4,707	93%	1,629,671	96%
	2016	782,407	98%	775,284	94%	4,714	100%	1,562,405	96%
東海	2012	500,223	96%	356,072	109%	2,318	111%	858,613	101%
	2013	451,369	90%	340,716	96%	1,868	81%	793,953	92%
	2014	448,465	99%	341,681	100%	1,900	102%	792,046	100%
	2015	440,402	98%	297,111	87%	1,841	97%	739,354	93%
	2016	442,807	101%	274,200	92%	1,932	105%	718,939	97%
近畿	2012	391,682	90%	348,115	106%	2,930	96%	742,727	97%
	2013	350,299	89%	345,411	99%	2,721	93%	698,431	94%
	2014	358,765	102%	328,856	95%	2,504	92%	690,125	99%
	2015	360,143	100%	310,214	94%	2,330	93%	672,687	97%
	2016	369,905	103%	317,635	102%	1,759	75%	689,299	102%
中国	2012	128,088	101%	517,798	100%	823	113%	646,709	100%
	2013	118,483	93%	501,062	97%	893	109%	620,438	96%
	2014	119,079	101%	494,941	99%	979	110%	614,999	99%
	2015	105,433	89%	473,024	96%	889	91%	579,346	94%
	2016	100,870	96%	491,190	104%	1,071	120%	593,131	102%
四国	2012	46,300	106%	59,419	96%	573	91%	106,292	100%
	2013	41,567	90%	60,693	102%	549	96%	102,809	97%
	2014	41,687	100%	67,609	111%	565	103%	109,861	107%
	2015	34,544	83%	67,520	100%	565	100%	102,629	93%
	2016	36,673	106%	76,302	113%	548	97%	113,523	111%
九州	2012	160,164	101%	121,304	103%	757	95%	282,225	102%
	2013	147,964	92%	116,863	96%	732	97%	265,559	94%
	2014	161,555	109%	131,126	112%	773	106%	293,454	111%
	2015	148,670	92%	125,328	96%	734	95%	274,732	94%
	2016	157,426	106%	122,896	98%	751	102%	281,073	102%
合計	2012	2,265,036	99%	2,372,812	101%	15,792	99%	4,653,640	100%
	2013	2,095,711	93%	2,320,628	98%	14,842	94%	4,431,181	95%
	2014	2,148,663	103%	2,294,962	99%	14,095	95%	4,457,720	101%
	2015	2,091,157	97%	2,148,578	94%	13,298	94%	4,253,033	95%
	2016	2,113,561	101%	2,107,550	98%	13,074	98%	4,234,185	100%

## 2012年～2016年 地区別アルゴン（一般）販売実績推移表

単位：千m<sup>3</sup>

地区別	西暦	液化アルゴン	対前年比	パイピング	対前年比	ボンベ詰	対前年比	合計	対前年比
北海道	2012	2,455	91%	0	－	516	103%	2,971	93%
	2013	2,524	103%	0	－	492	95%	3,016	102%
	2014	2,669	106%	0	－	533	108%	3,202	106%
	2015	2,629	99%	0	－	530	99%	3,159	99%
	2016	2,580	98%	0	－	531	100%	3,111	98%
東北	2012	22,524	95%	0	－	755	117%	23,279	96%
	2013	18,188	81%	0	－	715	95%	18,903	81%
	2014	18,294	101%	0	－	788	110%	19,082	101%
	2015	18,404	101%	0	－	730	93%	19,134	100%
	2016	19,275	105%	0	－	691	95%	19,966	104%
関東	2012	48,624	101%	0	－	2,447	106%	51,071	101%
	2013	47,691	98%	0	－	2,361	96%	50,052	98%
	2014	49,524	104%	0	－	2,465	104%	51,989	104%
	2015	46,238	93%	0	－	2,354	95%	48,592	93%
	2016	47,601	103%	0	－	2,176	92%	49,777	102%
東海	2012	46,780	97%	0	－	1,544	130%	48,324	98%
	2013	43,459	93%	0	－	1,301	84%	44,760	93%
	2014	44,711	103%	0	－	1,391	107%	46,102	103%
	2015	42,982	96%	0	－	1,260	91%	44,242	96%
	2016	44,003	102%	0	－	1,164	92%	45,167	102%
近畿	2012	35,554	90%	0	－	1,614	97%	37,168	90%
	2013	34,916	98%	0	－	1,367	85%	36,283	98%
	2014	35,510	102%	0	－	1,492	109%	37,002	102%
	2015	31,021	87%	0	－	1,424	95%	32,445	88%
	2016	30,205	97%	0	－	1,227	86%	31,432	97%
中国	2012	11,099	94%	0	－	725	97%	11,824	94%
	2013	11,503	104%	0	－	676	93%	12,179	103%
	2014	12,343	107%	0	－	859	127%	13,202	108%
	2015	11,446	93%	0	－	698	81%	12,144	92%
	2016	11,521	101%	0	－	696	100%	12,217	101%
四国	2012	4,479	103%	0	－	483	107%	4,962	103%
	2013	4,240	95%	0	－	483	100%	4,723	95%
	2014	5,256	124%	0	－	515	107%	5,771	122%
	2015	4,981	95%	0	－	483	94%	5,464	95%
	2016	5,124	103%	0	－	450	93%	5,574	102%
九州	2012	18,782	85%	0	－	694	97%	19,476	85%
	2013	17,118	91%	0	－	662	95%	17,780	91%
	2014	19,852	116%	0	－	775	117%	20,627	116%
	2015	22,422	113%	0	－	698	90%	23,120	112%
	2016	22,361	100%	0	－	720	103%	23,081	100%
合計	2012	190,297	95%	0	－	8,778	107%	199,075	95%
	2013	179,637	94%	0	－	8,057	92%	187,694	94%
	2014	188,159	105%	0	－	8,818	109%	196,977	105%
	2015	180,123	96%	0	－	8,177	93%	188,300	96%
	2016	182,670	101%	0	－	7,655	94%	190,325	101%



## 業種別酸素（一般）販売実績推移表 (5年間：2012年度～2016年度)

単位：千m<sup>3</sup>

業種別	年度	液化酸素	構成比	パイピング	構成比	ポンベ詰	構成比	合計	構成比
鉄鋼業 (非鉄金属製造業を含む)	2012	150,572	19%	351,056	39%	1,435	6%	503,063	29%
	2013	153,320	19%	363,461	39%	1,227	5%	518,008	29%
	2014	165,690	21%	382,942	41%	1,243	5%	549,875	31%
	2015	172,984	23%	343,434	40%	1,231	5%	517,649	31%
	2016	176,448	23%	348,860	40%	1,089	5%	526,397	32%
輸送用機械器具製造業	2012	52,198	7%	0	0%	465	2%	52,663	3%
	2013	49,724	6%	0	0%	467	2%	50,191	3%
	2014	50,815	6%	0	0%	459	2%	51,274	3%
	2015	46,746	6%	0	0%	560	2%	47,306	3%
	2016	50,089	7%	0	0%	492	2%	50,581	3%
機械器具製造業 (輸送用機械器具製造業を除く)	2012	71,872	9%	0	0%	518	2%	72,390	4%
	2013	74,141	9%	0	0%	511	2%	74,652	4%
	2014	70,525	9%	15	0%	563	2%	71,103	4%
	2015	72,212	10%	17	0%	569	3%	72,798	4%
	2016	73,251	10%	17	0%	513	2%	73,781	4%
金属製品製造業	2012	61,387	8%	20,906	2%	774	3%	83,067	5%
	2013	46,250	6%	20,369	2%	717	3%	67,336	4%
	2014	48,618	6%	14,655	2%	772	3%	64,045	4%
	2015	43,454	6%	36,069	4%	853	4%	80,376	5%
	2016	42,693	6%	29,296	3%	836	4%	72,825	4%
化学工業	2012	47,285	6%	468,437	52%	371	1%	516,093	30%
	2013	51,197	7%	518,061	55%	327	1%	569,585	32%
	2014	51,394	7%	505,644	53%	317	1%	557,355	32%
	2015	57,624	8%	418,808	48%	445	2%	476,877	29%
	2016	54,980	7%	424,580	49%	469	2%	480,029	29%
販売業者向け	2012	142,445	18%	0	0%	15,414	60%	157,859	9%
	2013	138,455	18%	0	0%	15,447	61%	153,902	9%
	2014	137,644	17%	0	0%	14,128	58%	151,772	9%
	2015	129,141	17%	0	0%	11,899	53%	141,040	9%
	2016	149,011	20%	0	0%	10,489	46%	159,500	10%
その他	2012	273,656	34%	67,204	7%	6,766	26%	347,626	20%
	2013	270,080	34%	44,077	5%	6,721	26%	320,878	18%
	2014	266,122	34%	39,153	4%	6,790	28%	312,065	18%
	2015	241,491	32%	51,557	6%	8,616	38%	301,664	18%
	2016	210,210	28%	61,345	7%	8,767	39%	280,322	17%
合計	2012	799,415	94%	907,603	98%	25,743	94%	1,732,761	96%
	2013	783,167	98%	945,968	104%	25,417	99%	1,754,552	101%
	2014	790,808	101%	942,409	100%	24,272	95%	1,757,489	100%
	2015	763,652	97%	849,885	90%	24,173	100%	1,637,710	93%
	2016	756,682	99%	864,098	102%	22,655	93%	1,643,435	100%

\* 合計欄の構成比は対前年度比

## 業種別窒素（一般）販売実績推移表 (5年間：2012年度～2016年度)

単位：千m<sup>3</sup>

業 種 別	年度	液化窒素	構成比	パイピング	構成比	ボンベ詰	構成比	合 計	構成比
鉄 鋼 業 (非鉄金属製造業を含む)	2012	127,945	6%	161,649	7%	455	3%	290,049	7%
	2013	125,409	6%	161,855	7%	362	3%	287,626	7%
	2014	135,390	6%	162,667	7%	427	3%	298,484	7%
	2015	131,623	6%	170,607	8%	336	3%	302,566	7%
	2016	135,726	6%	182,294	8%	332	3%	318,352	7%
輸送用機械器具製造業	2012	141,496	7%	11,726	1%	445	3%	153,667	3%
	2013	144,740	7%	11,816	1%	417	3%	156,973	4%
	2014	151,549	7%	11,781	1%	459	4%	163,789	4%
	2015	150,708	7%	12,736	1%	382	3%	163,826	4%
	2016	148,945	7%	11,658	1%	367	3%	160,970	4%
電気機械器具製造業	2012	601,243	28%	432,789	19%	1,633	12%	1,035,665	23%
	2013	582,708	28%	430,538	19%	1,340	10%	1,014,586	23%
	2014	592,287	28%	432,497	20%	1,225	10%	1,026,009	24%
	2015	556,499	26%	470,711	22%	1,121	10%	1,028,331	24%
	2016	558,451	26%	497,264	23%	1,084	10%	1,056,799	25%
機械器具製造業 (輸送用、電気機械器具製造業を除く)	2012	121,497	6%	812	0%	686	5%	122,995	3%
	2013	126,889	6%	812	0%	684	5%	128,385	3%
	2014	133,901	6%	858	0%	821	7%	135,580	3%
	2015	132,905	6%	720	0%	664	6%	134,289	3%
	2016	138,668	6%	0	0%	605	5%	139,273	3%
化学工業	2012	414,695	20%	1,407,541	62%	1,006	7%	1,823,242	41%
	2013	404,879	20%	1,422,624	62%	1,036	8%	1,828,539	42%
	2014	414,938	20%	1,377,417	62%	1,013	8%	1,793,368	41%
	2015	394,777	18%	1,304,317	61%	984	9%	1,700,078	39%
	2016	382,226	18%	1,277,304	59%	1,095	10%	1,660,625	39%
食品製造業	2012	134,820	6%	0	0%	201	1%	135,021	3%
	2013	132,222	6%	0	0%	219	2%	132,441	3%
	2014	139,305	7%	0	0%	327	3%	139,632	3%
	2015	172,946	8%	0	0%	325	3%	173,271	4%
	2016	169,976	8%	0	0%	314	3%	170,290	4%
販売業者向け	2012	213,255	10%	95,498	4%	7,046	52%	315,799	7%
	2013	189,272	9%	103,160	4%	6,857	53%	299,289	7%
	2014	185,254	9%	102,876	5%	5,910	48%	294,040	7%
	2015	190,372	9%	110,714	5%	5,583	51%	306,669	7%
	2016	193,690	9%	116,275	8%	5,056	46%	315,021	7%
そ の 他	2012	367,065	17%	165,895	7%	2,170	16%	535,130	12%
	2013	351,414	17%	163,581	7%	1,952	15%	516,947	12%
	2014	347,856	17%	129,051	6%	2,170	18%	479,077	11%
	2015	389,943	18%	66,440	3%	2,208	20%	458,591	11%
	2016	417,212	19%	63,827	3%	2,189	20%	483,228	11%
合 計	2012	2,122,016	95%	2,275,910	101%	13,642	94%	4,411,568	98%
	2013	2,057,533	97%	2,294,386	101%	12,867	94%	4,364,786	99%
	2014	2,100,480	102%	2,217,147	97%	12,352	96%	4,329,979	99%
	2015	2,119,773	101%	2,136,245	96%	11,603	94%	4,267,621	99%
	2016	2,144,894	102%	2,148,622	101%	11,042	95%	4,304,558	101%

\* 合計欄の構成比は対前年度比

## 業種別アルゴン（一般）販売実績推移表 (5年間：2012年度～2016年度)

単位：千m<sup>3</sup>

業 種 別	年度	液化アルゴン	構成比	パイピング	構成比	ボンベ詰	構成比	合 計	構成比
鉄 鋼 業 (非鉄金属製造業を含む)	2012	52,094	29%	0	0%	1,004	15%	53,098	29%
	2013	52,250	29%	0	0%	997	15%	53,247	29%
	2014	57,156	31%	0	0%	1,095	15%	58,251	31%
	2015	56,731	31%	0	0%	941	13%	57,672	30%
	2016	55,042	30%	0	0%	922	13%	55,964	30%
輸送用機械器具製造業	2012	21,575	12%	0	0%	397	6%	21,972	12%
	2013	21,910	12%	0	0%	368	5%	22,278	12%
	2014	21,756	12%	0	0%	483	7%	22,239	12%
	2015	19,595	11%	0	0%	361	5%	19,956	11%
	2016	19,712	11%	0	0%	361	5%	20,073	11%
電気機械器具製造業	2012	30,173	17%	0	0%	412	6%	30,585	17%
	2013	28,179	16%	0	0%	438	7%	28,617	16%
	2014	28,072	15%	0	0%	451	6%	28,523	15%
	2015	27,006	15%	0	0%	435	6%	27,441	15%
	2016	29,626	16%	0	0%	398	6%	30,024	16%
機械器具製造業 (輸送用、電気機械器具製造業を除く)	2012	11,047	6%	0	0%	440	7%	11,487	6%
	2013	11,651	7%	0	0%	431	6%	12,082	7%
	2014	12,150	7%	0	0%	516	7%	12,666	7%
	2015	11,017	6%	0	0%	466	6%	11,483	6%
	2016	10,995	6%	0	0%	505	7%	11,500	6%
金属製品製造業	2012	11,456	6%	0	0%	396	6%	11,852	6%
	2013	11,858	7%	0	0%	377	6%	12,235	7%
	2014	12,336	7%	0	0%	540	7%	12,876	7%
	2015	12,671	7%	0	0%	442	6%	13,113	7%
	2016	12,119	7%	0	0%	405	6%	12,524	7%
化学工業	2012	5,590	3%	0	0%	212	3%	5,802	3%
	2013	5,276	3%	0	0%	247	4%	5,523	3%
	2014	4,822	3%	0	0%	206	3%	5,028	3%
	2015	4,617	3%	0	0%	223	3%	4,840	3%
	2016	4,610	3%	0	0%	208	3%	4,818	3%
販売業者向け	2012	29,347	16%	0	0%	3,258	50%	32,605	18%
	2013	30,427	17%	0	0%	3,355	50%	33,782	18%
	2014	29,248	16%	0	0%	3,388	47%	32,636	17%
	2015	27,139	15%	0	0%	3,287	45%	30,426	16%
	2016	27,608	15%	0	0%	2,892	41%	30,500	16%
そ の 他	2012	16,783	9%	0	0%	426	7%	17,209	9%
	2013	16,061	9%	0	0%	510	8%	16,571	9%
	2014	17,163	9%	0	0%	528	7%	17,691	9%
	2015	23,103	13%	0	0%	1,246	18%	24,349	13%
	2016	21,212	15%	0	0%	1,374	19%	22,586	12%
合 計	2012	178,065	93%	0	-	6,545	95%	184,610	93%
	2013	177,612	100%	0	-	6,723	103%	184,335	100%
	2014	182,703	103%	0	-	7,207	107%	189,910	103%
	2015	181,879	100%	0	-	7,401	103%	189,280	100%
	2016	180,924	99%	0	-	7,065	98%	187,989	99%

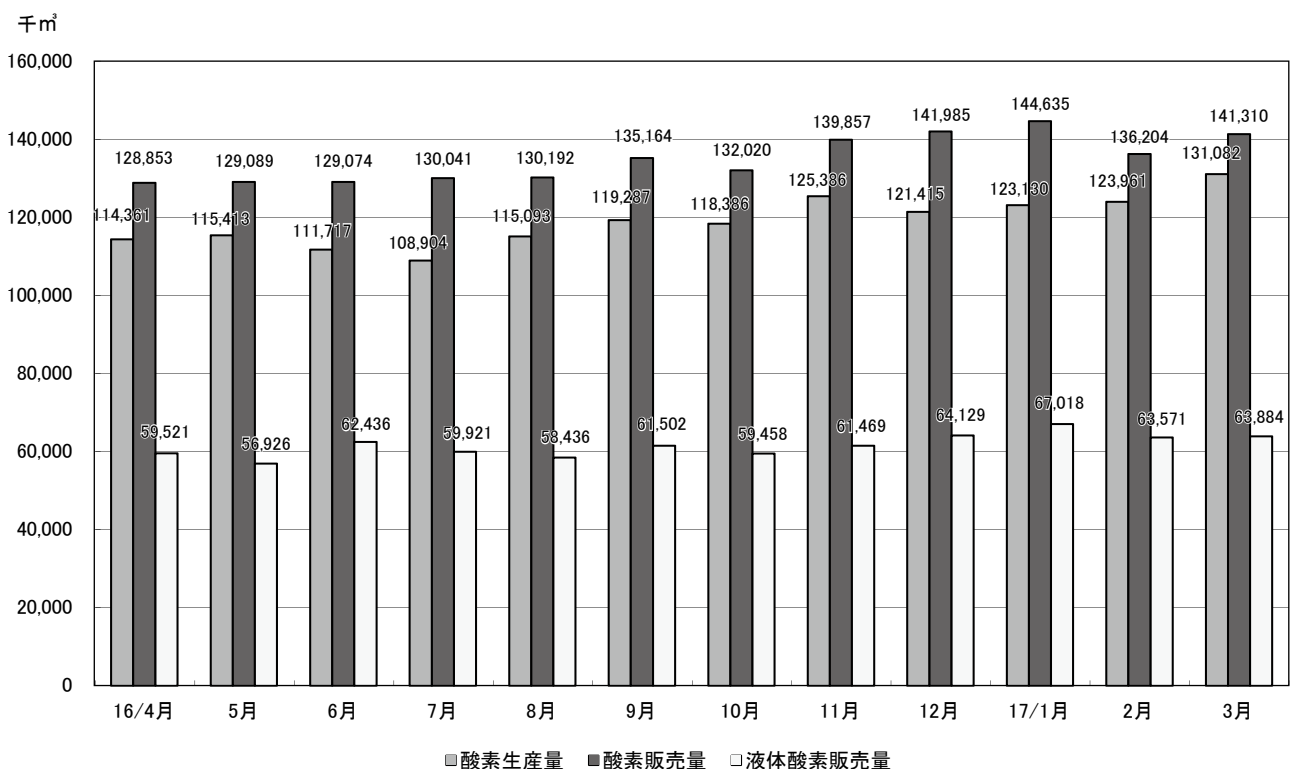
\* 合計欄の構成比は対前年度比

## 2016年4月～2017年3月 地区別酸素生産・販売実績表

単位：千m<sup>3</sup>

地区別		16/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	17/1月	2月	3月	年度合計
北海道	生産	1,121	1,100	1,183	1,194	1,089	1,077	1,114	1,138	1,123	1,094	1,109	1,213	13,555
	販売	1,945	1,929	1,947	1,878	1,879	1,904	1,859	1,908	1,902	1,866	1,895	2,012	22,924
東北	生産	4,023	3,934	4,915	4,855	4,526	3,750	4,786	4,635	4,592	4,880	4,636	5,219	54,751
	販売	10,557	10,200	10,452	11,755	10,883	10,649	10,628	10,858	13,281	11,522	10,778	11,426	132,989
関東	生産	34,796	32,389	28,613	31,660	36,067	36,153	34,266	36,390	40,199	39,339	35,901	39,796	425,569
	販売	35,304	30,448	27,536	29,373	34,925	35,276	34,776	36,865	36,341	36,859	35,172	35,965	408,840
東海	生産	21,680	26,224	25,874	24,708	22,802	26,808	27,961	27,894	27,631	26,855	28,220	28,245	314,902
	販売	23,606	29,238	28,275	28,027	25,124	28,679	28,486	29,766	28,968	28,403	29,494	28,130	336,196
近畿	生産	23,786	21,799	20,163	15,895	19,700	21,303	21,810	24,190	15,489	18,145	23,283	23,294	248,857
	販売	23,798	23,993	23,952	23,741	23,408	25,787	25,217	25,428	26,298	30,310	26,223	26,880	305,035
中国	生産	15,418	15,414	16,009	16,886	15,944	15,581	14,353	17,161	16,925	16,512	17,145	18,076	195,424
	販売	16,152	15,699	18,143	18,765	16,646	15,475	14,553	17,670	16,564	17,266	17,061	18,904	202,898
四国	生産	1,357	1,748	1,669	1,624	1,675	1,700	1,540	1,332	1,865	1,808	1,807	1,965	20,090
	販売	3,026	2,578	2,904	2,989	2,845	2,972	2,841	2,903	3,142	3,131	3,199	3,526	36,056
九州	生産	12,180	12,805	13,291	12,082	13,290	12,915	12,556	12,646	13,591	14,497	11,860	13,274	154,987
	販売	14,465	15,004	15,865	13,513	14,482	14,422	13,660	14,459	15,489	15,278	12,382	14,467	173,486
合計	生産	114,361	115,413	111,717	108,904	115,093	119,287	118,386	125,386	121,415	123,130	123,961	131,082	1,428,135
	販売	128,853	129,089	129,074	130,041	130,192	135,164	132,020	139,857	141,985	144,635	136,204	141,310	1,618,424

## 2016年4月～2017年3月 酸素生産量・一般販売実績推移グラフ

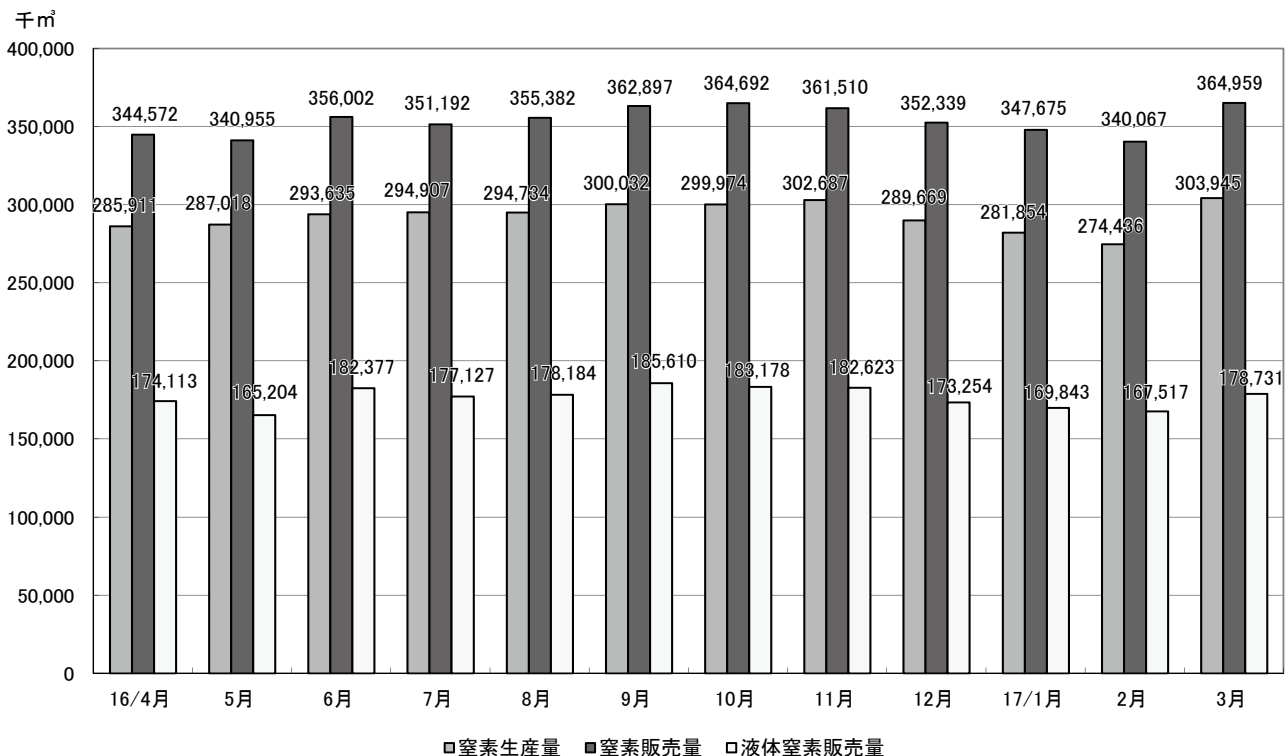


## 2016年4月～2017年3月 地区別窒素生産・販売実績表

単位：千㎡

地区別		16/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	17/1月	2月	3月	年度合計
北海道	生産	2,667	2,859	3,004	3,318	3,410	3,433	2,883	2,798	3,016	2,773	2,675	2,948	35,784
	販売	4,118	4,269	4,281	4,960	5,351	5,280	4,832	4,421	4,391	4,006	4,168	4,260	54,337
東北	生産	10,894	12,359	12,843	12,390	11,841	10,759	13,393	12,825	12,515	11,854	10,763	11,596	144,032
	販売	17,960	17,379	18,858	18,595	19,045	20,373	19,573	20,069	18,779	17,744	17,282	18,615	224,272
関東	生産	123,550	127,827	127,488	129,176	131,691	130,004	129,299	135,341	133,105	127,771	118,693	136,883	1,550,828
	販売	127,647	127,829	129,332	126,910	131,328	130,548	134,089	136,502	131,318	128,521	125,955	137,521	1,567,500
東海	生産	40,791	35,397	40,957	40,098	39,150	41,497	43,473	43,117	40,833	41,095	39,084	41,399	486,891
	販売	58,828	56,715	62,274	60,708	57,735	61,052	60,869	61,947	59,763	57,918	59,046	62,589	719,444
近畿	生産	43,927	41,703	43,238	42,750	43,697	44,006	42,544	44,080	31,953	34,561	41,168	43,225	496,852
	販売	57,258	53,837	57,385	56,686	59,431	61,176	57,222	57,784	57,235	60,478	56,467	58,714	693,673
中国	生産	34,828	34,104	32,411	34,792	34,265	38,723	35,632	32,109	34,581	31,972	31,679	35,469	410,565
	販売	47,929	48,201	49,501	49,044	49,633	52,164	54,578	46,799	48,157	47,698	47,530	51,085	592,319
四国	生産	7,848	9,272	8,962	9,454	8,954	8,505	8,929	8,945	8,593	8,040	7,341	8,368	103,211
	販売	9,005	9,566	9,513	9,948	9,320	9,010	9,597	9,950	9,075	8,313	7,871	8,727	109,895
九州	生産	21,406	23,497	24,732	22,929	21,726	23,105	23,821	23,472	25,073	23,788	23,033	24,057	280,639
	販売	21,827	23,159	24,858	24,341	23,539	23,294	23,932	24,038	23,621	22,997	21,748	23,448	280,802
合計	生産	285,911	287,018	293,635	294,907	294,734	300,032	299,974	302,687	289,669	281,854	274,436	303,945	3,508,802
	販売	344,572	340,955	356,002	351,192	355,382	362,897	364,692	361,510	352,339	347,675	340,067	364,959	4,242,242

## 2016年4月～2017年3月 窒素生産量・一般販売実績推移グラフ

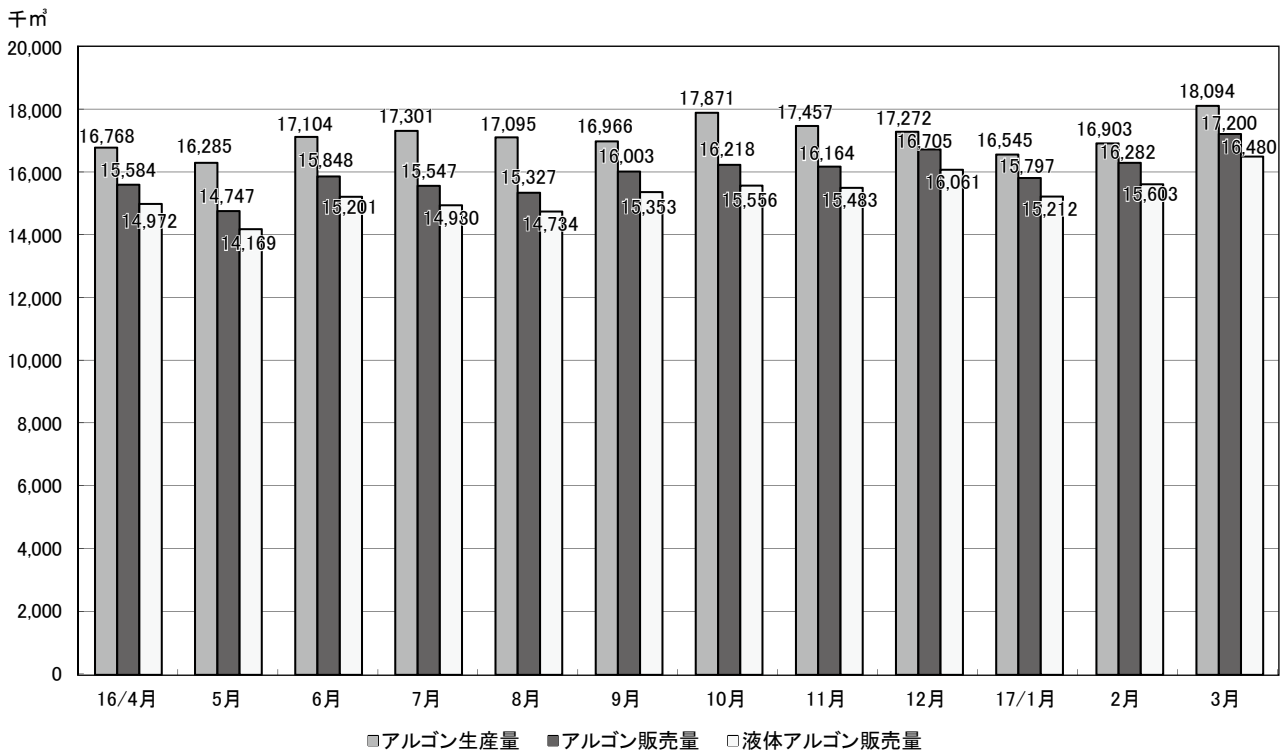


## 2016年4月～2017年3月 地区別アルゴン生産・販売実績表

単位：千m<sup>3</sup>

地区別		16/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	17/1月	2月	3月	年度合計
北海道	生産	285	282	288	310	310	299	299	284	293	298	304	296	3,548
	販売	248	246	251	272	271	268	265	261	265	271	277	268	3,163
東北	生産	251	307	317	311	309	273	334	332	321	329	315	334	3,733
	販売	1,586	1,581	1,572	1,558	1,532	1,573	1,686	1,837	2,068	1,687	1,600	1,703	19,983
関東	生産	4,718	4,613	4,612	4,846	4,641	4,570	4,787	4,974	5,109	4,758	4,690	4,987	57,305
	販売	4,147	4,016	4,232	4,087	3,932	4,117	4,331	4,178	4,264	3,955	4,233	4,496	49,988
東海	生産	3,694	3,787	4,034	3,956	3,738	3,899	4,394	4,110	4,008	3,920	4,228	4,578	48,346
	販売	3,617	3,394	3,834	3,703	3,637	3,859	3,967	3,935	3,942	4,007	4,084	4,420	46,399
近畿	生産	3,660	3,912	3,869	3,706	3,844	3,864	3,963	3,876	3,641	3,541	3,701	3,894	45,471
	販売	2,615	2,371	2,550	2,554	2,638	2,706	2,521	2,478	2,674	2,566	2,583	2,745	31,001
中国	生産	2,829	2,031	2,619	2,801	2,844	2,666	2,648	2,444	2,367	2,163	2,141	2,471	30,024
	販売	1,048	885	1,020	1,010	971	1,069	1,040	1,023	1,040	1,003	1,071	1,137	12,317
四国	生産	161	183	189	181	199	180	149	98	202	200	174	192	2,108
	販売	471	442	489	481	467	456	464	442	478	433	477	484	5,584
九州	生産	1,170	1,170	1,176	1,190	1,210	1,215	1,297	1,339	1,331	1,336	1,350	1,342	15,126
	販売	1,852	1,812	1,900	1,882	1,879	1,955	1,944	2,010	1,974	1,875	1,957	1,947	22,987
合計	生産	16,768	16,285	17,104	17,301	17,095	16,966	17,871	17,457	17,272	16,545	16,903	18,094	205,661
	販売	15,584	14,747	15,848	15,547	15,327	16,003	16,218	16,164	16,061	15,797	16,282	16,480	191,422

## 2016年4月～2017年3月 アルゴン生産量・一般販売実績推移グラフ



## 2012年度～2016年度 溶解アセチレン生産・販売実績表

単位：t

地区別		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
		数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
北海道	生産	606	95.6%	631	104.1%	611	96.8%	556	91.0%	535	96.2%
	販売	607	102.4%	630	103.8%	592	94.0%	499	84.3%	520	104.2%
東北	生産	718	104.5%	737	102.6%	691	93.8%	629	91.0%	595	94.6%
	販売	383	93.0%	372	97.1%	349	93.8%	337	96.6%	319	94.7%
関東	生産	3,466	95.3%	3,394	97.9%	3,306	97.4%	3,047	92.2%	2,952	96.9%
	販売	3,784	92.7%	3,762	99.4%	3,575	95.0%	3,343	93.5%	3,214	96.1%
北陸	生産	609	94.6%	592	97.2%	570	96.3%	544	95.4%	522	96.0%
	販売	379	92.0%	369	97.4%	361	97.8%	343	95.0%	326	95.0%
東海	生産	1,439	95.6%	1,441	100.1%	1,425	98.9%	1,360	95.4%	1,300	95.6%
	販売	1,583	95.2%	1,485	93.8%	1,417	95.4%	1,344	94.8%	1,269	94.4%
近畿	生産	1,857	98.8%	1,815	97.7%	1,761	97.0%	1,663	94.4%	1,564	94.0%
	販売	2,272	96.4%	2,140	94.2%	2,036	95.1%	1,919	94.3%	1,809	94.3%
中国	生産	1,396	92.5%	1,394	99.9%	1,357	97.3%	1,307	96.3%	1,267	96.9%
	販売	1,451	100.1%	1,758	121.2%	1,674	95.2%	1,371	81.9%	1,200	87.5%
四国	生産	117	44.7%	119	101.7%	118	99.2%	107	90.7%	113	105.6%
	販売	457	74.6%	166	36.3%	160	96.4%	150	93.8%	158	105.3%
九州	生産	1,060	99.4%	1,058	99.8%	1,044	98.7%	971	93.0%	977	100.6%
	販売	1,214	77.8%	1,180	97.2%	1,163	98.6%	1,133	97.4%	1,103	97.4%
合計	生産	11,268	95.3%	11,181	99.2%	10,883	97.3%	10,184	93.6%	9,825	96.5%
	販売	12,130	94.0%	11,863	97.8%	11,327	95.5%	10,439	92.2%	9,918	95.0%

## 2012年度～2016年度 液化炭酸ガス工場出荷・用途別販売実績推移表

単位：t

年度	工場出荷量	前年比	用途別販売実績割合					
			溶接用	飲料用	冷却用	製鋼用	化学用	その他
2012年度	674,691	94%	50%	16%	11%	5%	10%	8%
2013年度	674,094	100%	50%	17%	12%	6%	8%	7%
2014年度	673,049	100%	50%	16%	12%	6%	8%	8%
2015年度	737,871	110%	49%	17%	11%	6%	8%	9%
2016年度	747,109	101%	48%	17%	11%	6%	8%	11%

# 2012年～2016年 主要半導体材料ガス等国内販売実績推移表

単位：kg

番号	ガス名称	化学記号	2012年		2013年		2014年		2015年		2016年	
			需要量	前年比	需要量	前年比	需要量	前年比	需要量	前年比	需要量	前年比
1	アルシン	AsH <sub>3</sub>	13,300	81%	10,800	81%	9,800	91%	11,800	120%	11,200	95%
2	ジボラン	B <sub>2</sub> H <sub>6</sub>	390	72%	680	174%	390	57%	360	92%	450	125%
3	三塩化ホウ素	BCl <sub>3</sub>	105,400	87%	102,900	98%	126,700	123%	145,800	100%	146,300	100%
4	四フッ化炭素	CF <sub>4</sub>	484,300	98%	500,600	103%	565,200	113%	535,300	95%	631,800	118%
5	三フッ化メタン	CHF <sub>3</sub>	78,300	98%	82,900	106%	84,900	102%	97,200	114%	93,500	96%
6	六フッ化エタン	C <sub>2</sub> F <sub>6</sub>	206,300	91%	175,500	85%	131,800	75%	169,500	129%	178,400	105%
7	八フッ化シクロブタン	C <sub>4</sub> F <sub>8</sub>	51,800	107%	56,100	108%	65,000	116%	51,500	79%	83,700	163%
8	塩素	Cl <sub>2</sub>	255,800	74%	274,000	107%	307,100	112%	352,000	115%	356,200	101%
9	ゲルマン	GeH <sub>4</sub>	240	100%	240	100%	240	100%	240	100%	240	100%
10	臭化水素	HBr	95,000	89%	91,600	96%	125,400	137%	157,300	125%	164,400	105%
11	アンモニア	NH <sub>3</sub>	2,842,200	114%	2,919,000	103%	3,442,600	118%	3,697,000	107%	3,522,700	95%
12	三フッ化窒素	NF <sub>3</sub>	1,588,800	97%	1,694,200	107%	1,717,600	101%	1,817,400	106%	1,634,000	90%
13	一酸化二窒素	N <sub>2</sub> O	739,500	125%	951,300	129%	992,500	104%	1,129,200	114%	1,219,500	108%
14	ホスフィン	PH <sub>3</sub>	11,500	93%	8,000	70%	8,300	104%	6,700	81%	6,900	103%
15	モノシラン	SiH <sub>4</sub>	323,500	60%	373,700	116%	424,700	114%	398,200	94%	316,400	79%
16	ジクロロシラン	SiH <sub>2</sub> Cl <sub>2</sub>	166,100	96%	256,300	154%	172,800	67%	239,300	138%	187,600	78%
17	四フッ化ケイ素	SiF <sub>4</sub>	6,000	105%	5,400	90%	5,400	100%	5,400	100%	6,500	120%
18	TEOS	(C <sub>2</sub> H <sub>5</sub> O) <sub>4</sub> Si	399,600	98%	380,800	95%	421,900	111%	441,800	105%	490,500	111%
19	六フッ化硫黄	SF <sub>6</sub>	243,000	91%	240,000	99%	211,000	88%	208,000	99%	210,000	101%
20	六フッ化タンガステン	WF <sub>6</sub>	100,000	97%	95,000	95%	105,000	111%	115,000	110%	121,000	105%
21	有機金属		3,040	109%	2,250	74%	2,090	93%	2,510	120%	2,100	84%
22	その他ガス	H <sub>2</sub> Se BF <sub>3</sub> 、Si <sub>2</sub> H <sub>6</sub> SiHCl <sub>3</sub> 等										
年間需要金額 (単位：億円)			534	87%	522	98%	526	101%	573	109%	544	95%

※2015年の六フッ化エタンの需要量に誤りがありましたので修正いたしました。



## 2012年～2016年 標準ガス国内販売実績推移表

単位：本

品 目	2012年		2013年		2014年		2015年		2016年	
	本数	伸び率	本数	伸び率	本数	伸び率	本数	伸び率	本数	伸び率
一酸化炭素 (CO) 標準ガス	12,500	98%	13,000	104%	12,600	97%	12,400	98%	12,600	102%
二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> ) 標準ガス	7,900	78%	8,100	103%	8,300	102%	7,900	95%	8,600	109%
二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> ) 標準ガス	6,600	99%	6,800	103%	6,800	100%	6,900	101%	6,400	93%
一酸化窒素 (NO) 標準ガス	17,900	99%	17,500	98%	18,100	103%	19,000	105%	16,600	87%
酸素 (O <sub>2</sub> ) 標準ガス	15,000	103%	14,700	98%	14,700	100%	14,400	98%	15,100	105%
炭化水素 (HC) 標準ガス	11,100	97%	11,100	100%	11,300	102%	11,400	101%	13,800	121%
その他 標準ガス	46,200	95%	43,500	94%	45,500	105%	45,900	101%	42,200	92%
標準ガス合計	117,200	96%	114,700	98%	117,300	102%	117,900	101%	115,300	98%
ゼロガス	6,600	102%	6,100	92%	6,200	102%	6,400	103%	6,100	95%
標準ガス、ゼロガス合計	123,800	96%	120,800	98%	123,500	102%	124,300	101%	121,400	98%
金額	32億円	97%	31億円	97%	32億円	103%	32億円	100%	31億円	97%

## 2012年～2016年 圧縮水素出荷実績推移表

単位：千m<sup>3</sup>

分 野	2012年		2013年		2014年		2015年		2016年	
	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比
弱 電	34,337	85%	29,635	86%	25,586	86%	24,271	95%	25,056	103%
化 学	16,819	105%	13,645	81%	14,361	105%	14,406	100%	14,283	99%
金 属	22,301	88%	22,201	100%	23,775	107%	19,401	82%	18,328	94%
硝 子	9,540	64%	7,938	83%	6,776	85%	8,201	121%	11,826	144%
その他	18,629	90%	17,769	95%	14,073	79%	13,357	95%	13,548	101%
合 計	101,626	86%	91,188	90%	84,571	93%	79,636	94%	83,041	104%

## 編集後記

平成29年JIMGA定時総会には厚生労働省神田医政局長様、経済産業省佐藤大臣官房審議官様をはじめ、多くのご来賓の方々にご出席賜りました。また、「JIMGA懇親会出席指数112」の330名近い皆様にご出席賜り、中締めまでご歓談いただいたことを改めて御礼申し上げます。

「産業ガスレポート」は、2000年秋に当時の日本産業ガス協会(JIGA)より創刊されました。その後日本産業・医療ガス協会(JIMGA)として本誌を発行したのが、ちょうど10年前の2007年秋号Vol.15です。このVol.15では特集号として、発足総会の模様や新生JIMGAの概要、組織等の記事と共に、地域本部からのJIGA時代の活動報告や新組織設立総会報告など、医療ガスと産業ガスの協会が一つになることで一回りも二回りも大きくなっていく様が見て取れます。

その後もMGR制度の導入、CRC西日本の稼働、アセチレン容器の自主廃棄基準の制定、容器RFタグ本格検討開始など、その時代に組織を挙げて取り組んだ技術課題の進捗状況が記載されています。

その中でも創刊当時から今号まで、脈々と受け繋がれているテーマに「保安の確保」があります。このテーマはこれで完了という事は無く、保安への取り組みを継続する必要性に改めて気づかされました。

本号のエッセイでは矢原副会長にご寄稿をいただきました。テニスやゴルフに真摯に取り組まれつつ、仲間や自然との時間を丸ごとエンジョイされている様子が生き活きと伝わってきます。そして真剣勝負のコートの中でもやはり「安全第一!」とおっしゃっています。

安全運動にはいろいろな手立てがあると思います。事故を起こさないために、法律があり、講習会の受講や資格試験の受験、保護具や安全装

置を使用することもそうです。それでも毎号の編集後記を書きながら、何かが足りないなと思っていたところ、最近出くわした二つの出来事で気が付いたことがあります。それは「勇気とお節介」です。

協会本部の近所で通っている歯医者さんの治療椅子の足元に、酸素ボンベがずーっと置かれており、ラベルは茶色に変色して、瓶の肩口や減圧弁も埃だらけでゲージは少し錆びが浮いていました。治療よりもそのことの方が気持ちが悪く、治療最終日に容器を見せてもらおうと20年近く前に川口で充填されたもので、すぐに医療機器納入業者に引き取ってもらいました。

またある日の夕方、これも事務所の近くの焼き肉屋の店先で轟々と音を立てて炭火を起こしている横に、配達されたばかりの炭酸ガスの小容器が置かれていました。こんなんであんなか? …と思ったものの通り過ぎて芝パークホテルの前まで歩いたところで、やっぱりあかん、と引き返しました。焼き肉屋の扉を開いて「お店の責任者いますか?」と声を出すまでの8分間、勇気と躊躇が交錯しました。

ガスを取り扱う(作る、運ぶ、売る、管理する、経営する)みんなで身近で高压ガスの保安・危険について何か感じたら声を掛ける。皆さんはこれをガス屋として当たり前のことだよと言われるでしょうが、いざとなると私は結構心臓がドキドキ少し躊躇もしました。40年近くこの業界にいますが、ここで白状します。

JIMGA発足10周年記念行事としては、本誌やJIMGAnews等での特別企画やこれまでの各WGの取り組みや成果物の紹介などを考えています。また地域本部主催の講習会や好評をいただいている定時総会前の技術セミナー等でもこれまで以上に充実した内容をお届けし、発足10年から次の10年を見据えた企画を展開できればと考えています。是非ご期待ください。(HN)





会誌「産業ガスレポート」 Vol.37 (2017年秋号)

発行所：一般社団法人 日本産業・医療ガス協会  
編集発行人：永江 裕

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-8-13 サクセス芝大門ビル 4 階  
TEL : 03-5425-2255 FAX : 03-5425-2256  
URL : <http://www.jimga.or.jp>

2017年9月発行